青鞜

新年號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

新年號目次

哀調百二十章（短歌）　一　三ケ島葭
荒れたる禮拜堂（飜譯）　二五　山田わか譯
冬（小說）　三六　小林かつ
女房始め（小說）　四六　上野葉
旋頭試作（短歌）　八二　柴田かよ
成長の後に（小說）　八四　山田邦子
死の前の粧ひ（小說）　九五　安田皐月

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜と私（手紙）　二〇　らいてう

青鞜を引繼ぐに就て　一三五　野枝

折にふれて（日記より）　一五四　岡田ゆき

雜記帳より　一五八　里見マツノ

雜感　一六一　出口郁

編輯室より　一六五　野枝

附錄

ソニヤ・コヴァレフスキィ（飜譯）　一　野上彌生子譯

知識の樹の果（研究）　八二　小倉淸三郎

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

哀調百二十章―三ケ島葭

秋くればわれもかなしやそらに照る日のなつかしくあふぎみらるる
このこころみづから責むる日の久しなほ何者のさばき待たんや
ふたりにてくるしむことはつかのまもたへがたきにやなみだながるる
このときのかかるこころはきみも知るとおもふほどにおもひあがりぬ
きみあればなぐさむといふかなしみにきのふもけふもみたさるるかな
このひとをむしろうたんとおもひしはわれにながるるなみだなりけん
草木にもわがきづつけしあやまちをおぼえて身をばいためゆくかな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

くるひ哭くこゑもうらみもききぬべき强者のまへにわれのもだせる

ひとすぢの黄なるゆふひのながれきてふるきたたみのにほふ秋かな

みづからのたのまれざるをつゆしらずまたるるものとあせるあはれさ

つひには欺くちからもうせなんとおもふこの身に秋の風吹く

名も知らぬひとりのかげをうしなひてむねも荒野となりにけるかな

あはれこのゆききもおもふままならぬみちはいまなほゆめにつづける

かばかりになみだもろくもなれる身をきみにかこちてひとりとがめず

すべなさにこころぞとほくはしるなりあこがれびとをかたはらにして

わがこころしづかにまつはたへがたしわするるはなほ哀しかるらむ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ああくしき運命かなとたはむれてかかるさまさへかなしみとせず

こしかたをいかにみまがひさちうすき身とこのごろをかこつこころぞ

をりあしく降る雨をみてすべなしといふひとこともあはれなるかな

みづからがあさくみるもののきくもののさびしきままにさびしくなりぬ

うきごとにこひのむくひと身をおもふそのこころもてこひをもとむる

黄菊など咲きそめしよりわが庭のここちもなさず寂しうなりぬ

いかにしてわれは醒むべきかなしさをつれなさとするこのうらみより

なにごとかおもはばやまんわが涙日さへわかたずしじにながるる

ねむるともさむるともなきまぼろしのあひにながるるわがなみだかな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

まごころをささげつくすもいまここに倒れてなにの甲斐かあるべき

夏來れど白き衣をとりいでず寺にすめどもすみぞめもきず

（夏のなかばわれは水郷松江の古寺にありき）

ひとたびもとりすがりたることなききみもあやしとおもひたまふや

たへがたしみにくきわれをおもふとてきみさへひとをはばかるといふ

かのをとめいまもしきみがことのはをまことときかばいかがなすべき

とぶちからうせつる鳥の胸毛さへ風にそよぎぬなんぞかなしき

ふりつづく雨の音さへあたらしくみみにはづみてねむるひまなし

いねがたき夜のすさびにおもひたることをもすてずしるすはかなさ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ことさらに一日二日をきみがためむなしくしたるわれならなくに

たのしさを身もておほふにことならぬわが世のくらくあぢきなきかな

このごろのきみがたはむれわかれてはかなしきゆめをみせたまふかな

みづからにとほざからんとおもふさがありて身うちのものを憎みぬ

たまさかにこころ躍れば小糠蚤白布にまぎれ飛ぶここちすれ

ひとすぢの電線ひくく青空のもとにたるめる郊外の秋

愁みな唇となるあかつきの火のくちづけをたれかうくべき

ひとしづくあつき血しほをもとめなばいえなんものをけふもなやめる

ねむりもておのれのうさをいなまんとすれば夢こそ哀しかりけれ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ひとりゐてこころにきたるものまつは世のうさよりも苦しかりけり

つゆ晴れのすがすがしさよいまわれのまつてふことはひともわすれん

いつまでもものおもふべきわれならん明日を知りうる身ならねど哭く

さばかりもおもはれてある身ならずとわがひとすぢに怒るをかしさ

ここちよくわれにそがひてよこたはるきみみておもふ天の川かな

流れゆくことばはなきやおぎなひて解かるるをまつこころもどかし

あひあれば心きみよりいでて働くみ空も狭しこひもちさしと

ああ日ごとわれにかさなる憂きことになほ馴るる日のあらんかと待つ

ちからえつかくおもはではいささかの坂にもわれはむかひがたきか

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なにはあれそのときはやく恨まるるわが身とこそは知るべかりけれ

まさりたるちからもなくてあらがへるをかしさつづき哭くよしもなし

きみとゐてなほ待つもののあるごときこころのつくるさまざまのかげ

わがよわさもとゐとなりてそむかるるいやはてにさへ涙流るる

とこしへに消えじとおもふゆめなれどただみづからのものと知るかな

ものいはずほほゑむひとのありて身の責めらるるまでわれの歎かる

旅の歌書きて焼かせし楽焼の皿もてあそぶやみこやすひと

なみだをばなみよるごとくたまゆらにこのこころをばなごませたまふ

世にあればかはる夏にもあふものか蟬の音きかず白百合をみず

Digitized by Google UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

（われは六年あまり山にありき）

いかばかりきみにもとむることおほき身ならん時に捨てよとぞ云ふ

妻となりなにうばはれしをとめごの日のさいはひをここにして知る

美しきゆめの疲れか知らねどもあまりにたゆきわがねざめかな

おのれすらみつる日のなしきみがためあけくれ千々にくだくこころの

つかのまのよろこびながらなにもののみがたきまでにわれをおなひぬ

ひたすらにわくこひしさのかたちするこのよろこびもきみに因るらし

君のよく眠るうれしさ起こさじとひとり足音もたてぬさびしさ

わがために悶ゆることもあるまじききみ痩せましぬいかにとかせん

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なるままになれといふまで馴れつるはただあけくれの飯炊ぐこと

けだるさよ身に喰ひ入りしいましめを切り放たれしここちさへする

ああさなりかの日はついにかへすすべあらざりけりな君にうなづく

いひがたきこころとなりぬ街ゆけば買ふべきもののことのみおもふ

あらがひてここちよかりし身のやがてこころ苦しくなりにけるかな

さばかりの心もなくてふと洩らすならはしゆゑの妬ごとかな

身をよせてこころゆるめば男さへ甲斐なくこそはおもはるるなれ

なつかしげおもひでかたる君みれば生くてふことも寂しくなりぬ

さばかりのくるしさならぬゆうべさへ死ぬべくなやむおのれなりけり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

むしろわがよろこびなりしことにさへ悶えしはわが癖にかありけん

なみだしてきみに恥づる日やうやくに身のさいはひを知りてまた泣く

のちの日のふたりの悔と知りながら身をゆづるこそ哀しかりけれ

うつくしきもののまへにも苦しさのあればおのれの身をのみおもふ

わがものとおもひたる日もあらずしてきみを甲斐なきをとこぞいふ

あきらめかまさるたのみかあららかに言はるることもうしとおもはず

よろこびてひとり寝し夜にみとほせし寂しき夢をいかが告げまし

海こえしかのとつくにのみだれにも身のかかはるはあはれなるかな

さばしさにこゑもたてえぬものとのみおもへる身こそうち哭かれぬれ

みこころのときえぬままにあなどるかかなしきわれとなりにけらしな

あはれまたかなしみ來るわれ瞳閉ぢそのすぎゆくを待ちて君見ん

戀しさのあまりきみよりのがるるもぞかしからましいかがすべけん

けふもなほこひしさあまりふるふ手をしばし休めと放たるかな

やうやくにたどりつきたるうれしさよきみにまたるるそれにおとらず

ものをすらききえぬしげきことのまにやさしきひとをみるはいたまし

みづからを捨てにゆくべきちからだにあらばやよもにひかれつつ生く

はぢらひてうちいでざれば隱すことある身のごとく卑めるかな

前兆とおもはるることごとくしりぞけつれどわざはひのみゆ

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

放たれしこころはあはれあくがれしものにもふれずましぐらにゆく

われに悔無きやといひてものものしきみははづかにひとりなぐさむ

はめなどを洗ふ家のみうちつづく嵐のあとの街のさびしさ

たちまちによろめくものをこころ身に添はすありぬと歎きつるかな

いささかのあやまちなればはてしなく悔ひて身をすらめでがたきひと

たのむべきもののみいづればしらざりしわがあはれさのしじにあらはる

みづからをおもひそむべきときなるやわかれといへばさびしきものを

酔ふほどのさいはひありしこころともおもひてありぬ疲れて死ぬを

このごろのこころいかにとひたまふそのこころこそきかまほしけれ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

はづるなきわれぞとおもふこのこころあやまれるかもなみだながるる

秋ふけし有明月のひかりをもねむさまぎれにみる身となりぬ

わがとこのせまきをわすれおほらかにぬるさまよしとおもひけるかな

ひとゆゑのうれひのなかにおのがみをなげきそめつるくるほしさかな

ねよといふひとのことばをつれなしとうらめるほどにうたたねをする

ものいはでひとのこころをそこなへるこのくるしさにわれや死ぬべき

いとむごきわれのうつるや手をうちて犠牲にむかへばなみだ流るる

おのづからいざなはるるとおのれよりそそぐこころふたかたに生く

きめあればくるほしきかなきみなくばいのちうすともあきらめましを

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ものおもひするにたへざるかよわさとのどかなりける身をもうらみし

かなしみになれきつる身はこころよき日をことなしとあぢきなかりぬ

またあれとねがふならねどこしかたとなればうれひもなつかしきかな

追はれてはいづるがごときここちしてわれのながむるをちかたの空

いさぎよくわかれあたはぬみづからのこのこころこそみじめなりけれ

魔氣にさへ擊たれえぬ身となりにけり苦るしきままに投げやりをれば

のがれえぬわざはひなどにむねさわぐときのみおのれ生くるここちす

—以 上—

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

荒れた禮拜堂――シュライネル

壁にあつた裝飾物は殆んど皆無くなつて今殘つて居るのは十字架を負ふた朱の衣の基督と、顏の擦れた淨き幼時の基督の像と、淺黃と赤で彩つた聖母マリヤの像と、それから羅馬の兵士と繩を付けられた基督だけであります。屋根はすつかり、とれて居て頭の上には美しい藍色のイタリーの空が光つてゐます。壁の所々は雨のために穴があいたり、漆喰がはがれたりしてゐます。此の禮拜堂は、四六時中、麓に浪を打ちつけてゐる此の岬の上に孤立してゐます。或る人は、此れはずつと以前、恐しい疫病の流行つた時、下の島に住んで居た僧侶が病人を連れて來るために建てたのだとも、云ひますし又或る人は、此れは通りがゝりの旅僧達が立ちよつて祈りをするために建てられたものだとも云ふてゐます。が今は誰も祈りをするために此處へ立ちよる人もなく又看護されるために來る病人もありません。

此の禮拜堂の後に昔からの羅馬の道路が一筋流れてゐますがもし夏の暑い日に一人其處

へ登つて行つて靜かに坐つて居るなら私達は恰も古代の羅馬へ引きもどされて敷石の上にひゞく羅馬の軍人の足音や、軍勢を率ゐたハンニバルが道なき叢林をつき破つて押しよせて來るのを聞くやうな心地が致します。けれども今は全く靜かです。時々、煉瓦を敷きつめた其の道の上に騾馬の足音がして、其の背の馱籃の間へ乘つた、農夫の娘が通ります。或ひは又頭の上へ草把を載せた老女が通つたり、山賊のやうな顏をした男が榛きれを澤山抱へて急ぎ足で行き過ぎたりします。が其の外には全く何物もなく、此の禮拜堂は二ッの內海の間の此の岬の上に孤立してゐて、その麓の浪の音を聞いてゐます。

私は或る冬の日、日中の太陽が暑い位其の羅馬の道の煉瓦を照らしてゐる時此處迄參りましたが、其の時は旣でに疲れては居たし、其れからの道は險しいやうにも思へたので私は此の禮拜堂の中へ入つてそして破れた窓から海の上を眺めました。靑い〳〵水を越へて遙か向ふに町や村が赤い或ひは白い點のやうに山の麓に見へて居ます。そして空高く聳へた、霞むだ山の頂上は雲の中にかくれたり現れたりしてゐます。そして其の山は私を招いで居るやうに見えます。けれども私は其の山と私との間に決して〳〵橋のかゝらない事を知つて居ます。私は手をかざして暫く眺めて居ましたが、しまいには見るに堪へられなくなつて顏をそむけてしまいました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私は荒れた禮拜堂の中を彼方此方と歩いて十字架を負ふた基督や、幼時の基督や、又羅馬の兵士や、基督の結へられた手や、それから又造り付けのオルガンの破れた一部なぞを見た後に入口の方へ出て行つて其處の石の上へ腰をかけました。そして直ぐ下を見下すと、オリーブの木にまるで埋まつたやうになつて白い家々が海沿ひに並んでゐました。水は岸を沿ふてうすい、白い泡の線を長く引いてゐました。膝に肘をついて其を眺めて居た私は疲れて居ました。非常に疲れて居たのです。其れは其の日の太陽の熱、又は其の道の煉瓦の上に輝いて居る太陽の光よりも古い疲勞のやうに思へました。私は膝の上に頭を載せて、三百尺の下でざわついて居る浪の音や、オリーブの木、禮拜堂の弓形門の中をがさつて居る風の音を聞いて居ましたが其のうちに睡つてしまいました。そして夢を見もました。

一人の人がしきりに神に向つて何にか叫んで居ました。すると神は其の人を助けるために天使を一人地上へ送りました。けれども其の天使はぢきに神の許に返つて來て

『私は彼を救ふ事が出來ません』

と申ました。

『一體彼はどうしたのだ』

と神樣は御聞きになりました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『彼は誰やらから害を受けたのだそうです。そして其の害をした奴を彼は許してやろうと心のうちでは思ひながらどうしても許してやる事が出來ないそうです。それで彼は我と我が心の自由にならぬのを苦しんで絶へず叫んで居るのです』

『汝は彼のために何をして來たか?!』

『私は出來るだけ盡力して見ました。私は彼の手を取つて「よく心を落ち付けて考へて見よ、もしお前が、ひそかに、其の害をした人に悟られぬやうに、彼のためを謀つて見るがいゝ、たとへば他の人が彼の惡口を云ふ場合には彼を辯護し譽めたゝえ、又自分の所有品のうちに貴重なものがあれば惜しまず其れを分ち與へると云ふ風にして居たなら逐ひには彼をよく理解する事が出來、隨つて彼を許す事が出來るやうになる」と云ひ聞かせました。すると彼は「そう致しませう」と申ました。けれどもそれから暫くして、或る晩私が暗い中を歩いて居ますと私は又彼が何にか叫んで居るのを聞きました。近づいて見ると彼はこう獨言して居ました。「私はいろ〳〵の事をして見た。けれども何にもならない。私は出來るだけ彼を譽めて見た。けれども何にもなりはしない。もしも私の心臓の血を取つて彼に分け與へたとしても私の此の心に燃へる腹立ちは減りはしない。私は許す事は出來ない、オー神よ、私は許す事は出來ない」と私は彼の側へ行き「よく、心をしつめて汝の過去を

振り返つて見よ、そして汝の子供の時からの過失又は邪行を眺めて見よ。そうすると凡ての人は皆汝の兄弟である事が分つて來る。人を嫌ふ權利を持つ程汝は無罪なものではないと云ふ事が分つて來る」と敎へてやりました。すると彼は私の顏を眺めながら「それに違ひはありません。私にも多くの過失はありました。私は兄弟を許しませう。どうぞ行つて下さい。私は滿足致しました、私は許してやります」こう云つて彼は心靜かに橫り、そして胸の上に兩手を組み合せて居ました。私はすッかり安心して其處を立ち去ろうとしました。けれども私が、私の翼を動かし始めるか始めないうちに私は又地上で「私は許す事が出來ない、オー神よ、神よ、私は許す、許す事が出來ない、こんなに人を嫌ふよりも、むしろ死にたい、オー私は許す事は出來ない、出來ない！」と彼が叫ぶのを聞きました。私は彼の家の戶口に立ち彼の獨語するのを聞いて居ました。彼は「私自身はそれ程罪を犯しては居ない、彼奴を許さねばならぬ程それ程私に罪はない。もし私が兄弟の身體を少しでも害したとしても私は其の兄弟の傷が癒ゆる迄ひざまづいて、此の口で接吻して居た。私は人が私を嫌ふために其の人の靈魂を失はせるやうな事はせぬ。もし私が彼等を害したやうに彼等が想像だけでもするやうな事があれば私は彼等の前に、大地にひれ伏して彼等の足蹴を甘じて居た。だから彼等は私の屈從を見て私を憫み、許し、そして私を嫌ふために

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

靈魂を失ひはしなかつた。だのに彼等は私の魂が危くなつても其れを救ふとはして呉れない、彼等は私が彼奴を許す事が出來るやうには仕向けて呉れない」とつぶやいて居ました。私は彼の側へ行つて「そんなら、それで打捨つて置いたら、いゝではないか。許されなければ許さずに置くがいゝ、そして魂に付いても又受けた害に付いても思ひ起さないやうにして居るがいゝ。恐らくは次の世で……」こう云ふと彼は急いで私の言葉を遮つて「あちらへ行つて下さい、あなたは何にも理解しては下さらない。次の世が何ですか？ 私は今、現在迷ふて居る。輝く日光を見る事すら出來ない。私の喉にい塵がつかへて、目には砂が入つて居る。あちらへ行つて下さい。あなたは何にも知らないのだ。オー、もう一度私は此の世の美しいのを見て死にたい。オー、神よ〳〵私は生きて居る事も出來ず、愛す事も出來ず、嫌ふ事も出來ない。オー、神よ〳〵」と絶叫して居るのです。私は手のつけやうがありませんから其のまゝ彼を殘して歸つて來ました』

一部始終を聞いて居た神は

『彼の魂はどうしても救ふてやらなければならない』

と申ました。天使は

『どう云ふ風にしにてゝすか？』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と聞きました。

『下界して救ふてやれ』

『あれ以上、私は何をしたらいゝでせう?』

ともう一度天使が聞き返した時に神は顔を前へつき出して天使の耳へ何事かをさゝやきました。天使は翼を擴げて下界して行きました。

私は膝に頭をつけて石の上へ坐つたまゝ半分目をさましましたが疲勞が烈しくて起き上る事が出來ません。オリーブの木の間を行く風の音を聞きながら又睡つてしまいました。

天使は悲哀に沈む彼の手を取り或る場所へ導いて行きました。けれども何處へ天使が自分を連れて行かうとするのか又何を自分に見せようとして居るのか彼は少しも知らずに居ました。途中、天使は其の翼で彼の目を覆ふて居ましたが、彼の目から其の翼がとれた時彼は彼の前の地上に動く何物かを見ました。それは、神が其の天使に、人間の靈魂を裸體にする力を授けたのでした。則ち人間を一人々々區別して居る、外形なる年齢性及び人種の違ひなぞを取り除けてしまつた赤裸の靈魂を彼は目の前に見たのです。丁度、人が自分の内心を深く見詰る時のやうに。

彼は其の靈魂の過去を見ました。その幼年時代、一滴の露を載せて居る小さい生命、そ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の露の鎔けつゝある青年期、小さいその口を開いてその口には大きすぎるカップから、まわりに水をこぼしながら、水を呑んで居る處、又は到底遂し難い望みを抱いて居た時、德義上の罪惡と稱する知的盲目の行爲を敢てする時期、又は正義と稱し、內心を吐露する輝いた時代、或ひは又、『己は全知全能な者である』と叫びながら躍上がつた力の時代、又は地上に倒れて、唯、塵芥のみを握り悲しんで居る意氣地ない時代だの、或ひは又取り返しのならぬ事に後悔して居る悲慘な有樣なぞを見ました。彼は顏を突出して、熱心に其を眺めて居ました。やがて天使が

『汝が今見たのは、あれは何にか？』

『あれは私です！　私自身です！』

と云つて彼は其の靈魂の方へと步き出しました。恰も彼自身の胸へ其の靈魂を抱きしめやうとするやうに。けれども天使を押へ、再び彼の目を覆ふて了ひました。

さて、神はもう一度其の天使に力を授けて、其の靈魂から境遇、時代、場所を取り除け、そうして一個の生命を全生命から區別して居る境をとつてしまいました。天使が此度彼の目から翼を取つた時には、彼は彼の眼前に、全宇宙を映した小さい露の玉を見ました。彼は其の露の玉の中に、地球から星へ行く階段を見ました。又人間の目の屆かない地面の下

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に、如何にして水晶が成長しつゝあるかをも見ました。又彼は卵の中の胚種を刺戟し、新たに生れた嬰兒の小さな指を動し、木の葉を上に向はしめ、水母(くらげ)を日あたりのいゝ海の中に游がしめ、山の岩に地衣(コケ)を生ぜしむるものをも其の中に見ました。天使は彼の肩に手をかけましたが彼は頭をたれて震へて居ました。そして

『あれは神樣です！』

とさゝやきました。天使はもう一度彼の目を覆ひましたが此度其の目を開けてやつた時には、彼は自分を少し離れて歩いて居る人を見ました。それは天使が今迄赤裸にして見せて居た靈魂に其の外部の形と衣を着せたのでありました。彼は其の人が誰であるかを直ぐに知りました。

『汝は彼を知つて居るか？』

と天使は聞きました。

『私は知つて居ます』

と彼は答へて其の人の姿を熱心に眺めて居ました。天使は

『今、汝は彼を許す事が出來るだろう？』

と聞きました。けれども彼は唯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『實に私の兄弟は立派だ！　美しい！』

と云つて居ました。

天使は彼の目を見詰めて居ましたがやがて其の翼で自身の目を光から覆ひ、そして、ひそかに笑ひながら神の玉座に歸つて行きましたけれども彼は兄弟と共に地上に平和に暮して居ました。

私は目を覺しました。藍い〳〵空は輝いて下には浪がざつ〳〵と打ちつけてゐます。私は禮拜堂の中へ入つてもう一度聖母マリヤと十字架を負ふたキリストと鞭を持つた羅馬の兵士と顏の擦れた幼時の基督とを眺めました。そして石の阪を下りて煉瓦を敷いた往來へ出ました。道の兩側に並んだオリーブの木は其の黑い實と白ばんだ綠の葉を空中にくツきりと浮ばせて居ます。石垣の隙間からは蔓杏がさがつて居ました。しつとりと落ち付いた空氣は丁度雨上りのやうでした。私は此のやうな美しい天と地を見たのは始めてのやうな氣が致しました。私は其の道を下りて行きましたが先刻の疲勞はすつかり拭き取つたやうになくなつて居ました。此の時一の人農夫の子供が、駄籃を二ッ背に付けた驢馬を引いて來て私を追りこしました。私は此の一面識もない子供と並んで歩み此の子供の手を握つてやりたくなりました。けれども私がそうしたくなつた動機を彼に知られたくはありません

でした。（終り）

山田わか譯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

冬

――小林かつ

おちかも繁次もほんとうに田舎はいやだつた。

けれど繁次のからだにはどうしても寒い冬の間を退屈な田舎ですごさなければいけなかつた。――南にむいた海岸に近い松林にとりかこまれた小高い山の上の別莊で二人は來年の櫻のさくじぶんまで退屈な日を暮さなければならなかつた。

來年の櫻のさくじぶん――おちかも繁次も櫻のさくじぶんまでといふ、それまでの事をいく度も考へた。

二人がそこへ來たのは未だはつ秋の風がやうやくつめたい吹きはじめた頃だつた。それから秋いつぱいと冬いつぱいとをぢつと眠つたやうな靜かな田舎に暮してゐなければならないのはかなり若い繁次にとつても苦しい事だつた。それでも繁次はじぶんのからだといふ事を考へてはなにもかもあきらめてゐた。

――若いものにとつて、ほんとうに生きがいのある、面白い夢を見つゝけて、その夢に

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

したつて、らちもなく醉ふ——そんな夢に醉ふ晩の事などをひそかに思ひながらもあきらめてゐた。それよりもほんとうに地道なきまじめなこゝろもちから早く、一日も早くからだをもとのやうにして、歸へる日のことばかりを思ひつゝけてゐた。——一時に若いこゝろもちがなくなつて行くやうな、そんな病氣をおぼへたのがしみじみ繁次には淋しかつた。

おちかはまた繁次のことが苦勞だつた。人と人との折合といふやうな事は、前からおちかはむづかしく苦勞に考へてゐた。けれど一度も、たゞの一度も添ふ人の病といふやうな、そんな不吉なことは考へもしなかつた。それでもなりゆきはそうなつた。——おちかは人の身のなりゆきの程がつくづくふしぎに考へられた。

——廣い世の中でじぶんと繁次とむすびついたのも——それも考へれば考へるほどふしぎだつた。

繁次のからだにふいにそんなきざしが見えた時はもうおちかとの緣がすつかりきまつて了つてからの事だつた。

そういふ話をもつて仲にたつ人がおちかの家へ來た時、おちかも父親によばれてその座敷へ入つて行つた、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『かういふ事は御當人のおこゝろもちしだいでござんすものね、とつくりおちかさんの御氣もうかゞつてをきませんでは――』といふやうに何を云はれてもおちかは團扇のかげで、そつとうなづいてばかりゐた。まつたくそのじぶん、おちかのこゝろもちは次から次へと出來てくるいろ／＼な事柄にみだれてゐた。じぶんでじぶんのきもちがわからないほど――それほど意久地なくぼんやりしてゐた。

仲にたつ人は久ばらくして父親の昔かたぎな堅いあいさつを聞いて歸へつて行つた。

お文もおくにも――皆な姉達はそうしたなりゆきにまわり合せたおちかの事を考へた。

『そりやもうかういふ事はお前さんのほんとに氣一つでどうにでもなるんだものね、どつちでもお前さんのいゝやうになるんだもの、はつきりと云つた方がいゝんだよ、ね』

その晩、みんなはおちかを取りまいてその事ばかり話しあつた。何につけ心配の多い嫁の身で、その上また一つ大きな苦勞がわいたのかと思ふとお文はもう二三日で家にゐなくなる妹がいぢらしく思はれた。

おちかにはその晩いつまでも何を云はれても、口かきけなかつた。姉達のおもわく――じぶんの身のゆくすゑ――いろ／＼思ふ事が多かつた。そとへ出るよりは家へ來て呉れる人をと、云つてゐるうちにいつか年頃をすぎて了つたお文の身にひきくらべて、おちかの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

緣の話はもう遂からみんなにさわがれてゐた。それでもおちかの緣はむづかしかつた。みんなこんたの様に話の進んだ事はなかつた。――やつとそれで安心してゐる父親のこゝろもちを考へると、おくにはそういふまわり合せになつたのが口惜しかつた。――それがおちかにはよくわかつてゐた。

それがじぶんのなりゆきなんだ――そう思ふともうおちかはなんにも考へないでもいゝやうな氣がした。

あつい晝間の影がいつ迄も夕空にきらめいてゐてすつかり夜になるのにおそい晩だつた。――風鈴にかすかな音をのこしては消えて行く夕風が肌に少しつめたい夏もしまいのしれんだつた。

おちかや、おちかの里の人逹が思つてゐた程繁次の病氣は重もいのではなかつた。熱さい出なければなんでもなかつた。そしてそれは海邊へ來てなほかたむきがよかつた。この分から寒いうちだけとうせばきつと東京へ歸へれるといふやうなたしかなのぞみが繁次のこゝろもちにもおちかのこゝろもちにもわいてゐた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

お天氣のほんとうにいゝ、ほがらかに空のすみ渡つた朝はよく小鳥がないた。

松林の丁度まん中に他の松よりは一だんと背のびをしてゐる形のいゝ松の一枝がどの小鳥にも好かれてゐた。ひんやりと肌にさわる朝の大氣の中をおよいではやすみ、やすんではようないた。玉と玉とをこすりあふやうなうすい絹のきれをはじからさいて行くやうな聲音をきゝつけるとおちかはそつとぬき足をして椽側に出て行つた。――小鳥は胸をはつて一くさり唄つては又一くさり、首をかしげてないてゐた。胸毛のこゝろもちうす赤いの、首のるり色にはでなのと小鳥はいろ〳〵だつた。

『あゝあ、めじろ頰白、――』繁次は小鳥の名を一つ一つおちかに云つた。

おちかはぼんやり――唐人髷のかんざしの房をゆりながら毎朝通つて行つた長唄のお師匠さんとこの椽側に小鳥の籠がたくさんつんであつた、その中の鳥がじぶん達が歌ひだしたり、ひきだしたりすると、一緒になつてさへづつたことなんかを、ぼんやり思ひうかべながら、いつまでももちつとがらす戸にひたへをあてゝまじ〳〵と面白さうに飛びまじつてゐる小さな鳥に見入つてゐた。――そしてそんなひまに朝が經つて行つた。

そんな朝がいくつか經つて行つた。おちかの何だかわけのわからない、だゝもう淡い色の夢と夢とがかさなりあつてあやをとをつてゐるやうな時もたつていつて、どうやらそうし

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た日毎夜毎にもなじんできた。そのじぶんおちかはよく、娘から女になつてゆく時に一度は誰れでも通らなければならない路を――ふしぎな路を考へて見るのだつた。――

松林をいくつかぬけて、赤く木々の黄ばんで見へる形ちのいゝ山を目當に行く方に尼寺があつた。その尼寺へおちかと繁次は毎朝日參りをした。ほの白ひおそばの花が風にゆれて朝霞が二人の裾につめたい、その朝毎のお詣りは退屈な二人にとつてかなりな樂しみになつてゐた。

尼寺には若い頓狂な尼さんと、世なれた中年の尼さんとがみるから靜かに暮してゐた。おちかにはよくわからない熱田言葉で、お愛想を云つて二人をもてなした。

頓狂な若い尼さんは、白くまるまるとふとつてゐてふしやかなめつきから、まるいちま〳〵した腰つきが何かの芝居で見たしだしの一役によく似てゐた。しり上りにいやにどうけた風つきがおちかはきらいだつた。――

おちか達がその尼寺を知つたのはほんとうにふつとした拍子からだつた。久ばらくの間手傳ひに來てゐたおとめが東京へかへるといふに、海邊から松林の中を、砷たけをさがしながら歩いてゐるうちにふつとその尼寺の前へきかゝつて、詣るともなく詣つたのがはじ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

まりであつた。

その尼寺はかねて、繁次もおとめも、以前この土地に來てゐた近しい人から、その人が信心したといふ事をきいてゐたのだつた。――その尼寺の人達が東京へ行つた時、その人のところへもわざ／＼たづねて行つたといふ事をきいてゐた。

――その人は繁次とおちかの縁にも深いかゝわりのある人なのであつた。

二人を送つて、こゝへ來た時、その人が尼寺へおまゐりをした時、繁次とおちかの話をしたと見えて尼さん達は二人を見るより、馴れ／＼しくいろ／＼な話をした。おちかの近い頃かたづいて來た事も、それからその人と同じ繁次の家の商賣も、ちやんと知つてゐた。そして尼さんの達は普通の人が考へる以上に、繁次の家の商賣に好奇心をもつてゐるやうだつた。――おちかは、こんな田舍の靜かな庵に、尊い神樣のお守りをして暮してゐるかういふ人達が、まるで商賣人のやうな、あるするどい――人を見るといふやうな、そんなはたらきをもつてゐるのがなんだか不思議に思はれてならなかつた。――それはおちかのふだんからかうした人達にゐがいてゐる線とはかけはなれてゐるやうな氣がして、それだけは、その靜かな尼寺の中で、いやな事だつた。

『――そらもう晴れがましてな、いかうきまりの惡い思ひをしました。あのやうなところ

へはわたいらみたいな頭のまるい坊主どもが入つて行きましたもんなもの、そらもう人が見ました事は。――なあ好貞はん。』

若い尼さんはしきりに東京へ行つて吉原のその人の家をたづねて行つた時道のわからなかつた話をした。あゝいふ場所をこの人達が歩いて行つた事が、長年あの土地にゐるおとめにはとりわけおかしく想像された。――おとめはおちかと笑ひかけた目を見かわした。

尼寺はそれでもさすがにのんびりとしてゐた。『せじはなしむよう』とお手習をしたやうにかなで書いた紙がくすぶつたくりでお茶をもてなしながら中年の尼さんは世間馴れた口のきゝぶりで、若いおちかや繁次の上へ目をやりながらありがたい金比羅様の御利生を說いて聞かせた。

『親樣のなくなつてゐるお方は、每朝神佛をおがむとき、あたくしの親樣は今はどこにどうしておいでになるげな、どうぞ今日も何事もありませぬやうに、親樣どうぞお守り下さいませ。――とかうおねがひ遊ばせや。ほんとうに親樣に不幸をしたり、親樣をそまつにさつせるのがこの世の中での一番おそろしい罪でございますぞなも。』――若いものにありがちの心配を少しは死んだ父親にかけたおぼへのある繁次には馬鹿にその言葉が胸に來た。

病のおこるのも、何かの罸だと中年の尼さんは良くそういつた。

『病氣になんなさるのもみんな神樣の御ぼしめしなので、世の中になにもかもみんなよいと云ふ方はありませんぞなも。あなた方は、お金にはふじようはなし、せめて、たまに病氣にでもなんなさらけりや、あんまりよすぎますでな――』

こんなに、若い尼さんの云ふ事は、一つ一つなちかにはいやしく思はれていやだつた。

『こうやつて、ひよつくりお詣りが出來たのもなんかの因念ですものね。まあよくこれからおまゐりをなさるんですね、御病氣のこともありますし――それに御信心はこうもいゝもんですものね。』

御信心にこつてゐるおとめはおちかにそのかへり道にそう云つた。

そうしたことから二人は朝毎そこへ日參りをするやうになつた。手のとゞきそうに近く見える山は一日一日と赤く黃ろくなつて行つた。――目に見えて秋が深くなつて行つた。

雨のふる――お詣りにも海邊にも出られない雨のふる日にはほんとうにしよざいなかつた。

ふつとした話のとぎれた間にはおちかは遠くはなれてゐる里のことなどを思つた。案じる事も無かつた。――案じすぎておちかは心細くじぶんの身のまわりをそれは〱

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

せまく淋しく考へるやうな、そんなくせがいつかついてゐた。そんな日には一日がいやに長かつた。

繁次は繁次でそうした雨のふる日には、灯のつく頃をまつて、夜遊にでた頃のことなどが考へられた。

——新らしい傘をさして下駄をはいて、夕べに近い町をあるく事などを考へた。そんな晩おそくまでのんでゐて、夜更けた町を車の上に酔ひながら、もう電車のないくらい中に、さへた灯のある、町をゆられながらかへる——そうした晩の事を思ひうかべてゐた。

香のやうに淡ひこひをおぼへた妓もあつた。——そんないろ〳〵なお話の夢は池の水に粉雪が落ち散つてはきえて行くやうに、はかなく消えて行つて了つた。——

繁次はそんな日はことのほかじぶんの病がかなしかつた。考へる事の別々な二人のこゝろもちはなか〳〵とけあわなかつた。

繁次もおちかも、そんな日は夜になるのを待つた。——夜になつて、さえざえした灯を見たらちつとはこゝろもちがあかるくなると思ふ、そんなこゝろもちからおちかは灯のつく夜を待ちきつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

おちかには日の經つのが嬉しかつた。

朝になつて晩になつて、また朝になつて、——そうして一日二日三日と、來年の四月へ一時ちかくなつて行くのかと思ふと、日のたつのが嬉しかつた。

尼寺へ十四日の初願の日參りはぢきたつた。白いおそばの花が黃ろく、茶ぽく、そうして黑くうつろつて行くじぶんにはもうそれはお終ひになつて了つた。

その頃畑では百姓が麥をまいてゐた。——まいてゐたと思ふうちに、畑には青々と、女の子のもつてゐる毛糸のやうなまつ青な麥が生えてきた。

空は紺碧に高くすんだ日が多かつた。その空の上に、まつ白く雪をいたいた大きなおふじ樣をはじめておちかは見た。

十四日の初願の期日はすつかりすますうちにおちかは尼寺へお詣りに行くのがほんとにいやになつた。それは初願滿願にもちかひある朝のことだつた。繁次のからだの工合でおちかが爺やを連れて一人で尼寺へ行つた朝のことだつた。

落松葉をふんで、手洗まで行つて、それから御本堂へ行こうとするとき、——おちかはいやなものを見た。それは若いおちかにはほんとうにきまりの惡い、思はず顏の赤らむものだつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

おちかは久ばらくこゝに立ちどまつてゐるより他どうする事も出來なかつた。そんな事があつてからおちかは尼寺がほんとうにきらひになつて了つた。みにくい、考へただけでもきたならしい、話だつた。おちかは繁次にそんな話がなか〳〵出來なかつた。頭をまるめた尼さん達、——その女の人同志のある內所事、それを考へるとおちかはいやだつた。あの人達の云ふやうにほんとうにあらたかな神樣があの御堂にゐらしやるんだとしたら——それを考へるとおちかはだまされたやうな氣がした。——

それでも十四日の間は日參りをした。

おちかも繁次も黑くなつたおそばの花のその枝をとりそれから見なかつた。

尼寺へ行かないやうになつて、繁次のからだの工合がわるい事が多かつた。丁度こゝろもちのいゝほどな冷たさのはつ冬が、ほんとうのさむさにうつて行く時で陽氣が惡かつた。病人に馴れないおちかは、繁次の惡い時、まつたくどうしていゝかわからなかつた。そんな時には繁次はいろ〳〵な悲しい事ばかり考ひ出しては、心細がつた。おちかはほんとうにどうしていゝのか、何と云つていゝのかわからなかつた。繁次の思ひ出す悲しい事にさそはれておちかもよく泣いて了つた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

晴れた日が暮れて、空に黒い雲の多い夕方だつた。

繁次は庭を一人で歩いてゐた。――と松林の中を出たり入つたりする赤い火影を見つけた。何の氣もなく繁次はその灯の方へ松原をあるいて行つた。――

白い寢棺とまあるい提灯と靜かにむこうの通りを通つて行くのが繁次の目にうつた。繁次ははつとした。

提灯の紋が繁次はじぶんのと同じだと思つてはつとした。そのとつさに、そのお葬式の列がじぶんの身のゆくすゑかなぞのやうな考へが胸にこみ上げて來て、繁次は急いて家へ入つて來た。

――おちかもこの話をきくと何だかこわかつた。晩になつてまたお葬式、月もない闇の晩に出るお葬式――おちかは身體がすくむやうにこわかつた。

その晩繁次は熱が出た。

あくる日も熱が出てゐた。――おちかが氣にしてゆうべの話を近所から聞いて來た女中と話してゐるのがよくねてゐる繁次の耳に入つて來た。

『二十一になるをくさんですつて。それがあなたまだお嫁入りして間がないんでござんすつて。――もう手をくれになつて海岸へ來てゐなすつたんですけど、ついてゐるばあやさ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

んとかゝまごついちまつてろくにお醫者さまも見へないうちになくなんなすたんですつて――』

おちかはいつまでも〳〵その事ばかり話してゐた。

『でもね、紋は家のやうな矢羽根ぢやないんですつて、たかの羽なんですつて』

おちかがそういつて、繁次のまくら元に入つて來たのに繁次は返事もしなかつた。――繁次はじぶんの事やおちかの身にひきくらべて、考へると、何だか悲しかた。

二十一の女の人の死なつた話はいつまでも繁次とおちかの胸からはなれなかつた。

淋しい海岸の小さな町の中にも、たまにはゝでやかな話もあつた。――どこにゐる誰れが、宿から藝者を連れて來てはじぶんの家にとめて、ゆうべはかいさなかつた。そんなことがいく度もあつて、前から深いかゝわりのついてゐる他の女の人がやきもちをやいたのと、そんな話が浮き〳〵と、おちかや繁次の耳にも傳つて來る事もあつた。

親のものをすつかりなくなしてまで遊びにぼけてゐるといふ噂の男と、この町での、その道の惡だと人の云ふ男と、その藝者をとめる若い男とが三人して遊びに行くらしく通りを歩いて行くのを繁次は見かけたことがあつた。――藝者をとめる男といふを繁次は見か

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

けたやうな男だと思つた。その男も繁次をぢつと見てゐた。たしかじぶんと同じ商賣の家の子だとしばらくしてから繁次は思ひついた。

『遊びに行くんだよ。』――「繁次はおちかにそう云つた。」若い人が病氣になつて、こんな淋しい土地へ來て、田舍の年上の妓に夢中になつてゐる――それを噂のやうな笑ひ事におちかは考へられなかつた。病氣の若い人――その人がむだなつまらない夢でも見なくちやゐられない程な淋しいこゝろもちをかんがへると、おちかは何だか氣の毒にいたましく思はれてならなかつた。

日がたつにつれて繁次のからだは熱の出ない、平らな工合のいゝ時ばかりつゞくやうになつて行つた。そうした日には病氣にまけて、涙の出るやうな、そんな感傷的な氣持がなせなるのだらうとじぶんの思はれる程、氣がせい〳〵してゐた。

繁次はお天氣のいゝのを見てよく花を買ひに町へ出た。

花屋――と云つてもごくさゝやかな家だつた。二日め、三日めといふやうによく行くそこの家では繁次の顏もおちかの顏も見覺えてゐるやうになつた。おひるすぎに家を出て、花鉢をいろ〳〵とよりとつて、繁次が一つ、おちかが一つ、爺やが一つかゝへてかへるじ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ぶんには日月が松林のもやの上にうかび出るじぶんになる事があつた。

日あたりのいゝ椽側にならべる花の鉢は日ましに多くなつた。繁次は花を見てゐるうちは何にもかも、病氣のことも、東京のこともなんにも考へなかつた。——

月に一度は東京の家からたづねてくるのがつねだつた。にぎやかな家に育つてさみしい田舍の暮しになれないおちかには誰れか人のくる時がまたれてしようがなかつた。新吉がくるといふしらせのあつた晩に雨がつよくふつてゐた。——

遠く汽笛のなる度に、おちかは立つたり居たりした。

雨にぬれた新吉の車がついたのは二人の待つてゐたよりはよつぽどおそくなつてからだつた。

新吉は若いさかりのつやのある聲で東京の話をつぎからつぎと夜のふけるまで話しつゞけた。

『この人のからだもすつかりきまつたんださ』

『そりやよござんしたわね。——いつからですの』

『來年の春からなんです。そこで來年の夏は大阪へ皆なと一緒に旅ですよ。そこで成駒屋

はね、やつぱりこれからは作者さんだつて芝居を書かゝなそやいけないんだから夜は語學の勉强でもした方がよござんすつて云ふんです。』

新吉は思ひ通りになつて行くじぶんのゆくすゑの事をおもふと嬉しかつた。じぶんが遂からあこがれてゐた境界にじぶんの身が入つて行く――どんなにうれしい事だらうとおちかはそう思つた。きちんとすじかいな帶のむすび目を見せて、木をぎざんでゆく、幕のかげにたつ人――おちかは芝居へ行くたんびにそういふ木をうつ人をうしろばかり見てゐて一度そうした人の前が見たいと、そんな事を、らちもなく思つた娘のじぶんのことを思ひうかべた。――その晩おちかはほんとうに女の子の昔にかへつた樣に、新吉と芝居ばなしに身を入れてゐた。

『山おろしは大太鼓の音の間は七五三にきざんでいくんですつてね。どどんどん〳〵。かち、つていふ風にね。――あの木を一生懸命みがかなけきやいけないんですつて。――稽古にこれから家でうつてみるんです』

こんな話をおちかと新吉はいつまでも〳〵あきずにしてゐた。同じ年頃のもの二人がよるさにぎやかだ、――と一人靜かにしてゐる繁次思つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

新吉のとまつてゐる二三日はばかに早く一日が暮れて行つた。――車にのつて、に汽車のつて、そうして新吉が東京へかへつて行つて了ふとまた後はさみしかつた。

まじめな、じぶんたちの身の上にふりかゝつてゐる苦勞――それは少さなものでも、おちかの身にはおほへてはじめての苦勞だつた。――そんな苦勞に忘れてゐた、若い娘ごゝろがふつとしたはづみから波立つたおちかのこゝろは、なほのことさみしかつた。

それでもおちかはもう、せんのおちかではなかつた。まだ若いつもりでも、おちかのこゝろはいつかもういつぱしの女になつてゐるらしかつた。新吉がかへつて又二三日もたつうちにおちかのこゝろもまた靜かな――ぢつとねむつた水のやうにしづかになつて行つた――繁次の病氣のなほる迄は、芝居も見ず、芝居も見たいと云ふ氣もおこすまい――おちかはその時分何かのちかひのやうにそんな事を考へて見た。

冬の色がだんだんあたりにこくなつて行つた。

子供の時分の思ひ出のかけらのやうなおゝへたが薄やみの夕間暮をとびまわるやうになつた。――草羽紙にある國貞のかいたおいらんが好きできてゐるしかけの色のやうな藍とねずみのぼかし地のやうな空の日あいが多くなつた。

おちかも繁次もよく夢を見た。

ある朝の夢に繁次は浮世繪がぬけ出したやうな、若衆と娘との夢を見た。若衆が娘をてまねぎすると娘は袖を重ねて、若衆のそばへ歩いて行つた。と若衆のお草履とりと娘の腰元がすつと二人よりそうて、影へかくれて行つた。――若衆は靑に白の市松のきものをきてゐて娘は朱と銀の市松のきものをきてゐた。それをはつきり繁次はおぼいてゐた。

繁次はそれを繪にかこうと思つた。――それからいく日もその夢が繁次のこゝろからはなれて行かなかつた。

おちかはそんなきれいな夢は一つも見なかつた。――死んだお母さんが小紋の重ねをきて、じぶんの後からついてくる夢だの、花道の七三で血が肩先きからながれる芝居の夢だの、おふじ樣の下を汽車にのつて、通る夢だの、――そんなのばかりだつた。

けれどもおちかの夢はみんないゝ夢だと、繁次も、女中も云つた。

『――何だかね、あたしのとなりにゐる女の人がそりやいゝ聲で歌をうたふのよ、――とあたしが窓から首を出して見たの、そうすると、まつ白なおふじ樣がはつきりむこうに見へるの、――ずいぶん變な夢だわね』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『いゝ夢なんだよ。――お前さん毎晩いゝ夢を見るんだね。大丈夫、あたしの病氣はなほりそうだねえ。』

繁次は冗談らしくそんな事を云つた。

ほんとうに陽氣がきまつて來たせいか繁次の病氣もすつかりたいらになつつた、もつと寒くなつて、雪がふつて、それから梅がさいて、――さうするともう櫻のさく四月にだつて、そして東京へかへれるのだわ――おちかはあけくれきみじかくそんな事を考へた。

（十二月七日）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

女房始め

――上野葉

二人の戀は殆ど紙と筆とによつて焚きつけられてゐると云つてもいい位手紙の上の交流が大部分を占めてゐる。宇津美と云ふ男は男らしい骨格と壓力とを具へてゐながら其反面には女性の樣な柔い愛情を持つてゐる。手紙の上にはたゞ女性的方面ばかりが鮮明に浮き出てゐるので照子は可なり相手の全體について煙に卷かれたことが多かつた。實際照子は宇津美と知り合つてから半年位の間は疑の眼を以て觀察してゐた。面と向いた男と離れてゐる男とが余り性格の上に相違があつたからであつた。でもその相違が虚飾から來てゐる一時的のものでないと云ふことが充分に照子には直覺されてゐたので照子はたゞ妙な男だと思つてゐた。月日の經つに從つて何とはなしに此二人は離れることの出來ない運命だと自覺し合つた。好きだ！　と云ふ分子と嫌ひだ！　と云ふ分子とがお互の性格の中に含まれてゐることにも氣がついてゐた。けれど手紙の上でつひ誇張される愛の表現がそれ等の缺陷を補ひ合つてゐるのだと云ふことにも氣がついてゐた。そうした誇張の裏面にはいつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

も寂しい空虚が潜んでゐることにも氣がついてゐた。それだのに無限の執着力を以て二人が結びついてゐると云ふことが此二人が戀を戀する心持と時々會つてに握り合ふ手の觸覺接吻から受ける唇の柔い觸覺それ等が無意識的に引きつけてゐることには氣がつかなんだ。お互に不思議なほど熱烈な氣分になつた行くのを傍觀的態度で告白し合つたが結局結婚しなければどうにもならなくなつて了つたのであつた。照子は舊い結婚式を出來るだけ大げさにやつて見度かつた。宇津美は探つたいからいやだと云つてゐたのだけれど盛に鼓吹される照子の形式美と云ふものにつひ眩惑して了つて何うでもいいと云ふ氣になつた。でも神の前で行ふことは二人共に絶對に不賛成だつた。照子は高島田に竪矢の字の花やかな花嫁姿で金屏風をめぐらした中でたつた二人向ひ合つて花嫁自身が花婿に御酒を捧げ花婿自身また花嫁に注いでやつて嚴かに戀の滴を呑み合つてからはじめて花婿の合圖で媒介人や親類や大勢が屏風の中に加はることにしたのであつた。銀燭のクラシカルな光が多くの美しい男や女やの酒宴を彩つてゐた。二人の戀の爲にこんなに多くの人達が讃美の意を表してゐるのだと考へると無性に二人はプラウドを感じた。そんなことは何うでもいいとして其夜旅に立つと世の中の人達はみんな公然夫婦として扱つて怪しまなかつた。それが二人には一番擽い氣がした事件であつた。昨日までは忍んで逢つたり忍んで手紙の交換を

してゐたものが今日はまるで正反對な狀態になつて了つた。其間には單に披露式が挾まつたに過ぎないのだのに！　世の中は變なものだと語り合つた。『旦那樣。奥樣』此詞がいかに異樣に響いたろう！　誰れのことを云ふのだかまご〳〵して了つた！、宇津美の旦那樣振はよく乘つてゐた。照子にはマダムと云ふタイプを想像しただけでも滑稽で堪らなかつた。奥樣！　と云はれるとハツとして氣が老け込んで行く樣に哀しかつた。バージンの氣分と別れねばならぬことが照子には戀の成就より以上の大問題になつて來た。こんな心持やら色々の情實があつたために今暫く別居してゐることに相談した。戀愛の肉體的方面に關する考ほど世の中の人達の矛盾はない。獨身の男女に對してはあれ程恐れあれ程憚らせてゐたものが結婚と同時に當り前になつて了ふ。泊りつけの宿屋についた時に女中は訣つてゐても寢床を一つしか取らない。そうなつて來るとむしろ味が薄らいで了ふ樣に思へる。しかしこうした狎れ褻れしい周圍からの取扱によつて二人の心持がいくら程急激に近ついて來たか知れない。全く十日間ばかりの旅行の間に二人は十年間分をも親しんだ樣に思つた。それだけ宇津美は離れがたなくなつて來た。照子も寂しさが募つて來るやうに思はれて肉體の力の案外強いのに二人は驚愕せざるを得なかつた。そして世の中の夫婦は初の間は單に此肉の力だけに手賴つてゐる樣なものだと云ふことが了解されて來た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

新橋で別れたのは夜だつた。

『あなたがたは物數寄だ』『遊戯だ』

と云はれた意味が泌々をかしくなつた。

この馬鹿にしてゐた僅の隔りが案外苦痛なものになつて來た。東京と中京との距離は目と鼻との間に過ぎない。時に疲勞を覺えて二三日寢込んで了つた。それでも照子には長い手紙をかいた。宇津美はかへり著くと一ゆる出來ごと——それ等は余り急速度を以て進行したので物の一年も經過した様な氣がする。戀人から企てを自由にした二人は唯單に戀愛にだけ生きてゐた當時よりに別居と云ふとが非常に不自然なものに思へて來た。宇津美は一月と經たない中に頻に照子に同棲生活を要求してよこす様になつた。手紙の内容が一回は一回現實味を加へて行つてローマンテイツケな分子は恐しい程に減つて來た。そして戀人からは——まだ夫だとは思へない——

『他人の様に酒や藝妓に逃れることの出來ない私はたゞ夜毎にひゞく三味の音をききながら寂しさを抱いて冷い床に横はらねばならない。何を苦しんでこんな慘な生活をさせるのですか。饑えてゐる赤子になせ乳をやろとなさらないのですか』

と云つた様な憂欝な悲觀して手紙が毎日來る。照子はそうした氣の弱々しい女を恐れてゐる様な初生な宇津美の手紙を讀む度につひ此間十日ばかり一緒に暮した宇津美と比較して

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

矛盾を感じないではゐられない。勿論宇津美が照子と云ふものを唯一の生命としてゐることは一點の疑もない。偏屈な程照子ばかりを思ひつめてゐることは確實に相違ないらしい。そして以前から世話になつてゐる嫂と云ふ人からは『もう〳〵弟のお守には閉口した。毎日溜息ばかりついてゐて不機嫌な貌ばかりしてゐるのを見るのが堪らない。一日も早く來て呉れ』と云つて來る。出來るだけ自分で自分を抑制してゐた照子も自分の寂しさや戀人のそうした容子やらが最早ぢつとしてはゐられなくなつて來た。丁度二ヶ月余經つた五月の初頃だつた。愈々中京に家を持つこと　決定したのは。家は丁度姉の近所に氣持のいい借家が空いたのを約束して宇津美はもう毎日色々な家具や裝飾品の買集めに沒頭してゐる。何だか子供の頃にお正月やお祭の來るのを樂しんだ樣に宇津美は一日一日照子の來るのを待ちあぐねた。『下宿生活から一躍して一家の主になる!?』と思ふとわれながらをかしくなつて了ふ。從來女主として老婢を一人使つて門戸を構へてゐた照子はそれを疊んで大抵のものは宇津美の方へ送つた。新しく建設しやうとしてゐるホームについて照子は好奇心に唆られ通した。氣の利いたホーム。中實の充實したホーム。それは照子によつて疑もなく築かれると自信してゐる。五月十日宇津美は照子を迎ひに上京した。これまでは二人共遠慮し合つて何處までもノーブルな態度を失はない樣子をお互が努めてゐたのとも一つは

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

人目を忍ぶ心持があつたので大膽なそして狎れなれしい擧動は決してしなかつた。偶まに逢ふ瞬間にどんなに身體中の血が沸き返つてゐてもやつと袖のかげで手を結んで直ぐにあはてゝ離れて了ふ位が關の山だつた。夫が昨日宇津美を品川で迎へた時に照子は無意識に公衆の前で力一杯兩手を握りしめて水の堰を切つた樣に熱情に任せて肩を摺りよせたりした。『辛かつたね』と宇津美が囁くと『えゝ』と肯いて顏を紅くした二人の情緒には紙ほどの隙も認められない。緊張し切つた斯うした心持はどんな幸福を持つて來ても代へることは恐らく出來まい。實際二人が戀しさをぢつと怺へて離れてゐることは最早一分一刻をも許さなくなつた程は高潮に達して來たのであつた。其處には虛僞も空虛も潛んではゐなかつた。宇津美の皮膚の下には熱血が流動してゐる。眞摯な態度には何處を探しても浮ぶ調子が認められない。やつぱり昔の戀人時代の樣な氣分で其夜は銀座の夜の賑かい街を歩いた。ネルの肌心地がたゞさへ血を煽り立ててゐる。二人は泌々と斯うした戀の趣味を味ひながら手をつないで當もなく歩きまはつてゐた。照子は戀人のそばに行くと云ふことは嬉しいことには相違ないけれど多年住み馴れた都と別れねばならないのは亦可なりの苦痛であつた。愈明日はおさらばだと思ふと都に對する執着が急に濃くなつて來る。今の今まで無意識でゐた都の力がどれだけ戀に牽制を加へてゐたかわからない。『若も何物も心を

惹くべき力のない田舎にゐたとしたならば二人の戀はもつともつと深刻に行つたかも知れない都會人には或は相致の戀は味ひ得ないのではあるまいか』と照子は歩きながら考へてゐた。買物をしたりお茶を呑んだりする二人の態度が確にしつくりして來た。協同生活の密接な心持も判然して來た。そして泌に此二人は戀愛の上にも物質の上にも永遠に引き別けることの出來ない强い鎖で繫がれて了つたのだと云ふことがうら哀しそうに二人に宣告した。肉的の力と物質的の力とが如何に强いことだろう！　單なる愛愛は一番强かるべき筈のものでありながら幅が無い。照子は斯うして靈と肉と物質との共有と云ふことが性の關係上重大な條件であることに思ひ至つた。『世の中の結婚政界はまづ有形的の地盤を固めて動搖に對する錨にしてある。有形的の動搖は無形の動搖に比較して面倒臭いに極つてゐる。その弱點につけ込んで動きの取れない樣に仕組んだものかも知れぬ。子は夫婦の鎹だと云ふ意味も正しく此有形的方面の最たるものに相違ない。斯うして有形の多くの鎹を打たれた男女はたとへ其無形的方面に缺陷を感じてゐるにせよ或程度まで諦めて行くの外はない――進んでそれ等を破壞して更に新なる建設を試みるだけの氣根の無い限りは。もつと手輕に仕組んで置いたら離合が盛に行はれて來て面白いだろう。そうなつて來ると戀愛の力の一番强いものが一番の勝者になつて來て世の中の結婚生活が眞に近づいて來るだ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ろうに』と云ふ樣なことをも考へて歩いた。夜更けて家にかへると老婢は荷物積み上げた家の中にそれでも二人のために周到に用意をしてゐた。一度肉的關係を結んだ二人は結婚前に逢つてゐた頃に暗々の中に忌避し警戒し合つてゐた性的衝動の發作が急激に頭を擡げて憚らなくなつて來たのに驚き合つた。そしてローマンティックな世界から次第に現實の世界に移つて行く徑路が見出して來るのを宇津美は面白かつた。照子は何だか慊なさを感じないではゐられなかつた。そして男の行き方と女の行き方とに非常な差異のあることに氣がつき出した。情慾と云ふことは人間生活の上に大事件であるべきことは七つ八つの子供の頃から既は無意識を芽してゐた問題である。從つて照子は結婚以來そのことについて一番多く考へさせられてゐる。何しろ豫想とは大分反してゐることは事實らしい。

『やつぱり斯うした行動は高潮に達した場合には避けられないことなのでせうね』

『愛らしい子供を思はず知らず抱きしめて接吻するのと心理は同じことなのでせうね』

と云ふ樣なことを話し合つた二月前を思出した。誰も居なかつた長火鉢の向に異性の一人が當然位置を占めてゐる。お一人と云ふ詞がお二人と云ふ複數に變つて來た。何だか夢の樣なそぐはない氣がする。きまりの惡い氣がする。それでも何とはなしに多少自分が相對の位地に置かれてゐるのだと云ふ自覺がある。愈明日からはそうした氣分の中に投げ込ま

れて行かねばならぬ。それは勿論苦痛なことでないことは例ではあるが其所に痛痒い様な束縛をも感じないではゐられなかつた。都會の自由な空氣から離れて中京とは云へ東京から比べたら全るで田舍の様な街の一角に女房生活を始めねばならぬと云ふことはたとへ二人の戀が强いにせよ何となく寂しい氣がする。今こそ新橋で自由な友達と袖を別つ刹那にはバージンとしての都會生活がいかに彼女を愛惜したろうか!? 方に來るべき彼女の新生涯は光輝に充ちてゐるには違ひないとしてもそこには太陽の光線が届いてゐない様な悲しい感がする。でも汽車の進行につれて次第に展開されて行く初夏の自然界に眼を注いで行くと照子は思ひも寄らなかつた新しい氣分の湧出でるのを覺えた。コセコセした都會の刺戟から出て新緑の凄じい恐しい潜勢力の壓迫の中に突き進んで行く心持の太きさに打たれ出して了つた。永遠に照して偉大なる力を溜めてゐる新緑の天地の與へてゐる暗示と直覺すると『もう議論なんかどうでもいい、自分の全部を刹那々々に緊張する限り緊張させて行つて見やう。愛し得るだけ愛し熱し得るだけ煩悶し得るだけ照つて熱し悶えて見やう』と思立つた。照子は今までたつた一人住だつた。親も兄弟もない一人住だつた。忠實な老婢がゐなかつたら照子は寂しさに何うなつてゐたかも知れない。多少の親の遺産を土臺にして自營自活してゐたのであつた。自由な獨身生活を比較的長くしてゐたために結婚式を

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

初めとして色々な面倒な形式と云ふものが妙に束縛を感ずるよりも寧ろ珍らしい様なおもしろい様な氣がしてゐる。たとへば奥樣だとか主人とか宅だとか云ふ詞からして。それでゐてそれ等は常に床の間の飾の樣に扱つて實質はやつぱりバージンの自由な若さを盛つて置き度いと思つた。今まで殆ど他人の世話にならないで自分で自分を所置して來たものが急に宇津美と云ふ異性が現はれて來て荷物のことやら家の始末やら汽車の切符を買ふことからみんな引受けて奔走したり毛布を敷いて『此所に座れ』とか『何か食べたくはないか』とか『手を出してゐると危い』とかと兎に角自分と云ふものを自分以外の他のものが心配をしたり世話をやいたりして呉れることが益々珍妙になつて來た。そして可なり大人氣だつた自分が俄に十六七の少女の樣な氣分になつて來て戀人として相當に品位を保つてゐたものが俄に代なしの赤ン坊になつて了つた樣な氣がして來た。殊に昨夜銀座の通で危く電車の疾走する線路内に踏み込もうとした時なんか宇津美は群集の中で吾を忘れて照子を子供かなんぞの樣に抱き止めた。それかこれや照子は久し振りで親身のやうな本能的な強い愛を感せしめられたのである。そして自分以外に手頼るべき何者かに確つかり取り縋つてゐる樣な心強さで氣分が非常に輕快になつて來た。五月の東海道の旅は快絶だつた。大磯あたりから箱根にかけて初夏の海は濃い碧を堪へて穩かである。野の綠の息むれ山々の輪

廓。それ等は一つ一つ二人の心と口とによつて嘆美せられた。汽車の嫌な照子が今度は何時間かの間にか夢の樣に通つて了つた。二人は相對して窓に半身をよせかけながら果物を食べたり額をつき合せて話したり宛ら傍若無人に嬉しそうにしてゐるのが衆目の中心になつてゐることには終まで氣が付かないでゐた、名古屋の停車場に着いたのは丁度黃昏時で、宇津美の嫂や友達が二三人出迎へてゐた。

照子は體裁惡そうな顏をしてお辭義ばかりしてゐた。街の樣子は意想外に繁華なのに驚いた。

『お目出度う』『得意だね』

と云つた詞がチラホラ照子の耳に這つて來る。嫂は慇懃に家のことや日常生活の一端などを語り出してゐた。淸子と云ふ十二になる姪が洋服をきて羞恥んでゐた。これが二人の結婚に少からず不同意を唱へた女だとは何うしても思へない。宇津美はなく

『嫂はごく仁がいゝのですよ。たゞ私のために色々考へて吳れるのだけれどそれが私には一向爲にならないだけですよ。二人の間のことも初めに誤解したものだからいけないのですね。天から頭が舊いのだから吾々の思想なんて解らないのですね。會へばすべて氷解して了ふと信じてゐます』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と云ふやうなことを云つた。又或人は意地の惡い女だとも噂してゐた。そんなことから照子の頭にはいやなタイプで想像されてゐたのが正反對の樣だつた。宇津美の詞が瞬間に合點が行くと同時に地方生活と云ふものが何んでもない明るいものになつて來たのを無意識に感じ出した。街の人達は東京の人以上の活氣を示してゐる。そして先づ商業地！と云ふ色が、、、くつきり直覺された。實生活の激しさから來る壓迫が機敏なしかし狡猾らしい車夫の態度に歷々とよめた。照子はおもしろい所だと思つた。其夜は姉の家に宿つた。先着の荷物が山の樣に四疊半一杯に積まれてゐる。宇津美の從妹と云ふ意氣な女も子供をつれて來てゐた姉婿も待受けてゐて歡待した。初對面の人達がみんな一種異樣な眼を以て新來の花嫁を觀察してゐるらしい。姉と從妹とは臺所下で

『よさそうな人ですよ。汽車から降りて來た時なんか目立つて美しいやうだつたし氣も低いやさしい人ですから私は安心しました』

『そうらしい樣じやなも。中々ハイカラさんで。此荷物はまあ大變なこつちやないかな。どんな大家の嫁入でもこんなことはありやせんぞなも。えゝ嫁さんじやなも』

こんな立話をしてゐた。夕飯の用意も出來てゐた。風呂も立ててあつた。照子は子供らしい氣分になつてそれ等多くの年長者の云ふがまゝに食べたり話したりした。昔堅氣の姉な

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ぞは嫁入前に戀の何のと男と女とが文通したりするのは必度あばずれの墮落者のすることだと思込んでゐるから照子と會ふまではさぞ大柄な輕薄な女だろうと想像してゐたのであつた。案外な初々しい素直な態度を見てむしろ怪しんだ。二人の誤解は何時の間にやら消えて了つた。照子は出來るだけ平凡に詞を少なくして畏つてゐた。やがて風呂から上ると手荷物のかたづけを始めた。宇津美はその側にきて仰向に轉げて

『偉い小さくなつて遠慮してるのね。明日からはもう彼方でお天下樣だよ』

『遠慮じやありませんけれどきまりが惡いじやありませんか』

『明日は職工を四五人よこすからお前監督をして好い樣におし』

と云つた『お前』が初めて聞いた詞であつた。それは昨日汽車の中で

『今から舊いサークルに這入つて行くのですから言葉づかひを改めますよ。勿體ないけれど』

と冗談つこの樣に云つたのを思出した。宇津美は危く『あなた』と云ひ損ねかけたのであつた。照子は何だか愈々型の中に嵌め込まれて行くのだと意識しなければならなかつた。何の血縁もない女を『お姉樣』だの『お母樣』だのと呼んで肉身の樣に思はせ樣とする習慣は變なものだと考へた。そしてやつぱり他人をそして下らない女をお姉樣だのお兄樣だのと口

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の先だけに云つてゐるのが何う見ても壯士芝居にしかなつてゐない。そしてこんな氣分でゐて早一家の主婦と云ふ嚴かな地位に立たねばならぬのが滑稽で仕方がない。

『私何んだか變な氣がして仕方がありませんは。妙に嫁堅氣が出來出した樣な氣がしますのよ。早く明日になればいい』

と照子が隅つこの柱によりかゝつて悲觀すると

『こんな目には二度と逢へないからよく味はつてをくがいいだろうよ。それでも此所には割合に親類がゐないからいい樣なものの國許だと煩いよ。なに遠慮することはないさ』

宇津美は呑氣そうなことを言つて嬉しがつてゐる。照子の屈托顏が面白くて。

其中姉も湯から上つてどつさと座り込んだら中々動かない。一寸近くの物を取るにも一々人手を煩はして落付き拂つてゐる。詞つかひと云ひ物ごしと云ひ虫も殺さない溫雅さである。照子は感服して了つた。しかも話をしたり――眞面目に――仕事をしたりする時には何時も眉間に八の字をよせる。八の字と氣長と無精とは辻褄の合はない樣な彼女の特徴として知人から認められてゐることを宇津美からきいてゐた。

『まあ〳〵これで私は安心いたしました。食べ物のむづかしい溜息ばかり吐いてをる弟のお守には閉口して了ひましたのよ。もうこれからは樂になります。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と優しい口調で笑ひながら話すのを二人はききつつ笑つてゐた。

『姉えさんは苦勞性なんだから生涯損だなあ。放つとけばいいのに一人で氣を揉むんだものねえ』

『そうでもないぞなも』

と傍から從妹が否定してゐた。

『ほんとに濟みませんでしたはね。いい氣になつてお姉樣にお厄介をおかけいたしてをきましてねえ』

『いゝえそんなことはありませんけれど着物なんかも最早余り粗末でも體裁が惡いものですからお金が余ると私が預つてゐては拵へたのですよ。まあ私は何事もない樣にと思つてお不動樣を拜んでゐましたお蔭でね』

と何やかや雜然とした話の中にも弟思の眞心は溢れてゐた。そして今から自分がそれに代つて行くことについて不安を抱いて來た、寧ろ世馴れた人の世話になつた方がいくら桂屆くか知れない』と云ふ樣なことをひそかに危ぶんだりした。

新妹を迎へる料にと新調した絹布團に身を横たへた時にはまこと物新しい感じがした。境遇の變化しつつあることが泌々感じられる。翌朝みんなそれぞれ學校やら工場やらお役

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

所やらに出て行つて了つた後で姉は今度照子の家に使ふ女中の噂が出た。

『今は十七で學校は高等二年まで出たそうですし相當の米屋ではあり生活に窮したのではなくたゞ何處か嚴格な家庭で躾けて ほしいと云ふの ですからまあ使つてみて 下さいましな』

と云ふ話だつた。『嚴格な家庭』と云ふ詞がをかしかつた。今から造ろうとする二人のホームはそんなものとは大分縁が遠い樣な氣がする。それでもまあいい加減に呑み込んでをいた。家は丁度直ぐ隣が二三日前空いたばかりでちよいと心持のよさそうな建物である。とりとめもなく話してゐる間に淺黄の事業服をきた職工が四五人來た。彼等は生活のためにすべてを抛け出してゐる眞劍な顔付をしてゐる。照子はそれ等の人達と口を利いたことは抑も今が初めてであるから何う扱つていいものだかさつぱり解らない。殊に彼等は訛の多い土語の丸出しだから話がわかり惡い。姉にいい樣に斗つて貰つて荷物をときはじめた。奥樣奥樣と崇める樣に云はれるのが氣恥かしくてまごまごする。

『御免やす』

玄關に誰か人が來た。女中が取次いで風呂敷包をさげて戻つて來た。

『何じやしらんがお引越のお祝じやと云ふて持つて見えましたぞなも』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

開いて見るに美事な鯛が大きな皿に横へて笹の葉がのせてある。意氣な名刺には『松浦や小芳』としてある。照子は意外だつた。そうして面喰つた。貰つといていいんだか何うして受ければいいんだか。姉を呼びにやると

『あゝそれは此近所にゐる藝妓ですよ。弟がいつも贔屓にしてゐる妓じやそうですよ。それでは其儘取つてをいて皿にお鹽を一摘入れておかへしなさいよ』

と云つた。姉の常然らしい容子やら常々からの氣の弱そうな憂欝らしい宇津美の手紙やらを思ひ合せると誑されてゐる樣な氣がする。

『あの人がそんなことをするのかしら?』

と考へると不思議なやうなをかしいやうな氣がする。全く初生だと盲信し切つてゐた自分がいかにも間が拔けて見え出した。と同時に宇津美の平常が色々に想像される。口惜しい樣な妬ましい樣な。そしてかねて宇津美の性格について抱いてゐた矛盾の感じが讀めて來た。

『あの人は巧な女たらしかも知れない。私も其掌中の玩弄物となつて澄してゐる馬鹿者かも知れない』イロハから三味の艶かしい音がきこゑて來る。あんな下らない女を對手にせねばならぬ男も憐なものだ。しかしそんな遊びさへもし得ない男に更に憐だとは思ひませ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

んあんな白々しくたいて寄來した宇津美は利口な僞善者かも知れない。男は當てにならぬ』と云つたやうなことを考へたがらそれでも行きかけに荷物の始末をしないわけにも行かぬ姉は何かと世話をやいて呉れる。誠に好人物らしい。晝頃に宇津美は歸つて來た。照子は何にも知らずに平氣な顏をして嫣々してゐる宇津美を見るとをかしくなつて了つた。先づ手にのつた好材料を密つとしまつてをいて『家』を造ることに沒頭した。常には無精な宇津美が今日は尻からげ腕まくりで奔走してゐる

『旦那樣すみませんが一寸此所に釘を打つてお呉れやすなも』

と女中が臺所から首を出す。

『もしもし！ 早く來て下さいよ手がだるくて仕樣がないじやありませんか』

金椽の額を捧げて照子が叫んでゐる。

『まて！ まて！』

流の下でがちやんと茶腕の破れる音がする。姪が歸つて來て叔父さん！ 叔父さん！と呼びまはす。友達も手傳に來る。照子は昨日の氣分は失せて了つて女房氣取りで氣を揉んだ。午後の五時頃には大體目鼻がついた。何と云ふ名の人だか面白い氣剛の友達が切りに宇津美とふざけてゐた。照子は何が何だかわからない夢心地がしてゐる。其夜は四五の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

人達が一緒になつて此新しい『家』の中で食事をした。姉は藝妓からよこした鯛を調理して
吳れた。
『此御馳走は小芳さんからの贈物よ』
と揉つたさを怺へて眞面目な顏付をして云ふと宇津美は吃驚して
『小芳?!』
と邪慳な目をする。
『何うだ！　宇津美確つかりしないか。もう素破拔かれたのか』
此詞の先が無限に秘されてゐる樣な氣がする照子は薄氣味が惡くなつた。
『奧さん何でもありませんよ、たゞ宴會馳走なのですからね。宇津美君と來たらから野暮
の隊長ですからね。それでゐて色男なんだから堪りませんよ。女の方ばかり熱くなつてね。
罪な男でさ』
と云ふも眞實らしくきこえる。宇津美は苦笑しながら
『そうでも無いのだが。小芳の奴仕方がないね。』
と舌を鳴らしてゐた。當分照子には方角がつかない。人は歸つた。新しいホームの第一夜
は來た。宇津美の他意ない容子を見ると一旦鎖した暗雲は何時の間にか消えて了つた。二

人は結婚當夜を懷ひ出してゐた。酒がまはつて大分座が崩れて來に頃に照子はそつと肩の端から宇津美の方を盜み見た時丁度チラと視線が行き會つた刹那の胸のときめきが今でも聞き取れるやうである。仲人が部屋祝言を濟して二人切りになつた瞬間の血の高潮。それが若しも寫眞結婚だつたらどんな氣がするだろう？　照子の友達はその寫眞結婚の感想を話したことがある。恐らくそれは何人も經驗することだろう。先づ第一は不安と羞恥が大部分を占めてゐる氣分である。第二は好奇心である。どんな男だろう？　それで其友達は嫁入の時に途中から厭になつてどうしてもいやだと云ひ出した。仲人が困つて一足先きに其休息所にあてたお茶屋を出で婿さんに會つて出來るだけ手柔にしてれ呉れと賴んでをいて連れこんだことやら。見物人のぞめきが癪に障つたことや。それから最後の逸話として其友達はよく人を笑はせた。それは兼々二人切りになつた時に男はどんな事から言ひ出すだろう？　とんな所作をするだろう！　此二つが懸案だつた。二人は何とも言ひ出さない。間が惡くて仕方がない。方に逃げ出そうとすると男の方から『オイ君！』と言ひ出した。其言ひ振りが洒落だつたので其友達はすつかり好きになつて了つた。それまでは血の沸くどころか恐怖で一杯だつたそうな。殊に人相でも惡かろうものならさぞそんな氣がするだろう。わけも解らないで身體を投げ出すと云すと云ふことは恐しいことに相違ない。日本

の女は大低一生に一度づつそんな日に逢つてゐるのである。照子は色々なことがまざまざと映じて來る。一度毎にさばけて來る宇津美の態度から『あの小芳とか云ふ藝妓もそして其他のまだ自分の知らない女達をもやつぱり斯うした要領で抱くのではあるまいか？男は女が處女であるか否かは直ぐに見分ける。それは最早結婚前に幾多の女を知るからである。』照子は口惜しくなつた。女にはそうした經驗を得ることは出來ない相談だとすると一般の女はまるで男の木偶たる價値しか持つてゐないことになる。斯うして「家」を建設して其中には二人の純な者と不純な者とを同居させてゐる―

「男が女を買ふと云ふことは何う云ふ意味なのでせうか』

『そうさね。僕には分らないけれど別に根底のあるものでないことは明だね。だゞ寂しいからまあ彼等の群に入つて忘れるだけだろうね。も一つは肉的の衝動其者の單獨な欲求だね。まあそんなことだろうよ。そんなことは何うでもいゝじやないか』

と云つて熱した肉体を證據に立てやうとしたりした。

翌日は八時頃出勤した。五時二十分にかへると云つて。其日は一日ドサクサ引つ張襷で働いた。餉の支度もあやしいものだけれど姉の選定によつて好きだと云ふものを用意した。風呂も出來た。何だか最早四時頃から氣がそはそはして落付かない。玄關に音がする度に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

はつとする。五時二十分になると果して宇津美はかへつた。今日こそ使ひはじめた『行つて被入いまし』『おかへり遊ばせ』が滑稽で仕方がない。宇津美は得意そうに『ウン』と云つて顎でしやくつてゐるのに照子だけが女中と一緒になつて一段下つてゐるのが理屈に合はない様な侮辱されてゐる様な氣がする。結婚の前後はそうした禮儀も對等だつたものが――女房としての常套語がまだ〳〵澤山使はれねばならぬ。今までは大低老婢が氣をつけて吳れたのだけれど今日からは自分で着物の用意も洋服の始末もせねばならぬ。何んだか照子と云ふ女は宇津美と云ふ男の小間使になつたやうな形になつて來た。宇津美は珍しそうに家の中を步きまはつた。

『出來ましたね綺麗に。天狗の孫の様に早いなあ――』

『大騷よ。今朝からまだ髮も結へやしませんよ』

『どうもありがたう』

宇津美の顏には新しい喜が輝いてゐる。

『お風呂が出來てゐますよ』

『又風呂か！　まあ後にしよう』

『妙チキリンな人ね。なぜそんなにお風呂が嫌なのでせう？』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

塩つ辛いやら甘つたるいやら出來合のノート料理に宇津美は參つた。でもまあ初めにしては上出來だと云つて努めて食べたらしい。
『叔父さん！』
『清ちやんかい？　お上り』
『あら叔父さん靑碗豆を食べとる。家にをつたときはちつとも食べなんだ癖に』
『嘘お云ひ。食べたよ。欲しいのか？』
『いらん。そんな食べさしなんか』
怒つた眞似して姪は歸つて了つた。
『小芳のところへ何か返さなくてもいいのですか？』
薄笑をしてきくと宇津美も笑つた。
『さうさな。宜しくやつてくれ給へ』
『どんなものがいいでせうか』
『何か東京物があればいいな。彼等は東京物に眩んでゐるからね』
刺繡のある絹ハンケチの三枚組になつたのをた持せてやることにした。
『あなたも油斷がならないはね。女嫌だとばかり呑込んでゐましたのに。でもをかしいな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あ——あなたのお女郎買は』

『そんなこと有りやしないのよ。全くの宴會客なんだから。おゝそうそう明日の晩は早速宴會よ。そして又幹事だ』

照子は好奇心から『早く明日になればいい。どんな氣がするだろうか』と妙に嬉しかつた。宇津美は工場のここ仲間のことなどを説明してきかせた。

『風呂嫌やさん！』

と今度は姿が宇津美の後にまはつてそつと眼をかくした。

『コラッ！　徒小僧』

『小僧じやありませんお孃さんですがな』

面白がつて耳を引つ張たり擽つたりする。姪はお友達を失つて寂しくて仕方がないものだからちよいちよい覗きに來るのであつた。

宇津美は中々お湯に這らないから照子は無理矢理に衣服を脫がせて引き摺るやうにして湯殿に下した。

『お前がゐると氣が急いで垢もとれやしない。』

『なぜ？』

『時間が惜しいじやありませんか。ね！ 照ちやん』
『御馳走樣。御ゆつくり』
戸をしめやうとすると。
『おい洗つて頂戴』
大の字に突つ立つてゐる。
『知りませんはよ。赤ン坊ね』
とは言ひながら背中を洗つたりしてやつてゐると又狂言の樣な氣がする。寶のやうに宇津美は照子を離すまいとしてゐる。
『お前も一緒に這入らないか？』
『いやだ。女中に笑はれてよ』
　顏見合はせて笑つた。其夜は大分妻君を見に來た客があつた。そしてそれ等の人達はお互に惡評をし合ふのが習慣になつてゐる。話の內容が大分耳新しい。實社會に觸れた卑近な話柄に合槌を打つてをる宇津美が不思議に思つて仕方がない。『ローマンテイツクな男があゝした空氣の中によくゐられる！』と思つた。そして可なり手腕がありそうな樣子にきこえる。何だか謎を前に控へてゐるやうだつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

其翌日の午後だつた。意氣な銀杏返の女が四つばかりの可愛い男の子を連れて訪ねて來た。照子の取り亂してゐるのを不審さうに

『あなた樣が奥樣で被居いますか。私は太郎と申す者で毎度旦那の御負屓にあづかつてゐます。今度はこちらへお越しやすたさうでござんすが何分よろしく』

と東京辨と名古屋辨との相の子で挨拶をする照子は斯う云ふ社會の女と口を利いたことがないからどんな詞を使つてどんなことを云へばいいのか、まごついた。丁寧過ぎてもをかしいし粗末過ぎてもいけないいし突差の間に思案した。斷然友達として扱つてやろと考へついた。

『どうも御丁寧にありがとうございます。さぞ主人がお世話樣にあづかりませう。可愛いお子さんですね。おいくつ？　五つ？　そうですか賢いこと！　まあお上りなさいまし』

『旦那はまだおかへりになりませんの？』

『えゝ今夜は宴會だそうですから換着へには歸りませうけれどね。まあお上りなさい』

『手前も今晩はお對手に出る約束で御座います。いつも御酒を佡上りますとおやすみやすものですから北村樣と御一緒にお送りして參りますのよ』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

女を中に入れた醉つ拂ひの三人連が見えるやうである。しかもそれが自分とは沒交渉の事柄のやうに面白い姿で。

『でもお宅の旦那はお若い方々の中では一番お靜で被居います。』

『偉い評判がよござんすね。どうですかね?』

『それでゐて中々面白いことを被仰います。好かれて被居いますから御油斷がありませんよホヽヽヽ』

色氣無しらしい此太郎と云ふ女は照子と氣が合ひそうに思つた。

『殿方はみんな二次會の方が主でござんすから隨分お留守が御退屈でござんせう』

立ち話の端々から待合のなまめかしい行燈のかげをも想像したそして怪しい挑發的な肉の香に知らず識らず引きづられて行く男の弱さが有りありと見える。

『北村樣もよく宅へお遊びにお越しやすがあちらの奥樣もお足がね。お可愛想でござんすはなも』

ブロークンな訛言葉がをかしくなつた。何だか珍しそうな世界が見え出した。

『どうかちつとお遊に。今晩はまたお見送いたします』

と云つて歸つて行つた。美しい方でもよく愛嬌よしでもなくたゞ悧口そうな女だつた。姉

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が來てゐて

『太郎が來ましたね』

『えゝ』

『今晩は又宴會ですか』

『そうですつて。何時位に大低かへりますか』

『二時か三時頃が多い樣でした。よく其頃に眼が醒めると『左樣なら』と云つてコト〳〵足音がすると弟でした。』

學校からかへつた姪が横できいてゐて。

『叔父さん宴會? 明日の朝よお歸りは。ねー母さん。お酒に醉つて車でかへつて玄關に仆れてじやつたはなあ――いつか』

照子はをかしくなつた。宇津美の心事は大低は解つてゐるやうなものゝ揶揄つてやろうと思つて宇津美がかへるこ。

『今日太郎が來ましたよ。そして今晩は切めて二時か三時までにはかへしますてよ』

『馬鹿云へ』

『あら! 本當よ』

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『太郎の奴何か喋舌つたね？』

『えゝえゝ澤山さゝましたとも。お馴染が待つてゐるつて』

『馬鹿だね。十一時には歸るよ』

照子はこんなことを云ひ合はねばならぬと云ふことは豫想外だつた。

『子供をつれて來たッ。ウン彼奴の子だ。何かやつたの？　氣が利かないね江戸つ子にしては』

ほんにそう云はれて見れば氣が利かなんだ。無闇にいろんな試驗をされてゐるやうにしか思はれない。人を馬鹿にしてゐる！

和服のよく似付くのを著て身輕にステツキを振りまはして出た。照子は二階にかけ上つてその後姿を見送つた。街は廣い整然とした大通から無數の小い通が枝の樣に出てゐて電線が巣の樣に縱横してゐる。黃昏の忙しい空氣が次第次第に薄れて行く。平原から平原に移住した照子はそれでも異境の感が深い。

照子は一人で茶ぶ臺に向つた。それは今までの習慣であるからそんなに淋しいとは思はないけれど一緒になつて見ればいかに殺風景なものだつたかと云ふ樣な氣がする。お副食にも一向箸が出ない。『今頃は澤山の美女から取卷かれて私のことなんか忘れて了つてゐ

るに違ひない』と思ふと寂しくてつまらない。『神聖な私の手からあゝした女たちの手に渡したのだ』と思ふとかつて經驗したことのないいやな氣がする。思ふまい思ふまいと無理に卷紙を展げて手紙を書きかけたけれど宇津美のことばかりが氣にかかつてとても想がまとまらぬ。筆を投げ出して再び椽の柱に凭れを怩つと××樓をみつめてゐた。『今までは宇津美は全然私の占有物だときめてゐたのに來てみれば何事ぞ昨日は最早二人の藝妓が宇津美を描いて宇津美を思つて來たではないか――たとへ瞬間にもせよ――そして今夜はそれよりももつともつと多くの女から思はれたり口說かれたりしてゐるかも知れない。宇津美の立場から見たら誰れも彼もみんな美しく可愛く映るに違ひない。そうすれば私と云ふものに對して時間の上からも可なりの空虛を惱へてゐるわけになる――私は二六時中彼の人のことばつかり思ひつめてゐるのに。しかも私は當然私以外の女と愛を爭つてゐる形にはなつてゐまいか？　愛の爭ひ？！　誰れと！』みすみす自尊心が傷ついて行くのが堪らない。

『男が色里に行つた寂しさ――』

こんなことを夢の樣に詩の樣に鑑賞してゐた自分が今の妬ましさは何事ぞ！　私にはまだまだチアームが足りないのだろうか？　何う修養すればチアームすることが出來るだろう

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

？　それにしても男が女を買ふと云ふことが單獨な性慾の要求から來てゐるとすると戀愛と云ふものと性慾とは孤立してゐなければならないはづである。獨立するものだとすると性慾其ものに固有したテクニックと云つたものが存在してゐるのに違ない。男が區別するならば女にだつて獨存すべきだらうに？　たとへば貴婦人が役者買をすると云ふ事實を指定するならば女を男と同樣の生理作用がなければならない筈である。或はそれが眞理かも知れないと云ふ樣な幽な同感が此節は何となく萠した樣な氣もする。果して性慾だけに走るのだとすると其心裡に立ち入つて妬む必要も理由もない。道德的の條件は固より存在し得ないことになつて來る』こんなことを考へて又机に向つて見たが心は活字の上に留まらない。家の中が森として冷い空氣が充ちて夜は更けて行く。『たゞ斯うして宇津美に束縛せられながらおとなしくしてお歸りを待つてゐる！　と云ふことが全で死んでゐる。生々した心持がない昨今急に女房臭く老け込んで來た。自家の要求のために營々として動くのは咎むべきことではないけれど若も手には滿足が與へられてるは與へられないとしたら不公平を憤つたつていい――』

十時から末になると流石に街は靜かになるにつれて××樓の燈が手に取る樣にきこえる。居たり立つたり時計と睨みつこしてゐる間に最早十一時を過ぎた。外に出ると夜氣が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ほてつた顔に快くあたる。闇の空は飽くまで晴れて星が爛々とまたたいて屋根の輪廓がボンヤリと浮いてゐる。それが日本ではなくて南洋か南米あたりの森林の中に行き暮れて佇んででもゐるかの樣にわけもなく心細く果敢ない氣分がこみ上げて來る。十一時半十二時。

『こんなに遲くまで待つてゐるなんか益々女房染みてゐる。これが妻としての『勤め』だろか？　年を取つた！　構はない構はないもう先きに寢よう。それとも私は私のために何か營んでゐなければやり切れやしない。照子はあゝも思つたり斯うも迷つたりして見たけれど結局宇津美で心は一杯だつた。どうしてもがいてもがいても宇美津から逃れて自由に考へ自由に振舞ふことは出來ない。『馬鹿々々しい！　宵からたつた一本の手紙がかけやしない。何と云ふ平凡な弱い女になつたろう?!』と自分で咎めたりして灰いぢりをしてゐるとコトコトと下駄の音がした。無意識に飛出して無意識に引つ張つて來た。

『遲い！』

『お約束より少し遲くなつたね。寂しかつたか？』

『悲しうなつて了つたの。死のふかと思いました』

家の中が急に活氣付いて來た。そして子供が母を見付け出した樣に縋りついて喜んだ。邪推したり疑じつたりしゐたことは晴れやかな宇津美の顏を見ると跡形がなくなつて了つ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た。『これが戀の弱味かしら』
『お酒に醉つた?』
『い――や太郞の奴今夜はいけませんよと云つて呑まさないのだもの』
『へ――え?』
『何うしてゐたの?』
『眞理を考へてゐました。すつかり人生觀が出來上つて了ひましたはよ』
『どんな人生觀が? 少々妬け氣味かな』
『いいえそんな不見識なことは思ひませんけれど』
『けれど?』
噴き出した。今まで以上機嫌がいい。男が外で遊び過ぎて歸つた時に憎くはない妻にきまりが惡くて妻の御機嫌を取る――とは思はれなかつた。衷心の喜悅が溢れて。
『來る早々から濟まなかつたね』
と手枕の上に囁いた。『此手。此肌。幾人の女に觸れたであろうか?』と強いて考へて見た。『甘露の吸糟を珍重がつて此神聖な盃に盛つて甞めてゐるのだ!』と嘲つて見た。大切に藏つてをいた丸々した身體――それが丁度清い谷水が他の濁水と一緒に混せられて行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

く樣な悲慘な心持を與へる。にも係らずそれに反抗することも出來ないでたゞ衝動の餌となつて投げ出してゐることの如何に無意味なことよ！　宇津美は氣乘りのしない照子をなだめる樣に話しかけたり接吻したりして見た。照子は吐息をついて。

『あゝ私もこんな苦勞する樣になつて。戀を離れて無關係に沒頭して行かねばならぬのかしら』

と獨言を云つたりして面白がつた。

一日一日そうした空氣に浸つて行くのが明に自覺せられる。工場の下役人が御機嫌伺に來る。同僚を訪問する。と云つたことに日を送つた。一段落つくと照子は宇津美の荷物を檢めた。往復した手紙が大きなカバンに一杯に投げ込んである。そんなものを一つ一つ繰り展げてみると忘れてゐた樣な當時の實感が思出される。『こんなことを書いたかしら』と疑ひ度い樣な美しい詞も列ねてある。なつかしい過去を辿つて行くと手紙を膝の上に乘せたままで天井をみつめて吐息が洩れる。こんなことを始めると一日や二日はわけなしに經つて了ふ。宇津美の日記を拾ひよみして行くと眞實照子に獨占せられてゐる樣にも思はれる。或日の部には茶屋で初めて呼んだ藝妓が餘り照子に酷似してゐたので思はず其唇に接吻した――と云ふやうなことがある。照子は滿更惡い心持もしなかつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

其翌日書棚の引出を整理してゐると不圖女から來た手紙が一本出て來た文面によると屢々往復してあるらしい。何んでもそれは返事らしかつた。夫も子もある金持の女らしく想像される。意に任せぬ境遇を悲觀したり變名でよこして呉れと云つたり大分頭が混亂してゐる。月日を見ると大分以前には相違ないけれど照子は一時に靑くなつた。手紙を持つた手はわな〳〵と震へ胸の鼓動は烈しかつた。さうでなくても次第に潑溂たる氣分を失はうとしてゐる照子はもう憤慨と悔恨とに堪へられなくなつた。

『何しに私はこんな運命を求めて來たろう? よくも信じ切つた。何たる不明だろう!』

と思ふと口惜し涙が頰を傳ふ。やがてそれが力無い悲哀の涙に變つて行つた。

『何うすればいいだろうか? 何うすることも出來やしない。これだけの運命だ』

と自問自答して終日鬱いてゐた。二人が面と對つてゐる間は忘れてゐるのだけれど一人になると必ずそれからそれへと想像を逞うする何やかや境遇の急變につれて考へごとの多かつた此一月ばかりの間にめつきり老けた樣な氣分になつた。奥樣同志の交際もある親族關係もある。煩いと云へば隨分煩い人生になつて來た。しかもあの手紙の主が氣にかかつて照子は明けても暮れても煩悶せずにはゐられない。それがたとへ挿話に過ぎないにしても宇津美の記憶から抹殺することは到底不可能い。考へて見ると宇津美の心は風に破られた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

芭蕉の様なものである。『一そ破懐して了はうかしら？　宇津美と云ふ男は一體山の者か海の者だらうか？　それでも現在の宇津美は確に全身的である。それを振り離すことはこれ又不可能事である。』照子は惱んだ擧句に『たゞ現在の刹那々々に生きよう過去や未來は何うでもいい』と云ふ人生觀の下に立脚した。そしてとにかく歩きかけた女房と云ふ妥協の道を出來るだけ自由な氣分で行く處まで行くより外はないと決心した。そして熟々『つまらない』『馬鹿げた芝居だ』とは思つたものの獨身生活の暗黒面と比較して直ちに批判することはむづかしいと云ふやうなことをゝ疑つたりした。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

旋頭歌試作——柴田かよ

柔き青草の芽を輕くし踏めば
眞白なる指の先より春がしみこむ

我胸に戀心の殘れるに似て
青草の中にぽつちり紅き花咲く

日一日に青み行く草、汝をし見れば
我心とりこめもなく和らぎて行く

きし〳〵ときしくめる心くるほすごと
おけら虫地の下よりちいちいと啼く

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

街を行く乙女等の衣、紫の衣
晩春の都の土の薫りをぞ吸ふ

柔にうるほへる我魂のうまゐに
入る夢か、黄色なる蝶ひら／＼と飛ぶ

暮れて行く春のため息山つげの木の
肌を辷りて轉びてぞある赤土の上

倦くことを知らざる地は。また大いなる
口を開きて我命をも吸はんとぞする

すく／＼と丈のびて行く太き筍
子にも似て、こだはりもなく丈のびて行く

——大正二、三、七作——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

成長の後に ——山田邦子

十七年もたつてから、かうしてあなたにお手紙を書いて見る氣になつたのが、ほんとに不思議です。私のやうな氣まぐれな、私のやうな投げやりな、私のやうな飽きつぽい性分の女が十七年といふ長い年月、ほんとに一筋に少しのまぢりもなく透きとうつた心で今日まで續いてあなたを忘れなかつたといふ事は、私にしてはほんとに奇蹟だと自分に驚て居ます。

あなたも憶えておいでだろうと思ひます、あの木造りの粗末な小學校を。私は其學校に通ひ始めてから一週間もたゝないうちに、まつくろになつてあらけ廻つてゐる惡戯坊子の間から優しいなあたを見出したのでした。

其時あなたは荒い矢ガスリの羽織を着て、白つぽい縞の暖かさうなフランネルのシャツとズボン下を可愛い手くびと足くびからのぞかせてゐました。

あなたの顔の線はほんとに柔く、さうして少しの心の動搖にも、直ぐに細い血管に赤い

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

血が流れると見えて、譯もなく顏を赤くなさいましたね。

けれどあなたのパッチリした瞳は時に負けぬ氣にキリッとつりあがり、可愛い口元が同時に『へ』の字に結でれる、さうした時のあなたは何物をも征服させなくては置かないやうな男々しさと誇らしさが全身をひきしめてゐました。——かういふ時のあなたがどんなになつかしく幼い私の小さい心に深い印象を殘したでせう。

授業の時間にはあなたは眞直に先生の方を見て熱心にお教授を受けておいでゝした。ですから受持の宮本先生はあなたが大の御ひいきで、間もなくあなたは一躍して。二番の席にうつるやうになつた、それは私の直ぐ後ろの席でしたから私とはほんとにお話の仕よい處でありました。私はあなたが大勢の小さい人たちの羨望の目を一身に集めながら向ふの方の席から石盤や續木や硯や筆や、一まとめにして包みをかゝへて私の測を通つて後ろの席に腰をおろされた時、何んとも言へぬ嬉しさが私の心のどこかで踊つてゐました。

私は學校が樂しくなりました。殊に授業時間が樂しくなりました。算術を早くしまつては後を向いてあなたとお話をしました。讀本の下讀みを早くしまつては後ろを向いてあなたとお話をしました。

六月に這つてからの或る一日、三時間目の習字の時間には、暖い太陽が眠りを誘ふやう

に、あの青葉になつた庭の梅の木から明るい光を投げかけてゐました。私は太筆を持つたまゝ家にでも居るやうな氣持になつて後向きに、學校の授業時間といふ謹みを忘れて面白くあなたとお話をしてゐました。

『秀代さん、まつすぐにお向きなさい』

宮本先生のお聲！　私は熱い水を胸にぶちまかれたやうに驚いた、どう向きなほつたか丸で無意識に太筆を硯につきこみました。と硯には明るい光線が一杯に射して、墨は處々に忘れた程づゝ殘つてゐるきりでした。

『だつても水がないんだもの』かう小聲で言つてしまつて、私はさう言つた自分が憤らしくつてかきむしりたいやうな心になつてゐました。

『もう一度言つてごらんなさい！　先生に向つて口答へをするなんて……』宮本先生のお聲が高くなつた、私は自分の醜い處を、えぐられるやうな心持になつて、森となつた教場の、どこにも心のやり場がなく恥しさにちゞむやうでした、徹さんも聞いてゐる！　徹さんも聞いてゐる！……さう思つて私の心は丸で汗と油に心の底までいりつけられるやうでありました。

其日の歸りがけでした。校門をはなれるとあなたは少し笑ひ顏をして『今日叱られた人

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は誰れだつけ』と中音になつてかう言つた、私の心は譯もなくちゞんでしまひました。其時どうしたはづみだつたか。二三日前に先生があなたの後に立つて笑ひながら『これは何』とお尋ねになつた、私がふとふりかへるとあなたがはつとしたやうにかすでん何と白いメリンスの兵兒帶に手をあてた處で、帶の下から赤い繪本のやうなものが透いて見えてゐた。『繪本なんか學校に持つて來てはいけませんよ』と宮本先生が小聲で御注意なさつた、其事を其時遇然にも思ひ出して、『自分だつて叱られたくせに』と、我れにもあらず私は小聲で言つてしまひました。『己れが叱られた、いつ叱られたの?』かう言ひながら肱を張つてあなたはどこ迄も私に詰めかけて來ました。私はだん／＼と町並の左側を流れてゐた小川の方へよつて行つた、寄せ詰められた川の岸に(キ)の水車が淋しい音をたてゝ廻つてゐました。其時私の瞳には絞られるやうな涙が湧いて來ました。――あなたを怒らせた事が言ひやうもなく淋しかつたのでした。やるせなかつたのでした。

けれど私達二人の喧嘩はあの小學校生活の六年を通じて只つた此時一度きりで、さうしてそれはやがて私達の生涯を通じて唯一度の喧嘩であつたのでした。

あなたのお家の土藏の裏で、毎日／＼始まつた芝居ごつこも、一ケ月とたつうちに、だ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ん〳〵とだれて來て、櫻井驛の別れや二宮金次郎のやうな眞面目な科白(せりふ)のはゐる芝居の代りに、醉つぱらひや盜賊などの行きあたりばつたりの芝居ばかりが多くなつて、金紙をはり付けた冑や、赤く塗つた刀なんかはそこらに投げだされたまゝになり道化たやうな風をした人ばかりが出て來るやうになつた、さうしてあなたは其道化仲間に、自分の心に向つて薄笑ひをしながら這入つてゆく處が何故か私の心によく合點されました。あなたが古びた中折帽をかむつて、松の枝を折つてこしらへたパイプをくわえながら、多勢の道化の仲にまぢつた少し赤らんだ笑ひ顏をしながらそれでも胸をつき出して、舞臺の上に現れた、――と同時に見物がどつと笑ひこけた、其時あなたは一番先きにパイプを投げ出して笑ひ出しておしまひでした。其のいとほしい姿は今もあり〳〵と私の心に殘つてゐます――あなたは可愛い乳齒を出して笑ふ方でありました。……

けれどもこんな道化も半月とは續かなかつた、見物が三人減り五人減り、いつか私も見にゆかなくなりました。

其頃は秋も終りに近づいた頃で、寒い風がかさこそと町の中を吹いて通つて、どこからともなく乾いた黃色い葉がまつてくるやうな時になつてゐました。

私は家から言ひつけられた用事によそへ廻つたので、其日は友達よりも一人後れて本包

みをかゝえながら、太陽が町の西の方に赤くしたゝつてゆく頃物淋しいやうな心になつて、あなたのお家の前を通り、あの火の見櫓の下をいそぎ足にぬけやうとしました。『秀代さん！』後ろから呼びかけられて何氣なしにふりかへると、あなたが追ふやうにかけてくる。

『どこに行くの！』あなたのお顔を見た私はいつもの通りたとへやうのない嬉しさに胸をしたしながらニッコリしてかう聞きました。

『東村の叔父樣の處まで』かう言葉を切つておいて。

『又芝居見に來ないの』と言葉をたした。

『いやよ、あんな面白くない芝居なんか』

『此度は面白いよ、役者も大勢揃つたもの』かう言つてあなたは椎の實を食べはじめました。

『いやよ』もう一度私はかう言つた。……けれど私は始めからちつともいやではなかつたのでした。あなたの居る處に每日行つて居たいといふ心が胸一杯になつてゐたのです、けれども、私の口は私の心と丸で反對な事をどこまでもまことらしく言ひこめて、自分自身の心をたとへやうもない窮地に追ひこんで自ら苦しむで居つたので此私の妙な癖は今もい

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ろ〱な方面で私をなやまして來て居ります。

其年は案の定、あなたが一年生の總代となつて、修業證書を頂きました。さうして私たちは二年生になりました。

此年も敎場は同じでした。けれどどういふものか二年の時にはさしたる特別な印象も殘さず唯なつかしい心が一筋に絶えず續いてゐたゞけで年が暮れました、此頃から二人の幼い名は學校の板戸や白壁に誰れかの幼い字でしるされるやうになりました。

學期試驗もすんでいよ〱證授與式が來た、其年は私が總代で證書を受ける事になつてゐました。

其日は晴れやかに太陽の輝いた暖い日でありました。私は友禪縮緬の被布をきて、あの南側の日あたりのよい小庭の方に鐘の鳴るのを待つてゐました。と『女のくせに生意氣だや』とはつきり聞えて續いて二三人の笑聲がする、私はふと其方をふりかへりました、するとそこに、よろびかゝつた柵に寄つて二三人の男の子が私の方を見て笑つてゐる。其なかにあなたもまぢつてゐました。——私の心には眞つ暗なものゝなかへつき落されたやうな淋しさと賴りなさがひし〱と一時に迫つてまゐりました『女のくせに生意氣だや』さ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

う言つた事はたしかに徹さんだ、勝氣な徹さんだもの、私がかうして總代になるのはそれはきつと面白くないに定つてゐる……私の心はつぶやくやうにこんな事をくりかへして、たとへやうもない淋しさに一人ぼつつりと離されてしまひました。

あんなに仲よしなのに、……かういふ恨みもないではないが、どんなにあなたが私を好きであつても、自分を乘り越してしまう時其好きよりも力の強い自分の或るものが、何よりも内に光つて來る。……それ程あなたは勝氣なんであつた、私はどういふものか其あなたの心が分りすぎる程分つて居りました。私は一人思ひました。徹さんに憎まれるやうな總代なんかしたくはない、總代なんかやめてしまつて、昨日までの氣安い心でいつものやうにあなたと仲よくしてゐたい、とくりかへし〱思ひなやんで居りました。そうしてあの廣々とした講堂に何百人と集つてゐる式場のぞよめきのなかでも私の心はいつまでもいつまでもぼつつりと、始めてその大勢な人のなかを歩いて免狀を受取りに行つた其時のとゝろくやうな心のかげにも淋しい物悲しさはなほ影を曳いて居りました。私がこんな優しい心、女らしい心を持つて向つたのは、其幼い時のあなたに向つた心でかりであつたと物心は私に何も語つてをります。

高等一年に進んだ年の五月でした。私達の故郷の地理を敎へられる爲に、私達は故郷を一周する事になつた。長閑な五月の日をあびてあの山又山を越えてゆくに人家をはなれた山の平に、菫やたんぽゝの花がのんきさうにあたり一面に咲いてゐた、私たちはどんなに喜んで夢中になつてそれを取つたでせう、旅行といふ心が不思議に一同を氣樂に結びつけて、日頃は女生徒に口でもきかうものなら大騷ぎをする男の生徒も一緒にまぢつて嬉々として花を摘んで居りました、先生も笑ひながら摘んでゐました。

『秀代さんあげやう』あなたが赤い顏をしながらきれいに摘んだ花を双手にあまる程持つてニツコリして置いて行つた、私の心は其時太陽に向つた鏡の前に立つたやうでありました。

『秀代さんあげやう』『秀代さんあげやう』

男の子たちは女王のやうにみる〳〵私をとりまいて我れも我もと花をくれた、あたりが俄に一段とにぎやかになつて、『い〻わねと秀代さん』とか『私にも摘んで下さいな』とか癇高い女生徒の聲、と入り亂れて一しきり又花をつんでやつたり貰つたり暫くしてゐたのでしたけれどあなたは決して外の人には花を分けてはやらなかつた、それが私の心を限りなく幸福に喜ばせました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

其翌年はS町に始めて滊車に乘つて修學旅行をする事になつた。私の心は去年の花の咲き亂れてゐた高原をくりかへしく〵思つて樂しく旅に出てゆきました、けれども其年はどうしたものか女生徒は女生徒、男生徒は男生徒で妙に堅くなつてしまつてたまに誰れか話かけてもなんだか妙にぶつきらぼうになつて、無邪氣に親しんでゆく事が出來ませんでした、私はひそかに淋しい心で行きも歸りも滊車の響を聞きました。

其時から私の心につかみ處のない寂寥が胸の底深く、黑く淋しくおどみました。

それから後はだん〴〵とあなたと口をきく事が出來ないやうになりました。それも其はづ、あなたのお家と私の家とは親類でもないし近處でもない、かうした二人がだん〴〵と成長してだん〴〵と遠くはなれてゆくのは世の常然の事でした。

其來年あなたは中學校へ行つてしまふ。それで私との交際(?)もぽつつり切れてしまひました。まれに道で御目にかゝる事があつてもお互に無言のまゝですれ合ふより仕方がない事になつてしまひました。

五年——十年——十五年——あなたはあなた、私は私でいつか二十をこしてしまひかうして三十になり四十になり、やがて死んで行かなくてはならない。

此間、久しぶりで故鄕に歸つて、宮本先生をお尋ねした時、あなたが今は關西の方にお

住ひだといふ事を伺ひました。

はてしもなく、はなれ〴〵になつたものだ、と私は其時しみ〴〵さう思ひました。さうして一人こんな手紙を書いて見ました。

死の前の粧ひ

安田皐月

一

千代枝が頭を擡げた時はもう雨戸の隙間から明るい光線が流れ込んで、黒塗の障子の棧を曇硝子の樣にぼか〱して居た。その前から醒めて居た千代枝は起き樣と思ひ乍ら、何となく懶い樣な氣持でうつら〱夢の跡を追ふて居たのでした。

黒い床の上に倒れて居た頭のつる〱禿げた小さいお婆さんが、むつくり起き上るといきなり太い杖を持つて、眞黒な板戸を押開けて出て行つた。戸が敷居に乘つてどうしても工合よく開かないのをこじ開けこじ開けして居た樣だつた。千代枝は眞暗な中で頻りに

『死んで居るつて退屈な事だ。如何し樣、何をし樣』

愚痴事を呟いて居たが又お婆さんの後からとぼ〱と出て行つた。

後に組んだ手の尖が冷い塊に觸つて居るのに氣がつくと氷の樣に冷えた小さい軀を負ふて居たのだつた。時々背中の子の筋肉のぴく〱と動くのが千代枝の體に係はるので、『生

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

きて居るのかしら。生きて居乍ら此處へ來ちやそりや取返しが付かない』と考へ乍ら、醫者の控室にずん〳〵這入つて行つた。火鉢の前にまん丸に座つて先刻のお婆さんが冷めたい冷めたいと云ひ乍ら、その冷い死んだ體に毛布を幾枚と云ふ事なくとぼ〳〵と老人ぢみた容子で卷いて居る。千代枝がその顏を覗くと、矢張り目を閉ざた死んだお婆さんだつた。

冷い觸覺がまだ指尖に殘つて居る不思議な夢の後を追ふて居るうちに千代枝はとりとめない不安に取卷かれて、一寸動いても胸がチク〳〵痛みさうで、この儘そつと自分には觸りたくない樣な懶い氣持が、だんだん千代枝を寢床の溫もりの中に引入れて了つた。

十疊の狹い方を床と違棚に切つた細長い部屋に、千代枝は床の方を枕に寢て居た。違棚の亂箱に昨日着て來た着物が疊まれ這入つて居る下に、大きな袋と一緒に石鹼箱のはみ出したごむの袋が置いてあつた。

千代枝は赤銅色した引手に赤い房の下がつて居る襖が此上なく古風めいて、それ丈けでもこの部屋が自分の今の身の置處に相應しい氣がしたので、その襖と障子の隅に置いてあつた衣桁に疊んで了つた長襦袢をわざ〳〵障子の方へかけさして襖の方へはしごきを懸けてその源氏繪の樣な空氣の中に睡むつた昨夜の事を思つて、千代枝は夜の方が氣持よかつたなどと思つて居た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

大變嬉しかつた引手の房も今朝見ると薄汚く汚ごれて、田舍芝居のお姫樣の振袖の房の樣に赤黑くなつて居た。

千代枝は又目を閉ぢた。そして死んだ人の樣に動かなかつた。

も早や紅葉も散つた村はづれの此頃は、八時を廻つた朝もひつそりと人氣なく靜まつてる中に、遠くの瀧の音が時々かすかに聞えて來る。

もう今頃はお婆さんの炬燵の中で、小さい妹が新聞のお伽欄を讀んで聞かせて貰つて居る頃だらう……千代枝は白い牛乳呑に乳を充して一昨日の朝まで自分の部屋に持つて來て呉れた叔母の顏を思ふた。夜の寢床の湯たんぽのお話まで氣を付けて呉れる母の老いた顏や、肌襦袢まで縫いて呉れる大きい妹の濃い眉毛や、それからそれと連續的に頭に這入つて來る色々の影を追ふて居るうちに、廿五の今日まで母のもの一つ、祖母のもの一つ手に掛けた事もなく、云ひたい方代仕たい方代を遣つて來た自分が悲しくなつて來た。

年寄はこの寒さからめつきり衰へが見えて來た。木の枝にたつた一枝ぶら下つた枯葉が一風吹いても飛んで行きさうな危さが、年寄にも窺はれるを思ふて千代枝は底冷い哀れさを感じた。

目はさ程でもないが耳の恐ろしく遠くなつて、何の用もない冗談言を大事件の樣にくど

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

くどと聞返へされたりすると、直腹が立つて滅茶苦茶な事を云つたり、幾度〻幾度も聞き飽きた古い話をくど〳〵と話される煩はしさに、自分丈けの想像を勝手に延ばして居るので、お婆さんの話とまるで無關係な頭と口で丈け返事をする處でないのに勿體らしい返事をしたりしては

『又餘計なお饒舌をしたかね』

などゝ口をつぐんで寂しさうな顔をして居る氣の毒さなどを思ふと、お祖母樣の爲にも恁うして家人と離れた日を送らうとして出て來た自分の大それた我儘を情けないと思ふのである。

柔い羽根蒲團に圍こはれた樣な愛情の中に女王の樣な穩か權威と公然家人の前に許されて居乍ら、其中に落ち付くにも出來ず踠ぎ拔いて來た千代枝は一昨日の朝の事を靜かに思ふのである。

一二枚の着換に襦袢や本やを詰め込んだ袋を雪が玄關に運んだ時、

「傘はどれ?」

『草履は此處に入れてあるよ。汽車の中や散歩の時などに入るからね。此處ですよ』

母は袋のふくれた一所を叩き乍ら、忙しなく云つて居た。手提を持つて廊下を駈けて來

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た妹が

『姉様鏡が這入つたでせうか』と云つた。

恁那どさくさした中に千代枝はどん底に沈む樣な氣持で一一皆に合點いて居た。そして豊潤な愛に慊らなくて強烈を求めてさ迷はねばならない自分は、何處へ行つたら落ち付けるのだらうと考へ乍ら、觸ると涙がこぼれさうな心持を抱いて、出來る丈け皆の顏を見ない樣に急いで車の中に隱れて了つた。そして繰返し繰返し

『恁うする外動きが付かないんだから』と呟やいて居た。

只もうとりとめない一日一日が過ぎて行くと云ふ事が千代枝には堪えられなくなつて居た。習慣的に他動的に創造のない生活が昨日から今日へ今日から明日へと人並に押進んで行く丈けの現在から、如何しても如何かしなければならない。恁うした日が續けば續く程生一本な赤裸の自分が破れて行く。今、この今如何かしなければもう永久に胸底に潛んだ自分にも何だか分つては居ないのだが、兎に角偉大なものを葬り失ふのだ。今を通り越せばもう駄目である。凡てに馴れて、凡てに痲痺して凡てに睡つた人間になつて了ふのである。千代枝は斯那事を考へた後いつも群衆に押されてとぼ〳〵と殺風景な人生の大通りを無抵抗に動いてる哀れな自分の顏を見るのである。恁うなると批判する隙も、解剖する力

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

もなくなつて、只不安の塊のむく／＼と肉を持上げる樣な胸の壓迫をかくして平氣で家人に接しては居られなくなつて來る。終日部屋に籠つて、見えに廣げた本の活字の白くすいて居る部分をいつか持つた鉛筆で塗つて居る。或時は雜誌の端に

元より少なかつた燃料が盡きた樣です。冷え切つて氷となる事はまだ氷は未來があるでせう。炎燈のまゝ其永い未來を待つに堪えない。誰でもいゝこの燃えさしに油を注いで呉れたら。何でもいゝから思ふ樣煽つて貰ひたい……

こんな事を書いてくしや／＼に消して居た。

隣の部屋に母と妹が裁縫し乍らとりとめない話をして居るのが時に堪らなく耳に付いて聞くまいと努める程猶聞えて來る。いら／＼して兩手の指を耳の穴に押入れて雜音を食ひ止め樣とすると此度は耳の底の方から起る轟といふ音の又底から、とぎれ／＼に矢張りごと／＼と頭の中に這入つて來る。聞くまい聞くまいと仕乍らいつの間にか頻りに聞耳を立てゝ、それに惱まされて居るのである。刹那時千代枝は袂で耳を覆ふて机の上に突俯し乍ら、さも取返しのつかない程衰へ果てた樣なはかなさを感じてじめ／＼と泣いて居た。

刹那日が幾日も幾日も續いた後、纒るありつたけのものを離れて、過去も未來もそつくり其儘遠方へ離して、たつた獨りの自分になつたら其時は正直な自分が見られ樣、正直に

剝ぎ出した二人の生活が味はれ様慫うした氣分で旅行の思立ちを家人に告げはしたものゝ、流石にしめつぽい氣に滅入つて居た。それに如何したつて、何處へ行つたつて、如何自分を周圍から切離したつて、夢我夢中で一直線に突走る様なパッショネートな行動のとれさうもないと云ふ事も心の何處かに仕方のない諦めとして重く沈んでは居るのだつた。千代枝はさうまで明確り意識して居なくとも自分より相手のパッションにより多くの期待を持つて——と云ふよりは自分が失敗した曉も相手のパッションは失敗を覆へして成功にして呉れると云ふ様な事を無意識の中に待ち望んで居た。精三にも自分にもまるつきりの未知の地を撰んだのも、回想や追憶に相互に迫る力強い緊張を犯される事のない様に考へたからであつた。

二

千代枝は先刻一寸頭を擡げた時に搔卷の袖の肩の下で皺になつてごろ／＼と氣持の惡いのを苦にし乍ら、身動きする懶さと寒さに猶靜平として居た。そして今日の夕刻か明日の朝ほか着かない精三を待つと云ふ事より外に今は何の用もない體を横にして、今頃はどの邊りをどんな氣で急いで居るのかなどゝ思ひ乍ら、幾度も數へた梁の數を又端から數へ初めた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

千代枝は瀧から落ちて來る水が十幾丈の下を辷つて來る流れに添ふた樣に立つて書院障子の柱に背を凭せ乍ら、今朝よりものんびりと落ち付いた氣分になつて居た。昨日までの事が遠く淡い影に薄ぼんやり霞んで、自分とは掛け離れた樣な隔りが出來て居た。恁う靜かな心で千代枝は、自分を見た時直男は如何して呉れるだらうとか、部屋へ男が這入つた一番始めに自分は如何し樣、屹度衝動の刹那の閃めきを曲げる事なしに振舞へるだらう、精三はどんな顏をするかしら……懷かしいものを追ひ詰めて行く樣にそれからそれと考へるうちに、精三と自分の顏が頭の中に明晰り浮んで、飛び付きたい樣な懷しさと孤獨の寂しさとが新らしく湧いて來た。

千代枝は岩から岩と水が避けて通つたあとを跳んで居る鶺鴒の可愛い姿を窺ふ樣に見乍ら氣を換へ樣とした。今迄も想像で髓まで味ひ過ぎては逢つた時の空虛な心地に毎々深酷な悲哀を烙き付けられるのに千代枝は懲りて居たので、顏を見るまでは精三の事も出來る丈け考へたくないと思つた。そして如何してこの所在ない時間を後で振返つても自分丈けに殘る印象を止めない樣に過ごして行かうと思ひ乍ら川の底を窺いて居た。

直この家の前の平らな道を十町とか行くと瀧が煙の樣に落ちてゐるのだと昨夕車夫が話してゐた水までの十幾丈かの傾斜には永年生ひ延びた杉や、赤い實の生つてゐる栘の葉の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

樣な木やが高く低く生えては居るが、そこをきれいに道をつけて岩の上に降りて行かれる處は來る道には處々にあつたと思ひ乍ら千代枝は直前を見ると、此處には燒杉に針金を通した玩具の樣な柵が結つてある丈けだつた。

千代枝は一寸笑つた。何だかこの木なからましかばと云つた垣根以上にこの柵が邪魔に見えたので、今朝女中に

『餘計な事をしたものだ』と云つたら

『そやかて危うおますすんですせ。此の春ゑらい事がおましてなあ、ゑらう醉ふてはつた若いお人があんたはん、この高い處から轉げはつてなあ、こない木が生えてまつしやろ、ごえらい杉のおましたとこやよつて、下まで落ちはらんうちにこつ〳〵お頭打ちはつたんであんたはんお頭の骨がざく〳〵になつて了ふたそふでゑらい騷ぎだした。丁度夕方だしたよつて氣味が惡うて氣味が惡うて皆よう外へ出しまへんのでつせ』

恁麽樣にすら〳〵すらと云ふよりはずる〳〵すると語と語の切目もなく引ずつて行つたむく〳〵肥えた女中の軟い調子が、いつか神田の緣日で向鉢卷で威勢のいゝ男が飴を引き延ばして居た容子を思ひ出させた事を思つて千代枝はをかしかつた。

千代枝は向側の山の中段のあたりに葉の失なつた大きな枯木が、こんもり茂つた常綠樹

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の間には枝を延ばして居るのを枝振りで楓と櫻の見分けをして居る土堤の上の細い道を若い娘が二人して落葉の大きな籠を肩で吊持ちして下りて來た。前の方の娘は被ぶつた手拭の端が風でひら／＼するのを片手で直し直しして居たが、思ふ様にならなかつたと見えて口に食べて了ふと後の娘が急に笑ひ出した。今迄何か云つて居た續きなのか、それとも手拭の片方はづれた形が後から見てをかしいのか堪らなさうに腰をかゞめて笑つて居る。千代枝は自分まで笑ひ出したい様な氣で見送つて居るうちに二人は細い丸木の切口を揃へた土橋を渡つて茂みの中へ隱れて了つた。その上の邊を一團の濃い雲が重く沈んで居る。千代枝の眞正面の大きな楓の木の上にも一塊りつ黑雲が周りを白い雲の中にぼかして沈んで居る。川の底の鶺鴒ももう居なくなつて居た。千代枝は動くものの何にもなくなつた眼の前の葉色を究度なく眺めて居るうちにじめ／＼と滅入つた心の底からほろ／＼涙が落ちて來た。それを拭きもせず千代枝は懷手の儘柱に寄つてあとからあとから湧いて來る涙に白い頰を洗つて居た。

三

千代枝は今朝の夢の樣に冷くなつた體を火鉢に凭せかけても一度電報を膝の上に廣げた。そして今夜灯の這入つた頃から愈々自分の新らしい生活が始まるのだと思ひ乍ら、寂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れた樣な氣で火箸で灰をいぢつて居た。始めは灰の中の塊りを集めて居たが終ひにはきれいにならした上へ生活と書いたり、心と書いたり、充實となつたり、寂寥となつたりして居たが遂に Deillusion と書いてくしや〳〵に消して了ふと火箸を置いた。

床に活けてある蔓もどきの蔓が拍子よく搖れて居る。千代枝は暗い床の間をすかして見ると青い蜘蛛が此處から下がつて居たのだつた。

千代枝は一年間築いては破り、破つては築いて來た戀の歷史——といふよりは生の奮鬪史と云ひたい程苦痛の跡だらけの——を振り返つて寒い心地となつた。

『餘りに求め過ぎて來た』

千代枝は餘りにあせつて餘りに求め過ぎた事を思ふのだつた。靜かに靜かに來るものをぢつと待つてぢり〳〵と握まうとする丈けの餘裕のなかつた自分のぢたばたした醜態を考へると、灰色のねば〳〵した泥繪具の中に離れ〳〵に二人もだ〳〵轉がつて、踠けは踠く程だん〴〵どろ〳〵の灰色の深みの中に落ちて行く、そして益々ぢれて、益々離れて行く無慘な活畫を見る樣な氣がするのである。そして千代枝は絕望を感じた。男と逢はない前の自分とどれ丈け異つた生活をしても居ない。自分の生活を眞正直に生活してゐると云ふ自信さへも持つ事に躊躇しなければならない。一歩を踏み出す前に必ず考へる。右の足に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

し様の、左足にし様か、斜に出さうか前に出さうか、千代枝は心の止み難い要求に不可抗的な欲求に迫られては一足だも歩く事が出來ない程顧慮する自分をどれ丈け慊りない者と思つて來たかしれない。そしては其慊りなさが強ひても沈滯した感情を掻き亂して一夜造りの衝動の中にでも浸らうと努めては見るが又それが千代枝の醒めた心に見苦しい虛僞を印するのである。自分の行動を知り過ぎる程知つて居る千代枝は只動く度に寂しみを報ひられる丈けであつた。さう知り乍らもそんな事を繰返して許り居た。

千代枝は此那狀態で疲れ切つて絕望して居た。もう何處に食ひ込んだ自分の生活があるのか何處を刺したらの自分僞らない血潮が溯るのか、千代枝は無暗に霧の山路をのた打ち廻つて、とうと蛭の鼻に座つたのであつた。

千代枝は膝に載せた電報の送達紙を二つに折つた。それを又端と端と合はせて二つに折つた。そして紙が棒の樣に細く折れた時

『何時まで經つても何處まで行つても同じ事だ。息のある間續く苦悶だ――』

呻く樣に呟くと電報を火にくべた。そして黑い煙を上げて燃えてゐる紙に頻りに灰をかけて居る。

四

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

千代枝は寂しい體を横にして肘を枕に寢て居ると隙間から這入る風に亂れて居る襖の緋房からいつか、大袋の底に秘めて來た短刀の金茶の袋に長く垂れてる同じ房の事を考へて居た。そして想像でそれからそれと、冷たく冷えた肉體に雪の様なシーツと、燃える様な房と、派出模様の長襟袢などの鮮かな色彩を被せて眺めて居ると　千代枝は自分乍ら崇高な感に打たれほろ〳〵と泣けて來た。

外はいつか風になつて、ざあ〳〵と云ふ間に太い枝の呻る響が聞える。何處か障子の剝がれ目がビヽヽヽと鳴つとる中で千代枝は凡ての解決が死だと心の中で繰返して居る。踠いては遣りそこない踠いては遣りそこなつて來た失敗の歴史を、光明にひつくりかへして呉れるものは屹度ある。そしてそれは凡てを無に歸する死の様に思はれる。

千代枝は今宵から展開して行く二人の共同生活に餘り多くの期待を幻影とを求め過ぎて居る事に氣が付いた、氣が付いたと云ふよりは始めから恐れ乍ら、此處まで突き進んで見たかつた、突進まないでは居られなかつたのだつた。恁うした企てが二人を必ず一つにして呉れると云ふ自任よりも、一つになるとこれが唯一の殘された方法だと云ふ信念に引つられ此處までおびき寄せられたまでだ。

此處まで考へると千代枝はむつくり座り直した。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

外は薄日が翳した來たのか障子が先刻より薄明るく見えて居た。先刻から鐵瓶がシーンとなつてゐる。もう二時間で男は自分の前に來る。千代枝はその時どんな生活が開かれるかを思ふと、息がつかへる樣に苦しくなつた。

千代枝は帶の間に手を差し込んで、感受性の摺り切れ切つた自分が、不相應に大きい欲望を抱いてびく〳〵動いてる慘めな體と考へ乍ら、雨上りの道に長々と橫たはつたぶよぶよに膨ひ切つた樣な蚯蚓の骸の樣な自分の最後の運命を思はずにはゐられなかつた。

千代枝は靜かに鐵瓶の音を聞いてゐる。

自分の幻滅の苦患も逃れ、遠方から蕭々しい生活を夢想して、凡てを抛つて二時間の後に目の前に來る自分の男のイリユージョンも傷ける事なしに、却つてイリユージョンを崇高に淸淨に彩る仕方を撰ぶ外自分の生きる道はない。只一瞬間に私は生きる。

千代枝の引締まつた靑い顏に只唇丈けが燃える樣に紅かつた。

五

千代枝は鏡臺の前で濡れた髮をたをるで拭き拭きすいて居る。

『遲うお洗ひやしてお風邪召したら惡うおまつしやろに、お寒うおまへんか』

女中は華奢な友禪のかけ蒲團を二枚重ねて裾の方へ折重ねると、敷蒲團のシーツが雪の

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

樣に白く表れた。

『おゆるりお休み』敷居に手を突いて出て行く女中に千代枝は

『連の人が來るまでもう用はありませんから……見えたら直に案內して下さい』

恁う云つて頰紅を掌に溶いて居た。

薄暗くなつて來た部屋に竹籠を被せた洋燈が小さくともされて居る。丁度外の暗さと內の明るさと同じ位の中で千代枝の眉刷毛が音もなく動いて居る。（をはり）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜と私――らいてう

『青鞜』を野枝さんにお讓りするについて

今迄、私の責任であり、私の仕事であつた『靑鞜』の經營と編輯と補助團の仕事の總てを今度野枝さんにお任せすることにいたしました。そして私は只書きたい時に、私自身として書かざるを得ない時に書くことといふ極、自由な、ありがたい身の上になりました。就いては私がかう決心する迄の社の狀態や、私の心の經過の一通りを、出來る丈具體的に此處で書きたいと思ひます。

社が成立つた最初はともかく多少眼鼻がつくやうになつてから、私は自分に事務の才能などの少しもないのを知つてゐましたし、又さういふ仕事にたづさはりたくなかつたので、經營の方は久しく書店任せにして參りました。のみならず社の會計や事務の方は、發起人の一人であつた保持さんが茅ヶ崎から上京して以來は、社に起居してやつて下さいました。ですから私の責任は只編輯の方と每月何かしら書くといふこと丈だつたのです。校正の時

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は哥津ちやんなり、野枝さんなりが手傳つてくれたりして居ました。

ところが保持さんはお自身として出來る丈のことをしてゐられたにも拘はらず事務家としては私にも劣らぬ不適當な方のやうでした。それに長い間御自身の心の問題で惱んでゐられたので、とても社の面倒な事務などに堪へられないやうな狀態でしたので、私は餘儀なく保持さんにかはつて、その方の仕事もあはせて引受けることにしました。保持さんが間もなく歸國されるについては、社はさしあたり私の巢鴨の小さな家に移すことになりました。

けれど私にとつてはこの事にはある苦痛が伴つて居りました。自分がぢつと靜に物を考へたり、祈つたり、書いたり、戀愛したり、休息したりする『自分の住家』といふものは、いつも出來る丈外からのものに邪魔されることのないやうに、いつも靜かに、安全に保ちたいといふのが私の日頃からの願ひでしたから。なぜなら、ほかの人はどうか知りませんが、私の生活に、私の心を育てるに何よりも必要な、一日もなくてならぬ糧は靜かな時をもつことなのです。しんみりと落着いた氣分に置かれて、ぢつとながめて居ることなのです。あるものに心の總てを長く集注してゐる狀態をもつことなのです。これなしに、私はどんな貴い經驗も自分の世界のものとすることが出來ないで、だん〳〵瘠せて、小さくな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つて、仕舞には自分の世界といふものがなくなつていくのです。

私はこんな人間です。ですから色々の人が勝手な時に訪ねてきて、色々な郵便物がしきりに飛び込んで來て、色々な雜務が身邊に押し寄せてくる社といふものがたゞさへ狹い私達の家にはいつてくるのを苦痛なしに迎へられなかつたのはお察し下さるでせう。

さうかと言つて、社を別に置くことは、自分が一切の事務をとらねばならぬ以上は色々の不便があることや、事務の停滯を來すことや、時間を無駄にせねばならぬことや、出無精な自分に打ち勝つことの困難やを、以前『萬年山』といふお寺を事務所にした時の經驗でこりてゐた私にはいやだつたのです。で、とうと私と社とは一緒になつて仕舞ひました。

これが昨年三月から四月にかけての出來事でした。

その上、『青鞜』はこの少し前頃からいくらか賣れ行きがわるくなつて居ました。で、書店は四月に契約期限の切れるのをいゝ機會に、斷つて參りました。

私は重ね〲なことで困つたものだと思つて居ますと、ある書店の主人からかういふ話が出ました。『青鞜が書店の手を離れて非常に困つてゐるやうなら、自分は商賣としてはする氣はないが、青鞜社の事業に對する多少の同情から好意的に發行や發賣のお世話をしてもいゝ』といふのでした。私はその主人について何も委しいことは知りませんでしたけ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れども、ともかくも某氏は此等の友人であり、文科大學の出身者であり、女學校の教頭であつたといふやうな話をきいてゐたのですから、多少の理解はある人だとある信用と、敬意をいつかしら拂つて居りました。早速に『青鞜』を任せることにしました。ところがいよ〳〵發行間近 になつて、突然、無法の理由のもとに一片の手紙で斷つて來ました。私はそのために却てまた少なからずまごつかされました。好意好意と反覆説かれたり、恩にきせられたりしたあげくの果てが、こんな始末なので、私はひどく腹が立ちました。そして理解のない人に自分の仕事の一部なり任せておくことにすつかりこりて仕舞ひました。二度と書店などの手はかりまい、どんな慘憺たる經營でも自分自身の手でしていかう、私はもつと社のすべてを自分の生活の中へ入れて仕舞はねばならなかつたのだ、社と私とはもつと一つにならねばならぬとかう決心して出來る丈の勇氣を出して見ました。斯うしてこの無經驗な素人の私が雜誌の編輯者でそして經營者といふことになつたのです。

心を決めてかゝつては見たものの私には少しの金もない、親の保護を離れた私には今日の食べものを得る金があつたりなかつたりする位でした。社には使つてならない補助團の金が少しばかりある丈でした。色々の苦しいやりくりの中からしてともかくも五月、六月、七月、八月と續いて出して行きました。私は眼を閉ぢて色々な商店へ廣告も取りに廻りま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

した、支拂日には集金にも出かけました。無精な私には、人中へ顔を出すこと、人を訪問することの大きらいな私にはこれはどれ程の奮發だつたかしれなかつたのですけれど、不馴れな私のすることは勞するばかりで何のかひもありません。毎月々々の損ばかり重なつて行くのです。私は色々の雜務の上にそろ〳〵借金の重荷を負つて歩かなければならなくなりました。私の周圍の人は寄附金を募集したらとも云つて下さいました。世間の所謂富豪達を訪問して、私達のかんがへを話してみたらとも言つて下さいました。又編輯の仕方をかへて、際物を少しづゝ入れてはとも云つて下さいました。けれどそれらのことは、私には出來さうもない、いやなことばかりでした。

必要に迫られるとは少しづゝパンにかへて來た私達の所有品も限りあるものです。私はどうにかしなければならぬ〳〵と思ひながらも矢張りどうすることも出來ないで、毎日いろ〳〵して落着のない心で、廣告を取つて歩いたり、集金に出たり、原稿の催促をしたり、申譯ばかりな寄贈書物の紹介をかいたり、そのひま〳〵に自分の原稿を書いたり、印刷所へ行つたり、校正をしたり、發送をしたりしてゐるより外仕方がありませんでした。その上自分の書くものもかういふあわたゞしい時に、自分の内的の要求もなしに只毎月何かしら書かねばならぬといふやうな雜誌のための必要から、時には自分自身にとつて空虛な文

字もいやいや列ねてゐるやうなこともありました。

私はかうしてほんとうの私自身の心の世界をだん〳〵失はうとしてゐたのです。

この年は私の生活には大きな變化がありました。私の心の中には色々の動搖があり、色々の新しい經驗を次ぎ〳〵に迎へねばなりませんでした。從つて心に味ひしめねばならぬことや、深く考へねばならぬ色々の問題にも出逢つて居たのです。けれど雜務から雜務をあとから〳〵追つかけてくる私は是等のことを一々とりあげてゐられませんでした。是等のことは私の魂の面をかめたかと思ふとそれなりいつて仕舞ひました。一つの問題が順に現れたかと思ふと形も與へられないですぐ消えていつて仕舞ひました。私は貴い色々な心の經驗を與へられながら皆粗末にしては捨てゝきて仕舞ひました。自分の心を育てるために讀みたいと思つてゐた書物も、何一つ讀めませんでした。書きたいと思つたことも書けませんでした。

私は心の底からの飢えを覺えて來ました。自分といふをつく〴〵考へねばなりませんでした。そして『靜かな時が得たい。靜に考へたい、靜に勉强したい、靜に書きたい。』と只管に願ひました。

かういふ散文的な生活が只私を疲らせ、私の心を小さな、貧しいものにし、私の中の高貴

なものの總てを汚し、私から光と力とを奪い去るものだと氣付いた時、私は慄然としてをれずにはゐられませんでした、と同時に私自身に對する眞愛を缺いてゐた自分を思つてある罪惡感に打たれずにはゐられませんでした。

私は心の飢えた、影のうすい切れ〳〵になつた自分を眺めて、しみ〴〵とした涙を落して居りました。

でも、まだこの時は『青鞜』をやめやうと迄は思つて居なかつたのです。

私の頭の中には又しても書店といふものが浮んで來たのです。それにどうせこのまゝでは九月の紀念號の出せないこともわかつて居ましたので。

で、私は八月から九月にかけていくつかの書店を交渉して見ました。多少の望あるらしい處は皆あたつてみましだ。けれどどれも〳〵だめでした。そんなことをしてゐる中に、私はまた〳〵疲れて來ました。例の頭の壓迫が烈しい頭痛と一緒になつて參りました。頭の中は上の方から重いものがかぶさつて來てすつかりふさがつて仕舞ふやうな時もありました。そして始終烈しい音をして鳴つてゐました。私は何も出來ません。

九月號はこんなことでとうと休んで仕舞ひました。もう何もかもほりだしたくなくなりました。けれど休刊又は廢刊とするにても三週年の紀念號丈は出さう、その上でよく考へ

て見やうと思ひました。

紀念號はともかくも出しました。けれど私は今後をどうしたものか少しも分りませんでした。第一疲勞に疲勞を重ねてゐる私には物を考へる力がなくなつて居ました。葉書一枚滿足にかくのが容易なことではなかつたのでしたから。

私は旅に出たい、旅に出たら、そして今の自分の仕事から、この境遇からしばらく離れて、靜に考へたい、そしたら却て本當のことがわかるだらう。最もよい解決がそこに見出されるだらうかう考へました。

で、私は自分の最近の感想を集めて出すことにし、(現代と婦人の生活です)その稿料の一部を印刷所への支拂の一部にあて、殘りの一部をもつて十月十二日にこの土地へ來ました。凡そ一ヶ月半といふ豫定で。

野枝さんは私の旅に出ることを贊成してくれました。さて留守をたのんでいく人といつては矢張り野枝さんを外にして一人もありません。私は苦しまぎれに只でさへ忙い〱といつもこぼしてゐられる野枝さんをつかまへて、どんなことがあつても十一月と十二月號をやつて下さいとたのんだものです。野枝さんは留守中の社のことを一切引受けて下さいました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

旅へ出てからの私は久しぶりで解放されたやうな、何分自身にかへつたやうなのび〱した氣持になつて最初の幾日かは社のことなどは全く心に浮んできませんでした。お天氣さへよければ毎日〱濱の砂丘で日光浴をする、海岸づたいに散歩をする、靜座をする、好きなものを靜に讀む、濱の地曳の魚を買つて來ては自分で料理して食べる、東京から送つてくる『現代と婦人の生活』とエレンケイとの校正とをする、こんなことを日課のやうにしながら私は只管自分の心とからだの健康の囘復に努めて居ました。

けれど、頭の壓迫や痛みは思ふやうに治らずに十月はいつて仕舞ひました。

十一月の七日でした。私は『青鞜』と一緒に。野枝さんから興奮してかいたらしい長い〱手紙を受取りました。

『やつと雜誌が出來ました、けれどもいま私は自分の無能なのをつく〱と考へさゝれて居ります。

私の意久地なしにもあいそがつきました。出來上つた雜誌まぬけさかげん本當にこまつたものです。もとより思ふやうになる筈もないのですけれどこれはまたあまりでした。出來るなら私は十二月號の編輯をお斷りしたいとおもひます。とてもわたしのいまの時間では餘地がないのですからこんな時間のかゝる仕事をしやうとするのは押がふといの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

です。あなたのいそがしかつたこともおさつしいたします。私もどうかして續けてやりたいとはおもつてゐますけれども今の處お斷りしたいのが七分どほりです。尤もそれがもう少し私の生活とヒッタリくつついてしまへばですが今の處この仕事は中ブラリンですからなかなかやりにくいのです。もしあなたがすべてを私共の手に委して下さればもう一度覺悟し直して辻と一緒に出來る丈けやつて見てもいいともおもつてゐます。勿論そうなればいろいろまだおうち合せしなければならないこともありますがとにかく現狀のまゝでは誠にやり惡くくて困ります。それは重にあなたの代理としてやつてゐると云ふ觀念の爲めに生れる心づかいが一番主になつてゐます。あなたは屹度かう私が云ひますとその心遣ひには及ばないと仰有るでせうけれどもそれで決して私の心遣ひは止まりさうにもありませんから何か彼か心配しい／＼やるものですからどぎまぎしてまふのです。これは本當に。無邪氣でない心だと叱ります。私もさう思ひます。自分のやる丈け無頓着にやればそれでいゝのです。私の心づかひは見榮坊からなのですけれどそれをどうすることも出來ません。その心遣ひが減じさへすればいゝのですけれど。でもこれは今私の氣持が興奮してゐるからかも知れません。なをもう四五日考へさして下さい。けれども私の本當ののぞみを云へば矢張りこの面倒な仕事をあなたの生活と一致させること

にお努めになる事です。雜誌をすつかりあなたのものにしておしまひになることです。そしてあなた一人の仕事として本氣になつて忙しい生活をなさることをおすゝめしたいのです。そうすれば屹度雜誌だつてよくなると思ひます。私は此度つく〴〵考へさゝれました。如何に雜誌を出す時の最初の雜誌の所有者と云ふものが漠然としたあいまいなものであつたかと云ふことを――それはあまり對他的であつたと思ひます。そして私たちは今絕對の個人主義の上にたつてゐます。その間のには何の無理もないやうに思へますがよく／＼考へて見ますと私にはまだうすいものを一重へだてゝゐるやうな感がいたします。それでとにかく私はどうしてもあの雜誌をあなたのものとしてそして婦人たちに開放すると云ふとにして頂きたいやうな氣がします。その方があなたの生活がもつと徹底して動かなくなりはしないかと思ひます。私としては忙しいとこぼしてゐても忙しい生活の方がなんとその生活にぶつかるやうな氣がいたします。然しそれは私の獨斷的な考へに過ぎません。あなたの先天的な體質がまたは精力がそんな忙しい仕事をもつだけの可能性を有しないと信じてお出になれば致し方はありませんけれどもしさうでなかつたらばもう直ぐに一月號ですししますから私は今までの小うるさい情實をきれいにふきとつてしまひたいと思ひます。私は何だかまだ世間の人の前にさらけ出さねばならぬも

のが多少殘つてゐるやうな氣がしてなりませんそれを多くの目の前できれいにお掃除をして大びらにあなたのものになさいまし、それを他人が何と云ひませう。それが當然のことですものだん／＼に長びくと情實が多くなつて時機が外れてとんだことになりさうな氣がします、もしどうしてもあなたが一人で忙しさに堪へて行けないとお思ひなさるなら、そしてもつと勉強する時間がないではゐられないとお思ひなさるなら無期限で編輯と經營の事務丈けをお引きうけしてもよろしう御座います。それはお斷りする迄もなく私たちの生活とその仕事を一緒にひつくるめる爲めに私たちの生活の形式を變更しなければならなくなりますからです。勿論すべてあなたの注意をまたねばなりませんし書いて頂かねばなりません。その代りにさうなれば私も充分働きます。私は忙しい雜務の中に飛び込みます先づ私の正直な考へはこの二つです。だん／＼に經營は困難になつて來ますし書店なんか何處でも引きうけさうにもありません。先づ私の考へでは今後三四年間は私たちの手にもつてゐた方がいゝと思ひます。そのかはりに私は保持さんのやうな無責任な事はしたくはないと思ひます。併し成るべくならば先づ後の方は願ひ下げたい位ですあなた自身で經營なさるのが一番いゝと思ひます。さうすれば編輯や校正のお手傳ひ位はどんなに繰り合はせてゝもいたします。私に家の用事と子供の世話がなかつた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

らあなたにこんな無理な事を云つたりへマな事はしないつもりですが何分にも乳ばなれのしない子を他家へ一二時間づゝあづけては出かけるのだものですから思ふやうに用を足すことも出來ない仕末です。それに辻はいま校正で忙しくつてちつとも手傳つてもらへないので殆んど何もかも手一つと云ふ有様ですから忙しいこともおさつし下さい。それにまだ食ふことの心配までしなければなりません。それが順序をつけて形づけて行かれないので皆手をつけなければならないのですべてが形づかないで雑然と私をとりまいてゐます。私は實際どうすればいゝのだかわからなくなつてしまひました。あゝもしなければならない、かうもしたいと思ふは思つても手がとゞかないのです。どうしても人でも一人おかなければやりきれません。併し今私たちの事情として人を使ふ餘裕なんかとてもありませんそれでもし置くとすればそれ丈けの餘裕を私が働き出さねばならないわけです。處で私がいくら働いても青鞜の經營ではその餘裕は出そうもありませんそれを出さうとするのには永い計畫が必要です。今の處ではあなたの生活をさゝふる最底額の費用となる程の原稿料さへ覺束ない次第だと私は思ひます。ですからとても一ケ月や二ケ月ではさう云ふことをするわけにもゆきませんから來月（十二月號）は全く困ります。一たんお引きうけしたのですからあなたの方の氣持しだいではどうしてもとは云ひ張れ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ませんけれども何卒もし雜誌を御覽になつていけないと見込みをおつけになつたら矢張り十二月號からあなたがおかへりになつておやり下さい。その方が私にとつては安心です。けれども折角靜養し勉强してゐらつしやるのをむりにこんないやな處に引きづり戻すことの不快さを思ふとかなしくなりますあなたを割り合ひに知つてゐる私としては。とにかく考へて下さい。私も熟考を重ねます。私は今自分の無能をまざ〳〵と見せつけられて苦しんでゐるのです。安うけあいをしたことをお許し下さい。この位ならおうけ合ひしない前の方がよかつたのでした。とにかく冷靜なあなたの判斷を待ちますそのうちには私の考へ方もちがつて來るかもしれません。もうよしませう。左樣なら

五日夜　　　　野枝より

らいてう樣

私の頭の中には又今更のやうに社の問題が一時に蘇生つて來ました。私は色々考へずにはゐられませんでした。けれどさうすぐいゝ解決の方法も見出されません。

『忙しいあなたにその上こんな手數のかゝる仕事をさせてはあんまり無理な話なのです。それは私にも分つて居ます。けれど、ともかくも十二月號丈は一旦引受けて下さつたのでもあり、今一つ奮發してやつてのけて下さい。留守中の全責任をあなたが有つて下さ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

る以上、どんなことをなさらうとそれはあなたの自由です。私に對する氣遣ひなどには
どうか打ち勝つて下さい。今私は色々考へて居ます。あなたの仰有る二つの方法につい
ても勿論考へて見ませう。どうぞ今少し私の考をまとめる丈の時間を私に與へて下さ
い。』

私はこんな返事を出してから二日三日と考へ續けました。

雜誌の仕事と私の生活とを一致させることに努めるなら、雜誌をすつかり私のものにし
てしまひ。私一人の仕事として本氣になつて忙しい生活をするなら屹度雜誌だつてよくな
ると野枝さんは云つてくれる。けれどどんなことはもう今の私の問題ぢやない。私は社を
いよ〳〵自分の家に置き、書店とも離れた時。そして經營編輯の總てを私自身の手でしや
うと決心した時、その時以來私は私として出來る丈の努力をもつてさうして來たつもりな
のだもの。しかもその結果はどうだらう。

問題は雜誌經營者として私の無能そのものにあることは疑ひないことだと私は思ひまし
た。

又たとへ最初の雜誌の所有者といふものが漠然としてゐたにせよ、最初の出資者が私で
あり、私以外の發起人になつてゐた人達が總て去つて仕舞つた今日、そして總ての事が事

實に於て、私の手によつてなされるやうになつた今日、雜誌は當然私の所有であり、從つて、雜誌に對する總ての責任と自由とが私にあるのだと自覺してゐましたから、世間の人の頭にどんな印象が與へられてゐるにせよ、私自身としては實際仕事をとる際に、そこに何の小うるさい情實といふやうなものは別段にさう感じてゐなかつた。私が經營のことについて、私の周圍の人たとへば岩野さんなどに相談することのあるのは矢張り自分が經營者としての何の自信もない處から來てゐるのだ。云はゞ私から好んで相談に出かけるのである。岩野さんと私との思想の根本に於ける相違はあくまでも相違である。そこに何の情實もない。又もし過去の『青鞜』の有名無實な形式を――例へば今日社と無關係な中野さんをみたり人としてそのまゝおいてあるやうなことをさすならば、それは名目とか形式とかいふものに對する私本來の無頓着と、變史屆を出すことを怠つた私の無精に過ぎない。だから今改めて總てのことを大勢の前にさらけだし、雜誌は今後私一人のものにしますと事新しく云つて見たからつて、私のこの本性が今のまゝで變らない以上、雜誌の上にも、たいした相異はあるまい。

　私はどうしてもこんなことは根本の問題でもなんでもないやうに思はれました。そして私に十分のことの出來なかつたのは矢張り私自身の力の不足である、かういふ雜務の中に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

送る散文的な生活が靜かに生きやうとする私の本性と到底相容れないといふところから來てゐるのだとより外思はれませんでした。

實際私はどう考へ直してみても雜誌の編輯者又は經營者としての生活に徹底したほんとうの自分の生活を見出すことが出來ないのです。

私はもつと自分の本性に從つて生きたい。そこに私のほんとうの生活があるのだ。私のほんとうの成長があるのだ。慌しい雜事のために私の中の貴い力を放散し、私の生命の中から活力を奪ひ去られてどうしやう。自己を外にして、私の心の中の世界を育てることを外にして婦人問題も婦人の自覺も私にある筈がない。今迄の自分の所謂仕事に對する惰性や、執着や、未練や、周圍が造つたつまらぬ偶像のために、自分自身の眞の要求や、自分自身に對する眞の愛をごまかすやうなことがあつてはならない。私は今年限りいつそのこ『青鞜』を奇麗に廢刊することにしやう――

私の心はだん〳〵こんな風に傾いてくるばかりでした。

けれどまた一方。『青鞜』に對する私の愛は容易に否定することが出來ませんでした。經營や編輯などの雜事に對して何の未練もない私も、こゝまでともかくも育てゝ來た『青鞜』そのものにはなほ多くの未練をもつて居るのです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『青鞜』もほんものになるのはこれからだ。今がほんとうの第一歩なのだといふやうなさゝやきが心の何處かできこゑよす。此處まできて止めるのは私にはいかにも殘念なことのやうにも思はれてならないのでした。

さうするさ私の心には野枝さんによつて、野枝さんの手によつて續けて行つて貰いたいといふ第二の考へに落ちていきました。野枝さんは今一番私を理解してゐてくれる人だ。ふたりは思想の上に或共通點をもつてゐる。しかもふたりは本性に於て全く相反して傾向をもつてゐるのだ。もし私の本性をかりに靜的だと呼ぶなら、野枝さんの本性は動的である。野枝さんは絶え間なく忙しい生活の中に緊張したほんとうの自分を見出して行くといふ種類の人であらう。そして今その野枝さんが幸にも自分からこの忙しい雜誌の仕事を引受けてもいゝと迄云ひ出してくれたのではないか――私の心はこんなことも言ふのです。

今迄のふたりの位置をいれ代りにして、私の位置に野枝さんを、野枝さんの位置（最も親密意な味での寄稿家又は執筆者といふ）に私を置く、これが私にとつてこの上もなく結構な、そして久しく望んでゐることのやうに思はれました。

けれど、また同時に私は疑はずにゐられませんでした。あの忙しい野枝さんがその上この忙しい仕事を、しかも今この困難な狀態にあつて、たとへ引受けるにしても、ほんとう

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

にやつていかれるものかどうか。私には何だか實行の出來ない相談のやうにも思はれてならないのでした。

ともかくも逢つて話した上でにしやうかう思つて私はこの二つの考を抱いで、十一月十三日の夜上京しました。すると私と行違ひに野枝さんからの手紙が十四日の朝『御宿』から轉送されてきました。

（前畧）經營の方は何卒お考へ下さい。もしあなたがなさるのがどうしても氣がお進みにならないやうならば、あなたは毎月屹度おかき下さることにして、私達一生懸命に働いて、あなたにさてもそれでは生活の全部と云ふことはむづかしう御座いますが廿圓内外位の程度ではじめのうちはお送りしてもつと勿論上げられる時にはお送りしますし少い時もあるかもしれませんが――續けて行けるかもしれないと思ひます。なんだかいろんなことをきめてかゝることを不快に思はないで下さい。これは私達の具體的な考へですから。それで雜誌の署名もつとはつきりさせて、もつと緊張したものにして行つて見たいと思ふのです。すべての點で今誤解されたり、全でうやむやでわからないやうな内部の色もはつきりさせて何かずつと新たなものを讀者の頭に入れるやうなことにして――。どうでせう。私そうなればすつかりもつと生活の形式をかへてその方に盡力の出來るやうにしたいと思ひ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ますけれども、さうすれば私も編輯なんかもつと簡單に短時日で出來るやうな風に考へたり其處はいろ〳〵にして見ませうから。一つ委かして見て下さいませんか、併し署名人丈けは矢張りあなたがいゝと思ひます。責任は何處までも私たちが負ひます。署名人の迷惑になるやうなことはめつたにしないつもりですから何卒信じて下さい。

もし御決心がおつきになりましたら一日もはやくおしらせ下さいまし、私もさうなれば本氣になつて働きますから。けれどもまたあなたが御自身ですつかりなさる決心がおつきになれば私は更にうれしく思ひます。そして出來る丈けお手傳ひしたいと思ひます。どちらにしろ、あなたのお心一つですから何卒一番いゝ解決を期待してゐます。事實に於てあなたの事業ですからね、どの途私はあなたのお手の屆かない處を委かてし頂く丈けなのですもの。では左様なら奥村さんに宜しく

辻からもよろしく

野　枝

明　子　様

これでもつて野枝さんが今非常に解決を急いでゐるのだといふこと、私がかうして色々考へ惑つてゐる中に野枝さんの方ではずん〳〵考へが進んではゝ決心もついて仕舞つたら

しいといふこと、何かしら經營についての見込も少しはついて、多少乘氣になつてきたらしいことなどが私にはつきりと感じられました。そして私は野枝さんのこの態度をよろこびました。けれどなほ一方では野枝さんはあまり樂觀し過ぎてゐるといふやうな氣もしまいにされるのでした。けれどこれは自分の無能がまねいた苦しい經驗からきた野枝さんに對する一種の老婆心といふものだつたかも知れません。

その上、私は經營と編輯のあらゆる事務を野枝さんに一任するとすれば、今、野枝さんによつて提出された雜誌の署名人といふことも無論御斷りしたい、單なる表面上の、又は名目上の所有者であり、責任者でありたくない。又それが當然のことだと思ひました。のみならず引受けるものの側から考へても、一旦引受けた以上はそのすべてを自分の所有にし、隅から隅まで自己をもつて滿たさうとするのがほんとうの願でなければならぬ。まして日頃の野枝さんとしてさうあるのが當然である。私には何だか野枝さんの私に對する寧ろ恐かしいある氣兼ねとか心遣ひとかいふやうなものが思はれるのでした。

それから今一つ毎月書けといふことも、しばらく靜に勉強し、落着いて、少しまとまつたものが書きたいと思つてゐる今の私として辭退せねばならぬことでした。

こんなことを考へながら、私は十五日の朝、野枝さんのお宅に伺ひました。そして、色

々のことをお話ししました。

野枝さんは大變元氣でした。活き〳〵としたものがからだ中にあふれてゐました。私は大變力强い感じがしました。

野枝さんの決心はもうすつかり極つてゐるやうでした。そして從前の上の色々の計畫なども話しました。樂觀し過ぎてゐるといふやうなことや、困難な方面のことについての私の杞憂と注意と、もう野枝さんの心を動かすものではありませんでした。

今、すぐにも引受けやう。すぐその手續をしやうとせき込んでゐるらしい野枝さんを、私はしばらく押へて、なほ、念のため今一度よく考へて見ること、そして十七日の午前に面會し、總てを決定しやうといふことをお約束してその日は別れました。

『あなたが今後どんな困難があつても『靑鞜』に關する總ての責任を最後までひとりでもつて行かれるといふほんとうの決心がおつきになつたのなら私は安心し、感謝し、そしてよろこんで總てをあなたにお讓りいたします。もし其日あなたはその決心をもつておいで下さるのなら、すぐ社の所有物も一緒に受け取る丈の用意をしてきて下さい。私は出來る丈時間の浪費をはぶくため、明日あの家（上駒込の）と同時に閉ぢて仕舞ひたいと思

ひますから。これらのこともどうぞお含みおき下さい。』

十六日の夜、私はこんな意味のハガキを出しました。

十七日の晝近くに野枝さんは社に來ました。野枝さんの眼には自信と勇氣と決心の色が輝いて居ました。

私は野さんに讓り渡し社の責任と仕事と、所有物の總てを手渡しました。只創刊號から三週年紀念號まで――丁度三年間の『青鞜』各一部を私の手に殘して。そしてこの事を新年號で發表する約束をしました。その時、私は斯うなる迄の自分の心の經過を書くと言ふことも云ひました。

午後、社の荷物は野枝さんのお宅に運ばれました。

私が自分達ふたりの荷物をまとめて曙町の家にあづけることにし、いよいよ上駒込の家をすつかりたゝんで仕舞つた時はもう夜の九時頃でした。

私は長い間の重荷をやつと卸したやうな氣持がしました。そして私の心には野枝さんに對するある感謝の念が湧いて來ました。二日前、野枝さんのお宅で伺つた、辻さんの私に關するあの夢の話――それは私がある湖水に身を投げて死んだ、その湖の崖の上には私が

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

乘り捨てたといふ馬が前脚を高くあげて躍つてゐる。犬がしきりに吠えるのに、見ると、私の死骸が水の中によく見える。辻さんはその死骸を引き上げて、色々手あてをしてゐると、間もなく蘇生したといふのです――なども思ひ出されながら、と同時に過去の自分に對するある淋しい別離の感情も味はれのでした。

やがて是等の感情はすつかり消えて仕舞ひました。私の心は只これからの自分の新しい生活。自分自身のほんとうの仕事とい ふやうなもので一杯になつていくばかりでした。何はともあれ、早く歸りたい。あの靜かな海邊の村へ、愛する者の只ひとりで待つてゐるあの村へ。

そして私は用事も何もかもそこ〳〵にすませ、もう誰れにも逢はすに、二十日の夜また此處へ歸つて來ました。

こんな次第で、今度から『青鞜』は野枝さんのお手によつて育てられることになつたのです。で前にも申した通り、今後の私は只執筆者として、自由に書かせて貰ふことになりました。これから私は靜に勉强して、多少なり自分の心に許せるやうなものを發表していきたいと思つて居ます。けれどここ半年ばかりは主に勉强の方に多くの時をつかひたいと考へてゐますし、又いまゝで書きたい〳〵と思ひながら時を得らずにゐた少し長いものに心

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を集注したいとも思つてゐますから、もしさうなれば、自然『青鞜』の第一は少ししか書けなくなるかも知れません。出來る丈書きたいとは思つてゐますけれど。

最後に私は今後の野枝さんのお手をまつてゐる多くの忙しい仕事と、多くの困難とを豫想して野枝さんのこんどの御決心に對して私としてのあらむかぎりの感謝を捧げます。

（大正三、一二、一二）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「青鞜」を引き繼ぐに就いて――野枝

新しきものゝ動き初めたときに舊いものから加へらるゝ壓迫は大抵同じ形式をもつて何時もおしよせて來るやうに思はれます。

青鞜が創刊當時から今日迄加へられて來ましたあらゆる方面に於ける壓迫がこの種のものであることは今更云ふ迄もない事ですが更に私たちの主張が從來の歴史的事實からあまりに離れてゐたと云ふ事が――それは勿論人々から壓迫を受けたり反抗されたりするも重な原因ですが――豫想以上に人々を驚かし惑はし不思議がらせました。そしてその懸隔があまりにひどかつた爲めに、私たちは容易に他の人々と近づくことが出來ませんでした。そうして誤解を重ねあやしつれ先入見の爲めにお互ひにその間隔を近づけやうとはしなくなりました。けれどもまた却つてそれが衆人の好奇心を呼びました。そして不思議にも私達は他の雜誌のやうには經營の困難を感ずるやうな事はありませんでした。併し私たちの眞面目な思想や出張は流行品扱ひにされました。皮想な眞似のみをしたがる淺薄な人達の

行爲が私共の上に迄及びました。そして私たちは世間で八ケましく云へば云ふ程自巳の內部に向つてすべてを集注しやうとしました。

それは私たちにとつては實に一番適當な又眞實な態度で御座いました。けれどもそれが爲めに世間との隔たりはだん〳〵遠くなつて仕舞ひました。誤解はさけずにそのまゝ私たちに對する世間の人たちの固定觀念となつて仕舞ひました。

けれども私たちはなを一層自分自身のことについて考へなければなりませんでした。實際それに私たちの私生活は社會とは沒交捗であることが最も自然らしく思はれました。それで出來る丈け社會との煩はしい交捗を止めやうとしました。

併し世間の人達の好奇心が何時迄も續く筈はありません。私たちは必然に社會との隔たりにぶつかりました。私たちはまづ經濟的の苦痛を知らなければならないやうになりました。そうして今やつと私たち、少くとも私丈けは自然社會と自分を前にして考へなければならなくなりました。

私は先づ此處迄に至る私の氣持を洗ひざらひ此處に擴げて見やうと思ひます。

最初青鞜を創刊する時の態度が第一に旣に間違つてゐたやうに思ひます。私はその當時の事は本當に委しくは知りませんけれども少くとも今迄に私の知り得た事から察しても平

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

塚氏の仕事であつたことは疑ひのない事實だと思ひます。處がそれは全く違つた形式で發表されました。社員組織だと云ふのです。私はたゞ一概にそれを惡いとは思ひませんけれどもそれは可なり根據のない共同組織であつたらしく思はれます。或は私の臆測かも知れませんが――極く女らしい謙讓の心持から責任をもつて確とした權威をもつた經營者たることを辭して共同責任とされたとが第一歩のあやまちであつたかもしれないと私は思ひます。それ故各自の人が自分の勉强とか仕事とか云ふものと雜誌と云ふものが何となく違つたものに思はれた事がそれを證據立てゝゐると思ひます。そうして最初の創刊當時に仕事を執つてゐた人達は漸次に自分の仕事に去つて仕舞ひました。創刊後滿一ヶ年を經て私が入社して事務を手傳ふやうになつたときは既に木內、物集、中野、保持の諸氏とは顏を合すことは全くなかつたのでした。そして尾竹氏も去らうとして居られる時で編輯は平塚氏を助けて小林氏と私と三人でした。經營は東雲堂に委してあつた頃でした。子供のやうな遊びずきの尾竹氏がいろいろなものに向つて好奇心をもつてはそれに引きつけられては丁度子供が珍らしい見聞したことを話すやうな調子で無邪氣に發表した樂屋落ちが意外に物議を醸した頃でした。それは尾竹氏や他人の人々にとつては何でもない事でした。吉原に行つたと云ふことは單にあの中のことを見たいと云ふ要求から何も別に行つてはいけない

と云ふ制限もないから行つて見た迄だ。お酒を呑んだとて罪惡とは云はれまいそれは各人の嗜好に屬するものではないか、マントを着て歩かうとそれはその人の趣味だ何もそれがわれ〳〵の生活中の重要な部分をなしてゐるのではないと云ふ風に私たちは世間の人が何を云はうと耳を貸さなかつたのです。私たちは本當に正直で世間見ずでした。私たちは世間と云ふものをさうまで頑迷だとは思ひませんでした。私たちはいくら何でもそれ等の些々たる行爲が私たちの全てだと見做して終はれやうとは思ひませんでした。

やがて私たちは私達自身を敎育する爲めに相當の智識を得る途を開かうとしてある計畫を立てました。そしてそれは先きだつて先づ講演會を開きました。それは私たちの考へてゐたのとは全で反對の結果を得ました。私たちは重なる誤解の爲めに各方面に同情を失ひました。計畫は見事に破れました。私達の努力は遂ひに無駄になつて仕舞ひました。そうして私たちの行爲にあらゆる障害を加へられるやうになりました。また至る處であやまつた世間の好奇の目に映じた外面的な皮想な行爲を眞似て得意らしく往來を濶歩して人々の嘲笑的好奇心を集めて喜んでゐるやうなえたいの知れない女達がぞく〳〵現はれました。そうして社員組織の禍ひは此處にも及んでそれ等の厄介な人達の行爲の責任がすべて青鞜社に持ち込まれました。をとなしい内輪な平塚氏と純下町式娘の小林氏と小さな私と三人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が生眞面目な顏して編輯してゐる青鞜社が女梁山泊と目されるやうな滑稽な事になつて來ました。私たちは腹の底から涙の滲み出るやうな口惜しさ情なさに幾度か相遇しました。そして私たちはだまつて各自勉强をつゞけて充實を計るより他に道はなかつたのです。

侮蔑されながらも好奇心でのお客樣が多かつた爲めか雜誌の發行部數はずん／＼ふえて行つたらしく思はれます。經營の方も左程苦勞しなくてもよさゝうに思はれ出しました。それに社の爲めに新らしい計畫のために職を辭して來たY氏の爲めに――その計畫が破れて氏は職を失はれた――何とか生活方法を立てなければならなくなつたので氏が内部で働かれることになつたのですが氏のともすれば感情に依つてのみ人を知らうとする態度は書店との交渉に何時も嫌はれ勝ちでした。そうしていろんな時を經て終にY氏の手によつて經營されることになりました。そうして經營の方面にY氏がかゝつて私がそれを手傳ひ平塚氏を助けて小林氏が編輯することになりました。けれどもその頃からもうもとのまゝの發行部數では少しも多いと考へられるやうになりました。そうして素人の手にはなか／＼うまくはゆかなくなりました。そうしてそのころから平塚氏は獨立して家をお持ちになることになりました。社の當時の經濟狀態は二人の人の生活費を出すことは可なり困難らしく思はれました。そうして私と小林氏は專ら書くことになつて一と先づ編輯の手傳ひも經

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

營の手傳ひも止めて仕舞ひました。私の生活もその頃からいそがしくなりました。子供の爲めに大部分の時間を費さなければならなかつたのです。その間可なり社の事情とは遠くなつゐましたのではよく知りません。けれど平塚とY氏の間に何かのことがあつたらしいことは察せられます。その頃は平塚氏もまたY氏も自分自身の內生活の爲めに可なり苦しんでゐられた時でしたしその頃のことは平塚氏によつてもつとはつきとり說明されるでせう。私は兎に角その間の事柄はあまりよく知らない。

種々な折衝があつた後平塚氏が一人で經營れることゝになりました。

けれども漸く好奇の目が醒めて來ると、いまゝでとは經濟狀態もずつと變つたらしく思はれますし一方には又重なる壓迫のために社員の大部分は退社を余儀なくされて殘つてゐる人達ちも割り合ひに周圍をはゞかる人達の方が多く、沈默してしまつたりして雜誌の上にも生々したものが見えなくなつて何となく寂しさが漂つたやうな風は思はれて來ました。で經營の困難とその上たつた一人で何から何まで小面倒な仕事を執ると云ふことは——また時間の余裕のない事と一緒に——平塚氏にとつてどの位辛かつたかと云ふ事は私にも充分お察しが出來ます。それはあまりに氏のどの點から云つても不適當な勞働でありました。そしてそれは殆んど半年間續きました。私は氏のその仕事に出來る丈けのお手傳ひ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

はしたいと思ひましたけれど丁度私も前にも云ふ通りに子供のこと家のことは大半の時間は割かれそしてなを喰べることの勞役にも服しなければならないと云ふやうな忙しい生活の中からとてもお手傳ひが出來さうにも思はれませんでした。

併し六ケ月間の不當な勞働が平塚氏を極度の疲勞に導きました。氏は何とかしてもう少し時間を得やうと務められました。經營は左程迄に苦しいと云ふでもないのですかとにかく厄介なので何處か適當な書店にまかせやうとなすつたのでした。併し何處も々々とり合つてはくれませんでした。そしてそれらの商人との交渉に費された多くの時間が更に氏を困惑させました。そうして氏は十月號の編輯を終ると旅に立たれる事になりました。後は私が當分代理するとにして。

その頃から私の思想の方向がだん／＼變つて來たのを幾らかづゝ私は感じ出しました。今迄はどうしても自分自身と社會との間が遠い距離をもつてゐるやうに思はれました。そして社會的になることはかくとも自分自身を無視することのやうに考へられてゐました。それが何時の間にかその矛盾を感ぜられなくなつて來たことです。私は幾度も幾度もそれを考へ直して見ました。けれどもどうも前の自分の考へ方がまだ行くところまでゆきつかなかつたのだとしか考へられなくなりました。そうして今迄一番適當な態度だと思つてゐ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た態度にあきたりなくなりました。今は社會的な運動の中に自分が飛び込んでも別に矛盾も苦痛もなささうに思はれました。たゞ併しまだ考へ方が進んだ丈けで私の熱情は其處まではまゐりません。

十一月の編輯をしてゐる間に私はいろいろなことを考へました。私は充分に働かうといたしましたけれど家のことや子供に大部分の時間をそがれてどうしても思ふやうに動けませんでした。そうして遅れながら雜誌が出來上つたとき私は私の仕事の間拔さ加減がいやになつて仕舞ひました。そのみすぼらしさがかなしくなりました。私は何を考へるひまもなく直ぐに御宿の平塚氏の處へ長い手紙を書きました。

それは重に雜誌が不出來なことゝとてもこんな事では駄目だから十二月號の編輯もお斷はりしたいと云ふことそれから私にはその少し前から平塚氏の生活と雜誌の仕事とが別々になつてゐるやうな氣がしてそれが平塚氏の爲めにもまた雜誌の爲めにもよくないと思つてゐましたでその際私は思ひきつて平塚氏に雜誌をすつかりあなたのものにして――事實さうなんですから――そしてずいぶんいま迄入つてゐた不純なものゝために滿されたと誤解されてゐることもそのまゝになつてゐますからこの際すべてそれ等を人々の前へ掃き出して隅々まで人々の目が屆くやうにあいまいなものなんかないやうにして立派にあなたの

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ものとしてとり入れそして經營なすつたらどうでせう。私はそれが一番最上の方法だと思ひます。けれども若しあなたの精力がそれを許さないでそしてまたいろ〳〵續けてゆく上にあなたが眞實に苦痛をお感じになれば私はあなたから私に全責任を負はして頂いて私の仕事としてもよろしう御座います。然し今のやうな狀態では何となく私のやつてゐることがどつちつかずでそしていろ〳〵な點にもあなたに對する心づかいが私自身を不快にしていけませんからとても十二月號は出來さうもありません。かう云へばあなたは吃度そんな心遣ひなんか止せと仰云るかもしれませんけれども私には矢張り駄目です。とにかく熟考なすつて下さい。私は今自分のやつた仕事のあまりのみすぼらしさに腹立たしさと悲しさとで一杯になつてゐますからまだ本當の考へでないのかもしれません。何しろ私も考ますがあなたも考へて下さい。と云ふやうなことを書き送くりました。

　折り返し氏から返事が來ました。それには自分はとにかく前から考へてゐるがまだそれはきまらない。あなたの云ふ二つの方法についても考へるけれども十二月號だけはとにかくやつて欲しいと云ふのでありました。私も一たん約束したことではあるしするから編輯にかゝることにしたのですけれど何をやつてゐてもそのことばかり頭にこびりついてゐて他のことを何にも考へることが出來なかつたのです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

だんだん考へてゐますうちに平塚氏があんなにも苦痛に思ふのならば或條件のもとに自分が續けて行つて見ればやれないこともないだらうから行つて見やうと云ふやうな氣になりました。それには私の生活の形式もすつかり違へなければならないし種々厄介なことはあるけれどもその位は當然だと思ひました。勉強する時間がどうかと思はれましたが事實今迄はまつたく勉强を怠つてゐましたしまたそれを見出すことも困難でしたけれどももし私たちの日常生活の形式を更へるとすれば私は當然その位の時間は見出せると思ひました。そうしてとにかく雜誌をつゞけてゐる間は語學の勉强だけでも滿足が出來る。私がこれから十年ひとりで忙しい思ひをした處でまだ三十だ。まとまつた勉强はそれからで澤山だ。十年のうちには少しは手傳ひをしてくれる人位は出さうに思はれます。そう思つて私は私の仕事にしてやつて見る氣になりました。そうして私は平塚氏が何時もまとまつた勉强の時間のないことやまとまつた仕事をしないことを苦痛にしてゐらるゝのを知つてゐますのでもし私がうまくやつて行つて平塚氏が安心して自分の勉强をしそして何かの仕事を仕出來かされたら自分もどんなにかうれしいだらうと考へました。そうして直ぐに手紙を書いてその心持を傳へやうといたしました。そうして私は私が雜誌を引きつがして貰ふとすればそれに添ふ條件なども考へました。すると私は常々私を快く思はない人たちのある

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ことに氣づきました。また何でも間違つた早合點をばかりする人のあるのを考へました。それで私は其處に妙な誤解をされることになると折角、更に一歩切り開いて進まうとするのを防げられるやうな氣がいたしました。私はいろいろに考へました。けれどもとう／＼私は私の心持をありのまゝに書きました。そうして私はいろいろな誤解をのぞく爲めてすべての責任は私が脊負ひます。ただ署名人にかゝるやうなことは決していたしませんから署名人にはあなたになつて頂きたいと云ふことを書きました。私はその手紙を書いて出してしまつてからもいろいろに迷ひました。そうして平塚氏の返事を待ちました。それが十一月十三日だつたとおもひます。そして十五日に思ひがけなく平塚氏が訪ねて見えました。氏は御宿を立つとき私の手紙を見なかつてこちらへ歸つて來ると同時に廻送されて曙町のお宅で見たと仰云ひました。

そうして氏は御宿を立つときまで私の手紙を見なかつたので廢刊にするか休刊にするかの決心であつたと仰云ひました。何だか私はそれを聞くと意外な氣がしたと同時にどうしても私がやると云ふ決心はいよいよ堅くなりました。氏は今の處何にも書く氣になれないしとても雜誌の經營などは出來ないからあなたにやつて貰へば私も一番安神だけれどたゞだんだん經營は困難になつて行くし先きに云つてあなたの困るのが見えてゐるからそれを

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あなたに云つてあげたいと思つて來た。とても今のまゝではやつてゆけないからと氏は私の爲めにもう一度考へ直せとすゝめられました。けれどもその時私はもう再び考へ直す迄もなく何處までもどんな苦痛に會つてもやる處まではやつて見る氣ですと云ひました。平塚氏は繰り返し〳〵私が考へ直すことをすゝめられました。けれども私が萬一のゆきつまつたときの恐れの爲めに止めると云ひ出せば氏は矢張り御宿を出るときに考へられたとほりに休刊か廢刊になさるに相違ない休刊は癈刊よりも更に慧な事だ止めるのならば廢刊の方がいゝとなります。

創刊後もう三年以上も續けて來てまださう行きつまつたと云ふほど迫つてもゐないのに廢刊するのは如何程考へ直してゐても惜しい殊にこの創刊後とやかく云はれ續けては來たけれどもそれでも幾多の若い人達を助けて來たことを思へば猶更捨てられません。私自身が先づ一番に青鞜によつて育てられました。歌津ちやん、がそうです數へ出すときりのない位です。そうしてまだこれからが更に長い大きな未來をもつてゐるのです。これからどんな人が生れるかも知れません。私はそのことを思ひますとても思ひ切つて投げ出す氣にはなれません。殊に私は或る時にふと目に觸れた私共に對する批評の中に『彼等は人々の好奇心によつて生れたものだ。人々の好奇心が失くなつて存在しやう筈がない。』と云ふ

言葉が電のやうにの私頭を横切りました。私はあやふく涙が出さうになりました。『どんな苦痛と戰つてもやつてゆく！』私は固く／＼決心したのでした。

私は私の爲めにわざ／＼、他人ならば困難な事實やなんかを覆ひかくしても自分のいやな事をひとに押しつけやうとする處に、私の處まで出掛けて來て親切にそれ等を話して考へ直せと云つて下さる平塚氏のやさしい氣持に感謝しながらもさう決心したのでした。そして私は大きな重いものを脊負ひました。けれど其處で私を最も暗い氣持ちに誘つたのは私の年が若過ぎると云ふことゝそれから子供を充分に見ることの出來ないことでした。それから世間のいろいろな間違つた取り沙汰に答へるのも一苦勞でした。

世間の表面に立つて仕事をすると云ふのには私はあまりに若過ぎました。私はその爲めに吃度知つてゐる人からはたよりない不安を抱かれるだらうと思ひました。又馬鹿にもされさうに思はれました。あんな小供に何が出來るものかと思つてゐる人達だつて吃度あるでせう。けれどもは兎に角年の如何にかゝはらず自分のやる丈けのことはやつて見ます。助手の資格しかない田舍者の私がどんなことをやり出すか見てゐて頂きたい。兎に角私はこれから全部私一個の仕事として引きつぎます。私は私一人きりの力にたよります。私は誰の助力ものぞみません。そうして今迄の社員組織を止めやめてすべての婦人達のために

もつと開放しやうと思ひます。十一、十二と二ケ月間やつた私の經驗では經營は左程困難ではありません。この分ならどうにかやつてゆけます。けれどももし私の力が微弱な爲めにもつと困難になつて來たら私は或は雜誌の形式をもつと縮少するかもしれません。或は又もつとひどくて雜誌の形式がとれなくなるかも知れません。併し私の力のつゞくかぎりはたとへ二頁でも三頁でも青鞜は存在させるつもりです。或はそうなつたときにその微弱な誌上にもつとも尊く眞實な純なるものがきらめくかもしれないと思ひます。私はさうなることを望みはしませんけれどももしさう云ふ場合ひに相遇したときの要心に今から斷はつて置きます。

平塚氏は半年もしたらまた書けるやうになるかもしれないと仰云ひました。私はその時に本當にいゝものが頂けることを確信してゐます。

私は一方にさう云う仕事のことで考へながらも子供を育てゝゆかなければなりません。私はたゞあたり前に脊丈が延びてさへゆけばいゝと云ふやうな育て方では氣がすまない、私は出來ることなら一日子供についてゐてその一擧一動も注意して育兒と云ふこと丈けを仕事にして見たいと云ふやうな欲望もかなり強いのです。それで仕事の事にばかり時間を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

とられて子供の爲めに空かしておく時間のないことがまた私は苦痛でたまりません。これ迄一ヶ年以上私は少しも他手に委ねずに乳も自分の以外にはやらずに育てゝ來ました。私は子供をおいて外出するやうな事も全く稀なのでした。此度は一々連れ出すことは出來ませんからおいてゆかねばなりませんけれども私にはそれがたまらなく苦痛なのです。時々留守の間に私を思ひ出しては子供が其處にかかつてゐる私の不斷着の傍にはい寄つてそれをながめては泣き出すなど云ふ話を歸つて來て聞きますと涙がにじみ出ます。私の仕事の價値も疑はしくなる程です。本當にそれは不思議な程私を悲しませます。考へてゐますと私の最上のそして眞實な一番尊い仕事と云へば子供を育てる事らしくさへ思はれて來ます。私はこんな幼い子供にたまらない寂しさを感じさせる事を平氣で忍ぶことが出來ないのです。そしてそれがいゝ結果を子供の上に齎らすとは思ひません。けれども矢張り私は仕事をしなければなりません。私は子供に留守をさせることに慣してしまはふとして忍んでゐます。幸ひに子供は安心してなづくことの出來る小父さんと小母さんを見出しました。私は漸く氣安く外出することが出來るやうになりました。

その次には私が雜誌を引きついだことについての世間の評判です。

最初私と平塚氏はこの話は二人きりのことにして一月に發表することにしやうとしたの

でしたが思ひがけなく意外の人から洩れて噂はうわさを生んで私たちが知らない間にいろんな憶測がだん／＼に誇大されてさも誠しやかに話されてゐたのです。それで私は一層十二月號に發表してしまはふと思ひましたが平塚氏からの注意で矢張り十二月は止して一月に發表することになつたのですが少々の誤解はそれで仕方がないとして置きました。併しそれ程ひどからうとは思ひませんでした。

或る日私の處へ讀賣新聞の記者が面會を求めました。會ひましたらば此度あなたと平塚氏が何かあつてお別れなすつたさうですがどんな事があつたのですとのことでした。私は前のやうな事情をかいつまんで話して見ましたが何だか信をおかないやうな顔してゐました。そしていろいろなうわさばなしをもちだしてあれもこれもと私に眞僞をたしかめるのでした。それは一つも事實ではなくみんないい加減な捏造でした。それは平塚氏が懷妊されたと云ふこと、奥村氏と平塚氏別れると云ふこと、私と平塚氏と衝突したと云ふことなど重なことでした。私は一々否定しましたけれ。可なりしつこく聞きましたので私は笑つてやつたのでした。私は實際世間の人たちのひとり合點な淺薄な取さたに呆れました。私たちには何でもなくわかる平塚氏の心持ちを少しも理解することが出來ないです。本當に唯だもう表面に具體的にあらはれた事實より他に何にも見ることが出來ないでそれに依

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つてのみ物を判斷しやうとし、またそれを間違ひのないことゝのみしてゐる人達の氣持ちが私には寧ろ不思議に思はれるのでした。

本當にこの廣い世間に平塚氏の此度の態度を眞實に理解し同情をもつことの出來る人が幾人ゐるのだらうと思ふと私は何故か悲しいやうな氣になりました。

私にしても平塚氏にしても雜誌をやることになつたつてならなくつたつて以前と少しも改まつた氣持ちにはなりません。いろいろな取沙汰が新聞で紹介され續けてゐても私と平塚氏はいそがしさにはがき一枚もろくに取りかはさなくても私達の友情には何のかはりもなくおなじ氣持ちでゐられる程私達の間は平なのです。

聞けば時事新報の記者柴田氏はわざ／＼御宿まで出かけて眞相をたゞさうとなすつたさうです。私は何と云つていゝか笑つていゝか、怒つていゝかわからなくなります。本當にたゞ妙な世の中だと云ふより他仕方がありません。

其處で私はこの雜誌の經營を自分の仕事として引き受けはしましたが私は今迄どほりの規則ではやり度くありません。

先づ私は今迄の青鞜社のすべての規則を取り去ります。青鞜は今後無規則、無方針、無主張無主義です。主義のほしい方規則がなくてはならない方は、各自でおつくりなさるがいゝ。

私はたゞ何の主義も方針も規則もない雜誌をすべての婦人達に提供いたします。但し男子の方はお斷はりいたします。男子でももし婦人に關する事柄について重要なことをお書き下すつたのならそして多數の婦人のためにになる事なら場合ひによつては揭載いたしますこともありますが併し矢張り主として婦人の專用であることは以前どほりです。立身出世の踏臺にしたいかたはなさいまし、感想を出したい方はお出し下さい。何でも御用ひになる方の意のまゝに出來るやうに雜誌そのものには一切意味を持たせません。たゞ原稿撰擇はすべて私に一任さして頂きます。私は書かれたものが何であるにしても眞實な心で書かれたものならば本當に尊敬いたします。虛僞は一切排斥いたします。眞面目、本當に自身を育てゝ行かうとなさる敬虔な婦人達の前に何かのお役にたつべく提供いたします。私の煩雜な勞役の苦痛は例へ一人の人でも雜誌の存在の無意義でないことを思つて下さる方があればそれで償はれます。否、否間違つてゐました。自分でその無意義でないことを見出すことが出來ればそれでいゝのでした。私は間違つてゐました。

私は自分の仕事の價値については考へる丈け愚だと思ひます。理屈はどうにでもつきます。今の處私は自分が單なる一個の雜誌經營編輯の勞働者で終つてもいゝと思つてゐます。併し何時迄も同じ處に考へが止まつてゐるわけでもありませんからこの考へがまたどうかは

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つてゆくかわかりませんが兎に角今の處では出來得るかぎり努力しやうと思つてゐます。

大分くどく書きましたが要するに平塚氏の仕事を私が引きついでやると云ふことには何の曲折もありません。ほんとうに普通のいきさつです。私たちには世間でさう云ふことを何か大した所謂事情でもあつてのことのやうに云ひはやすのがおかしくてたまらない位です。平塚氏ももつと靜養し勉强なすつたらまたきつと此度はいゝものを澤山おかき下さる筈です。

兎に角これ以上に私はくだ〳〵しいことを云はうとは思ひません。今何を云つてもわからなくても時はずん〳〵すべてを引つづいて進んで行きます。そのうちに自然に解る時が來ることと私は信じます。何時でも私は平塚氏に對しては私の手をとつて步けるやうにして下すつた先輩として又やさしい友人として能ふかぎりの尊敬と親しみを持つてゐます。何時迄も〳〵平塚氏は私の唯一の離れがたい最も貴重な私の友人であることを信じます。恐らくは此度も私のこの心持ちを受け入れて下さる丈けの愛を私の上に持つてゐて下さることゝ自信いたして居ります。

（三、十二、九）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

折りにふれて（日記より）

岡田ゆき

自分は久しく髮を洗はなかつた。

未だ勝ちやん（亡弟）が階下に寢て居る時から髮を洗ふ時がなかつた。其の内に彼はたうとう亡くなつてしまつたので、百日たたない内は、親身の者は、髮を洗つては、惡いと云ふので、母が夏の夕べ、暑さに堪へられず、庭へ出て、洗つた時でも、私は何んとなく洗ふ氣にならなかつた。

勿論、髮を洗つては、亡くなつた人のためにならないと云ふ事は、何の因果關係もない、迷信と知れきつて居ながら、亡弟について思ふと、そんな小さな事迄、打破する事が出來ない程、自分の心は、感傷的になつて居たのである。

ところが、百日も二三日前に過ぎたので、今日こそは洗はなければ、と思つて、朝から、びしよびしよ雨が降つて居たけれども、終に洗つた。何だか頭が輕くなつた樣である、ほんさうに、久しぶりて、好い心持ちになつた。

雨上りの秋の日光が、輕い暖かさを、室に投げ込んで居る午後、A子樣の妹さんが、來られた、A子樣は、嫁ぐ日が近くなつたので、高島田に結つて、お琴のお稽古に餘念がないさうてある。

自分は此の話を聞いて、悲しい樣な、淺間しい氣持ちに囚はれた。彼女の心には、眞實がない樣に思はれる程たやすく自分を捨てる事が出來たのに、驚かされた。

いかに、親の命令とは云ひながら、あれ程迄に、根強く思ひ相ふて居た、S樣を、まるて幼い子供が、毀れた玩物を、何の未練もなく捨てる樣な態度で、取り扱ふた事は、やはり二人の戀がそれ程深いものでなかつた事を、證明して居る樣なものてある。然し、一度彼女の胸に熱い血潮が流れたのにかゝはらず、よく自分を欺き、他人を欺いて、人妻になれること。

他人を欺くのは兎に角自己を欺く迄には、どんなに苦しんだであらう、自分は周圍の犧牲になつて、心にもない人の妻になるのだと、勝手な理屈を作つて、心に安息を見出す迄、彼女はどれ程日夜悶えた事であらう。

「愛なき、結婚は、罪惡である。」とエレン・ケイは云つて居る。この言葉は、たしかに眞理である、

結婚のため、故郷に歸へる彼女を、送るのに、S樣は新橋ステーションへ行かれた。そしてプラツトホームの柱の影に、彼女の兩親に隱れて立つてゐられた。其内に、時間が來て、彼女の汽車は動き出した。やがてS樣前を彼女の車が通過する時、彼はつと寄つて、手紙を投げ込まれたさうだ。其時、彼女は只「許して下さい。」つて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

云つたと、Hさんから、聞いた。まるで、薄つぺらな、新派悲劇の樣な話だ。今日、彼女の妹さんに、逢つて、Aさんの事をかなり聞いた。世の中の人は、お互ひに、お芝居を演じ合つて居る樣に、自分には考へられた。彼女の結婚だつて、他人のためにする、生涯と云ふ、劇の一幕とも云へるだらう。

然し、結婚は、他人に見せるお芝居など、考へたくはないものである。何處迄も眞面目に、自己のために、すべき事である。其意味で、自分は友の一人があゝ云ふ狀態に結婚する事を悲しむのである。

夕方、琴の師匠が來て、稽古をして、しまつてから、急に、出來心で、有樂座の長唄研精會に行つた。

母と、師匠と三人で、有樂座に行つた時は、小四郎の「東八景」が始つたばかりであつた。金屛風を後に。緋毛氈が敷いた山臺に黑の紋付きを着て並んだ、藝人は、美々しく着飾つた女よりも、自分には、美しいものに思はれた。

あく迄白い象牙の撥を、一樣に、上下する。三味線彈きのおもしろさ。ちやんと、お膝に手を置いた、唄歌ひの引しまつた心持ち大鼓の「いやあーつ」と掛聲をする度に、淺黑い顏に、ぴかりと光る、前齒の美しさ。小鼓の若者の目のぱつちりした、色白の面立ち。笛の男の顏に似合はない其の音色。ぢいーつとボックスに座つて、耳かたむけて居る内に、自分はこんな事を考へた。

あゝして居る人達を眺めて居ると、あの人達の體、其のものが詩になつて居る樣を思はれて、黑い着物に付いて居る白い紋まで、夢にあらはれる、蝶々のやうな感じがして、又なく上品に、美しいものに考へられるのである。

小三郎の「高尾ざんげ」は殊に上手な出來であつた。最終の「安達ヶ原」もかなり面白かつた、

この夜自分は、唄其のものよりも、幕が上がる度に、見る人達の床しい、美しさに、醉はされたのである。

「お孃樣お手紙がまゐりました。」つて、室に居たら、夕方、女中が、持つて來た。何のん氣なしに受け取つて、裏をかへして見ると、自分の記憶にない人の名が書いてある。自分の所書きだつて、少しも間違ひないが、大杉かづ子と云ふ名は、始めて、私は、聞くやうに考へられる。と云つて、自分に、來たのに違ひないのであるから、と思つて、終に封を開けた。そして、だん〳〵讀んで行く内に、自分の小學校時代の友だつたと、云ふ事が、私の心から、よみがへつて來た。

「お別れしてから、もう十年になります。」と書いてあつた。あゝさうなるかしら、と手紙をつ持て、ぼんやり坐つた、私の頭の中を、其の當時、遊び仲間だつた、幼い人の顏が幾つとなく通り過ぎた。そして、地味な男の子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の着る樣な。柄の著物を著て、熱病の後髮を短く切つた、ティミツドな目をつ持た、顏が私の頭に浮んだ時、あゝ、さう、さう、おかづちやんだつたさ、はつきり思ひ出した。

美しい繪卷物を、期待を持つて、それから、それへと繰り開ける樣な心持ちて、私は、幼い昔の記憶をたどりたごつて、しんみりした、夢みる樣な氣分になつた。

金港堂のおさぎ嘶の頃であつた。

よく、私達は「榮の花姬」だの「お人形さん。」などと云ふ、小さな物語りの本を、袂に入れて、學校に行つて、讀んだ時分だつた。千代紙のあねさまが、欲しい代りだつた。おかづさんも、二十。私も二十だ。お互ひに今ふいに逢つたつて。見分けが、つかないであらう。

消えかゝつた、粗朶の烟がふつと風を受けた樣に、私の記憶に、大杉かづ子さんが、よみがへつて來たわけである。それにしても、よく忘れないで居て吳れたこと。

しみ〴〵人なつかしい氣持ちになつた。

今朝起きて、茶の間へ來て、いつもの樣に其の日の新聞を繰り開げるさ、ふつと、竹屋の渡しに、橋が出來て、今戸から、三めぐり迄大通りが、眞直ぐに出來るさ云ふ記事が目に止つた。

私は、何とも云へない、情けない、氣持ちになつた。

隅田の川底をひつかきまはす樣に、一錢蒸汽が往來する、今日でも、お江戸時代に、廣重に描かれた、渡し船の面影なりさも、殘つて居るさ思ふとうれしいものだ。たさへその船頭は、散髮の若者であらうさも、渡して貰ふ人も總べて、昔と變つて居ても、船頭の「あたあーるうーよう。」と云ふ聲音には、下手な言葉で云ひ現す事の出來ない、江戸の床しさ、美しさがこもつて、居るではないか。

昔から、力強い歷史を背景にして來た名所が、一つ、一つ破壞されて、無細工な、西洋館の出來そこないの樣な町に化して行くのを見る度びに、情けない、情けない氣　ちになる。浮世繪に見る樣な美しい白壁の土藏が、年々頑状な倉庫に、變化するのを見るど、云ひ知れぬ、淋しさを感じる。

文明もこうなると、悲しい恨めしいものである。

隅田の川添ひには、住みたいとは、思はない。めちや〳〵に踏みにぢられた樣な、景色を、見せつけられるより、私はこうして、山の手の家に居て、美しい物語りより、感覺する、隅田川を胸に描いてゐる方が、はるかに、よい、

「待乳沈んて梢に乘り込む三谷堀」

と歌はれた、待乳山も、かくて、つまらないものになつてしまふのかと思ふと、力強い悲哀を感じるのである。

お濠の石が埋められてゆくのも、いたましい事の一つてある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自分の心は、今、水をふくんで居る海綿の様に、ちつとさわつても、涙がにぢみ出る様ないたましさを覺える。

私は、銀座通りの夜を心に描いて、何んと云ふ事なしに、こうしては居られない様な氣になつた。そして、弟がピアノのメトロノオムを見に、松本迄行くと云ふのを、幸ひ一所に行つた。

私がこんな晴れやかな心持になつたのは、随分久しぶりの事だつた。その原因は、私の病氣勝ちな、日頃にもよるけれども、氣候も大いに、影響して居たのである。人の心も體も、抑壓せれば止まない樣な、勢ひで自分を苦しめる、暑さが夏と共に、去つて行つたので、私の心も、一枚一枚著物をはぐ様に、輕くなつて、浮き浮きした調子になつて來た。

私は、生來、秋。殊に晩秋から、初冬にかけて、日の色が一日、一日と弱くなる頃が好きである。寒さは、いくら加はつても私は夏の日光の輝きを見て、苦しみ悶えた樣な感じは毫も起らない。かへつて、寒氣が加はれば加はる程しんみりした、落ちつきが、心の隅から少しづゝ、はびこつて來るものである。

町の両側に吐息するやうに輝いて居る、電燈を、電車の中から、眺めた時、寒さうに、ふるへながら、立つて居る、柳の木影から、ぢつと仰いだ、冷い月の色。見る物が、皆、私の胸に輕いショックを與へるのである。

松本の店の正面にかけてある繪。それは、四人の女が、座つたり、立つたりして、踊つて居る、横長の額である。

それ等の面白い樣子の女は、手に足に何んとも云へない、輕妙さが、充滿してゐる樣に感じる、私はその繪の表に現はれて居る、新らしさを思ひ切り胸に吸ひ取らうとする樣な氣持ちで、幾度も並んで居る、ピアノの間に立つて、ぢつと見入つた。私はふつと、ユーゲントの繪にある樣な、色彩や、筆だと思つた。何んとなく、自分の室のユーゲントの繪と共通な、所があると思ひ付いたからである。家へ歸つたのは、そんなに、遅くはなかつたが私は、輕い疲れと、久しぶりに、外氣にふれた、快さで直きに眠りに就いた。

三、一二、六

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

雜記帳より

里見マツノ

○

父母は私の出鄕を結婚で食い留め樣とした。そうして母は、こういつたのである。

「……よ……わしはね、お前があの人を好いてゐる事をしつてゐる。可愛いいわしの一人つ兒！　私はお前の滿足を望んでゐるといふ事をお知りだらうね。――どうだね。お前は、今あの人といつしよになる氣はないかい？」

――て私は即座に

「勿論ですよおつかさん……」と父母は意外の面持ちで

「……だつてお前達はお互に惚れ合つてゐるのじやないか！」もう忍(こら)い切れなくなつたと見いてこうちつけにいつた。

「……え、私達は惚れ合つて居りますよ、だから私はいつしよになりたくないのです。私は二人のために今のうちに別れてしまいたいんです。このまんま、こびりついてしまつちや、互に自由がきかなくなつておしまいだ―」

○

隣りの二人が執務中、頭をよせて何か囁きながら時々ヒョイと首を上げて、どこかを見てはすぐ机に顔をつつよしてクス〳〵笑つてゐる……二人の視線を辿つて見ると、靑い眼をこつちに向けてゐる一人の若い男にぶつかつた。と、ぞつと身内に蛇うねつたと思ふと熱した血が一時に頭に上つて來た。私は痛切にこう思たのである――若い異性が互に靑い眼をはして或滿足を感ずる時にはすでに自分の權威を墮してゐるのだ、かくて男は女の奴隷となり、女は遂に女神の位置を失つてしまふのである―しかし私はすぐそれは自分の妬みと平行して起つた感じであるといふ事を悟つた。そして私は貧弱な戀人の事などを頻りに考へはじめたりした。

○

日はくれてゐた。Sを眞中にしてK子さんと私とは日比谷公園を進れだつて通つた――Sは會社の給仕でつまり私達、從僕の樣なものである。年少ではあるが丈が高いので學生帽を被つて長マントを着流した風彩はすこぶる立派に見えた――Sは愛人に思を語るといつた風にK子さんの方に身をひねつて大またに步きながら美しい女性的の聲を出して要求された歌を唄つた――K子さんはささやかれる樣にも見えた。

「いゝ聲だわねい」私はロマンチックな氣分に包まれて思はずこういつた。

「ほんとうに好い聲だわ」K子さんは私に敗けまいとする樣に――

私は二人とも或怪しい力で絕えずこの方に引かれてゐるに氣がついた。

○

吉井はフッと座を立つてものも言はず荒あらしく部屋の障子を開けて出ていつてしまつた。その時私は後もふりかへつて見ようとしなかつたが胸には灼熱した反坑の焔が渦きを巻いて燃えはじめた。いきなり吉井に武者振りついて、煮い湯の樣な憎まれ口のありツたけを浴びせかけてばつたりそこに倒れても見せたかつた。——

吉井と私の仲——それはすべての點に於て一寸した遊び友達に過ぎない……それに性が異なるといふばかりにいつか二人は廣い天地にせまい繩ばりをしてしまつた。しかも互に相手がこの繩ばりから外に出るのを恐れてそつとわなを作つた——私はわなと知りつゝその中に陷つたりした——しかし今ではそのわなは二人の間に公然作られる樣になつてしまつた。もうこゝまでいつてはおしまいである。美しい笑顏を合せるのは問題じやなくなつた。このごろは互に少しの暖かみや曲折のある話しは出來なくなつた。そして今日の樣に、そゝくれ立つた感情をもつて別れてしまふ事が度々ある。そういふ時には、あらゆる不滿を覆うてゐた霧がすつかり晴れて來て私は直線的に吉井が憎くなるのである。

私が親戚の家から今の宿にひつこすと間もなく吉井は同棲問題を提供した——今日も吉井はその話しで來たのである——それは吉井が網の中にはいつた魚が手づかみにしようとするとスル／＼とぬけてゆくもどかしさに定めた事らしい……でなくても私は同棲の効を認める事が出來ない。第一、一つの家といふ圍いの中にはいるといふ事は二人の自由をます／＼拘束し、生活を單調ならしめるものである。

「現狀維持……」これは吉井が私にいつて言葉であるか……それは性の問題を暗示した言葉であるけれど——それは第一に私の胸にくらいうづをまくのである。實際、今までも私は自分の權威を保つべく隨分苦しい奮鬪を續けて來てゐるのである、——はたして現狀を保つ事が出來るか。いや！　吉井が、そう言ふ今の吉井自身がほんとうにそう考へてゐるのだか何んだかわからない。總てのチアームと力との底をえぐつてゐる肉にからみつかふさする生々して性——それに抵抗しかれて男は輕はづみの僞りをいふのである。

「あなたの今おつしやつた事は必つとしつかりした基礎の上に立つてゐるのでせうね」

「勿論です。僕は同棲することについては確い信念をもつてゐます」

「あなたは今までの樣な、はなれ／＼の生活は不健全だとおつしやつわれ……え……それは勿論不健全でせう。しかし同棲は健全なものだとは云はれませんわ。何故つて……同棲といふ事は合一する事じやないんですもの—それに私とあなたとは生きてゐる世界が違つてゐる……御存じ……？、そして、同棲はすべてに於て健全なもの

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

であつたのですか？　では何もいふ事はありませんわ……じやれ、理想と現實とはとても平行に行く事が出來ないといふ事……しつておいでゝすわれ」……さ吉井はせきこんで云つた。

「そんなに僕は冷性を失つてゐる樣に見えるのですか！そんなに盲目的に――前後も考へない樣子に見えるのですか……」

「え、見えます……見えますとも！　第一あなたのおつしやる事は、どんな考へが基になつてゐるかわかりしやしない！」――

吉井が出てゆくとあらゆる理性が強くよせて來た情緒の爲に壓倒されてしまつた。

燃えあがつた反抗の焔がよほど下火になると理性さ情緒が妙にからみ合つた。

いつそやさしい――この醜いすさみはてた私をいまだに捨てえ事の出來ない、いくじのない吉井のために自我のすべてをすてゝ解かれた少年の樣な生活に入らうか？……？

私は夏の夜の寢ざめの樣なけつたるい心地になつてつうつと立ちあがるさ寄生部屋の前まで行つて見た。障子が一寸ばかり開いてゐる。中には梅田がたつた一人電燈の下で立ちひざになつて鏡を見ながら髮を梳けづてゐたが私が來たのに氣がつかないらしい。私はこそばゆい樣にほゝ笑まれながらこの樣子を見て居たが

「梅田……」こう突然呼びかけて見た。

「梅田こつちを向いてごらん――それじやお可笑しいよもうすこし毛を下げたら……」こんな事をいつて見た、梅田はふいを食らつて、びつくりした樣に顔を上げたが、云はれるがまゝに再び掻き出した。アルミの櫛の歯に黑く垢がたまつてゐる、それに氣がつくとサッさ總毛立つ樣な不快な感じが滑らかな氣分にガサガサした手をふれたが梅田が「見て下さいさいふ樣に小首をあげて私を見詰めた時私は心持つりあがつた、つぶらの眼に心地よくひきつけられてしまつた。

「お前は可愛れ……」私は、ほろ醉い氣嫌で眞面目の樣に、いたづらの樣に言つた。

「ご笑談（じようだん）……」梅田はさういつて一寸處女の樣な羞恥の色をあらはしたがすぐ、媚つく樣な目づかいをした。さ私は急に心の艶が消えてしまつた。私は醉え醒めの樣な痛ましい氣分になつて自分の部屋にかへつた。

再び机の前に座ると、自分さいふものゝ本體が始終自分を包んでゐる背景の推移につれてちらちらしてゐる樣が恰度旅藝人の後ろすがたを見るやさにあるましく眼にうつつた。

雜感

出口郁

十月はじめの頃。

實世間に對して何等の經驗をもたない。思想上にも肉體上にもまだ小供の私は、大膽にも只一人家を後に、上京した。

捨てゝ來たあの家には、私自身とは思想上何らの連絡はないにしろ、本能的ながらも御自分の凡を投げかけて暖い偉大な、全く、絶對的な愛で最愛な自分の子を實世間の風のつめたさに當まいとして、抱いてくださる兩親が娘の今度の仕打を、無情に思つてなげえていらつしやるだろう。

外の兄弟達と變つたひれくれ者の私をふだんから心配して、此の子は、大きくなつたらどんな人間になるだろう、行末が思ひやられる。と口癖のやうに人に話してくらした親達を私は、一種の憐憫を感じながらじつと眺めてなんさなくすまないやうな氣持にもなつた。

親は子を理解する事が出きずに悶えて子の私は、その理解されない事に苦しんで只、いらくと一日くを送つて、つひにその親と子の間に、うすいへだての幕が出き永久に、二人は、別の違い世界に住みながら御互に憐みつて暮さなければならないのである。

「世の常の娘のやうに美しく着かざらせられて、親の、玩具となつてそれを幸福とし、そして二十の聲をきくと、驚いて、幾多の若い男の中から地位と、財産と社會的名譽とをそなへた男をあてがはれて、なんにも御存じなく七つ小袖にくるまれて嫁ぎゆくそんな人達と同一視してゐる親達には、私の行爲がどれ程、あきたらなく、どんなに、强情に、冷淡に見えたそう

かすかながらもと、叫びを上げた自我の聲にうながされて眞理の曙光を目かけて、歩み始めた私の前には、親も、家も、兄弟も、見えない、只、自己があるのみ。

親のぐちも、兄弟の、不孝者呼はりも、私の耳には、何の反撥を與へない。私が家を出るとき、父は、病氣に、苦しんでゐたのであるけれど、父の病氣は、私の心には、そんなに痛さを、感じなかつた。自己を、育てるため自分を活す爲めには、あらゆる物を犧牲に供しなくてはならない。現在病床に居る自分の親さへも、振すてゝ私はあの家を出たのであり、隨恐分倫な事だけれど、仕方がない。

しかし、私は、私が家に居る時、親達に對してとつた行爲はずい分不穩當な、私としては恥ずべき、やり方であつたと云ふ事を今切に感じる。私がもつと、徹底して居たなら、靜かにじつと自己を見つめて居る事の出來る自分であつたなら、あれ程まで親達の反感をかはずにもつとおだやかに、そして、反つて私自身に取つても幸福な方面から家と、出られたのだろう。理解されなかつた

罪は、私自身にあつたのだ。理解されやうと努力もせずに、只、向ふから自然に了解してもらふうとしてそれもじつと、了解される時を待つて居るのではなく、只、いらく〳〵して悶えて居たのだもの、私が兩親に對してとつた行動は只、目茶々々に反抗したばかりだ。反抗に反抗重ねて、いたづらに、精力を消耗したばかりで何の利を見る事は、なかつた。それはかりか、かへつて、父母の、私に對する不安を增し、私の自由は、十重二十重に、そくばくされた。

けれどもまた、その當時の深い思慮もなく、反省力の微弱な私に取つて見れば、反　せずには、居られなかつたのである。自分を、解して・れないばかりか、親とか、目上とかを、楯にして、因襲道德のきずなでしばろうとする人達の前に、目茶苦茶に反　したのは、無理もなかつたのである、今より以上幼稚であつた私には。

今私は、原田さんと安田皐月さんとの保護の下に、眞に幸福に生きてゐる。家を出た女の一番さきにぶつかり、そして、一番苦しむ、パンの問題にも、直接苦しまずに安らかに、自己を育てる事に餘念なくゐられうと云ふ事は、偏に二氏のおかげである。若し、二氏がその暖い御胸に私を抱いてくださらなかつたなら今頃は、うえて死んで居たかもわからない、私はパンの問題でどんなに苦しんでゐたか知れない。世間的地位の皆無な何の力も持たない私に社會は、パンを與へてはくれない。わたくしはそれを考へた時、深い感謝を二氏に捧げずには居られない。

今私は、日當りの好い二階で、初冬のやはらかい日の光に祝福せれられつゝほんとに〳〵幸福な日を送つてゐる。

十二月廿一日　　　　　郁

編輯室より

□編輯室も隨分賑やかでしたけれ共うとく私一人にされてしまひました。ひとりでコツコツ校正をやるつまらなさはあの文祥堂の二階の時分を思ひ出させます。

□大正三年はもう暮れましたがかなり青鞜にとつてはいろ／＼な變化のあつた年でした。來年はいゝ年であつて欲しいと思ひます。

□私が青鞜を引き受けたについて大分あぶながつてゐて下さる方があるとのことですが併し私はどうかして引き受けた以上はやつて行くつもりです。私は何時でも私の年が若いと云ふことの爲めに私の力を蔑視されるのが一番口惜しい氣がします。私にこの雜誌を續けて行ける力があるものかないものか見てゐて欲しいと思ひます。私は私の呼吸のつゞく限り青鞜を手放さうとは思ひません。

□今年のお正月は吃度さびしいお正月でせう。平塚さんは七草頃でなければ歸らないと云ふことですし、哥津ちやんも平塚で年を迎へるさうですし集まることも出來ません。

□平塚さんは十二月號の安田皐月さんの「生きることゝ貞操」とを讀んで考へついたことがあるし生田花世さんについて何時も考へてゐたこともあるから、二月號に「貞操に就いて」お書き下さる筈です。尚花世さんはあの返事を「私と私の良人の爲めに眞劍に」反響新年號に書いたと云つてまゐりました。

□野上彌生子さんは十二月中旬におかへりになりました。皆樣大變御元氣でおかへりになりました。中央公論に何かお書きになつたさうです。附錄のソニヤの傳はおしまひまでと思ひましたが紙數の都合でもう二章殘つてゐます。大變面白いものです。いろ／＼な事を考へさせられました。

□松井靜代さんはこの程から麴町三番町の萬源と云ふお料理屋の帳場におすわりになりました。伯父さまのお家ださうです。二月號には何かおかき下さる筈です。

□安田皐月樣は誠に止むを得ない理由で彼の店をお止になりました。始終第一義的に情實にまげられないやうに活きやうと努力してお出になるかたとしてはそれも誠に余儀ないことだと思ひます。今は小石川大六天町横田方にお住居です。

□齋賀琴子さんは矢張り宮田先生のお宅で勉強してお出になります。二月號に短歌などつさり頂けることになつてゐます。

□久しい前から一度お目に懸つて見たいと思つてゐました山田わか子さんをこの間おたづねして見ました。私の想像してゐたのにもまして嬉しい方でした。少しお話してゐますうちに私はすつかりお友達になつてしまひました。健康らしいいゝ血色と締まりのない氣持の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いゝお壁さ精力が溢れるやうお體つきを見てゐますと私は自分の孱弱なのがいやになつて仕舞ひました。廿五から英語をおはじめになつたのださうです。そうして今はもう自由に他人にお敎へなさるとの出來る程なお力を私はうらやましいとも何とも云ひやうのない氣持ちで山川さんのお顏をながめてゐました。そうしてその御勉强の最中におなじ年の子供を他人の子ばかりを三人もお育てになつたと聞いては私はたゞもう驚くより他はありませんでした。それにまた四年前からピアノをお初めになつて毎日三時間づゝもお稽古をなさるさうです。そのすべての事に對する山田さんの勇氣と忍耐とは日本の家庭の婦人としては實に無敵な方だと思ひます。私はかう云ふ方が私たちの前にたつてゐて下さることを力強く思ひます。二月號には「虎さん」と云ふ創作を發表して下さる筈です。

□大正三年の編輯ももう終りですから古く集まつたかさばつた原稿を仕末しやうと思ひましてひろげて見まして其中から拾ひ出したのが二三編御座います。發表する時期が外れてゐて妙にお思ひになるでせうけれどそれはお許し下さいまし。

□面倒でそれ丈けの効果もありませんから爾後しばらくは交換廣告は全部止めたいと思ひます。何卒あしからず。なを雜誌の交換は相變らずお願ひしたひとおもひます。

□來年から補助團のために、パンフレットを時々出さうと思つてゐます。出來る丈けいゝものを選んでやるつもりです。

（野枝）

□私は今野枝さんのお迎への日當りのいゝお二階に靜かに幸福に生きて居ます。私の店であつた白山のサツキは八日の午後四頃突然逝きました。私はそれに付いて二月號に長いものを書きたいと思つて居ます。私はあれ迄育てたサツキを殺すに忍びないのであらゆるものに堪えたのですが只一つ私の堪えられないものゝ爲にこんな最後になりました。私はどんな場合にも決して「私」を曲げる事丈けは出來ないのです。この度も凡ての事――第三者から來る――を私自身の生活内容の中に抱擁して了ひたいと努めたのでしたが終に私の小さな力は其處まで至らないうちに却つて自分を守らなければならなくなりました。そして生れ落ちてから手しほにかけたあの店に刃を刺して私は私の只一つの生活を抱いて何とも云へない快さを感じてその店を去りました。凡てが二三十分の出來事だつたのです。サツキの生れる事が私に一番いゝ生活ならば吃度又何處かから表れます。

（安田皐月）

寄贈書籍

店頭禪　高島米峰著　日月社發行

救世軍　西川光次郎著　宗教叢書 日月社發行

オルレアンの少女 ウキル・ヘルムテル　水上齊譯　梗概叢書 日月社發行

決鬪　クープリン著 橋田東聲譯　梗概叢書 日月社發行

寄贈雜誌

白樺　新潮　文章世界　六合雜誌

俳味　生活と藝術　詩歌　層雲

婦女新聞　早稻田文學　みづゑ　婦人評論

帝國文學　心の花　第三帝國　假面

反響　三田文學　アララギ　創造

國民文學　迷宮　清平調　勞働者

微光

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜社概則

第一條　本社は女子の覺醒を促し、各自の天賦の特性を發揮せしめ、他日女流の天才を生まむ事を目的とす。

第二條　本社を青鞜社と稱す

第三條　本社の事務所を東京府下巣鴨町一ノ一六三に置く

第四條　本社は係員、社員、贊助員よりなる。

第五條　本社の目的を達する爲め左の事業をなす。

一、毎月一回機關雜誌青鞜を發刊すること。「青鞜」には係員、社員、贊助員の生活及思想を發表す。（但し補助團員の寄稿を發表することあるべし。

一、圖書出版

一、時々係員、社員の修養及研究會、並に事業上の相談會を開くこと。

一、毎年一回大會を開くこと、（但し贊助員は出席隨意たるべし）大會には贊助員を招待し講話を請ふことあるべし。

一、時に旅行を催すこと。

一、本社の事業を達するため別に補助團を組織す。

第六條　係員、社員、贊助員は女子に限る。

第七條　係員は本社の目的に贊同するのみならず。本社の事業を自己の生命とするものにして專ら幹部にありて、直接本社の事業に從事し。自己にその責任を負ふものとす。係員は毎月「青鞜」の配布を受く。

第八條　係員は在京社員の中より選擧す。

第九條　係員は四人とし、内二名は經營に、他の二名は編輯に從事す。

第十條　毎年九月在京社員會議を開き、係員を改選す。但し再選することを得

第十一條　係員には本社の經濟の許す限りは其勞力に對して多少の報酬をなすものとす。

第十二條　社員は本社の目的に贊同するのみならず本社の事業を自己の生命とするものにして雜誌「青鞜」の配布を受く。

第十三條　社員たらむことを希望する者は住所、姓名、年齡の外に履歷の大體と現在の境遇と入社の動機に十枚以上の原稿と（小說、戲曲、感想、詩歌、評論、飜譯いづれにてもよろし）最近の寫眞とを添へ本社宛申し込まるべし。

第十四條　贊助員は本社の目的に贊同し、雜誌「青鞜」に寄稿することを快諾せられたる文壇の諸先輩とす。贊助員は毎月青鞜の配布を受く。

第十五條　本社の事業を經濟的方面より助力するものを補助團員とす。

第十六條　補助團員は補助團規約によつて事務す。

雜誌規定

■毎月一回一日發行
■定價一册金貳拾五錢（郵税壹錢五厘）
■前金購讀料（四ヶ月分）壹圓（六ヶ月分）壹圓五拾錢（八ヶ月分）貳圓（十ヶ月分）貳圓五拾錢（一ヶ年分）參圓
■廣告料（一頁）特三十五圓、一等二十圓、二等十五圓、三等十圓、（半頁）七圓
■振替貯金口座は（東京二二一一六青鞜社）に拂込まれたし。
■郵劵代用は一錢切手に限る（但し一割増のこと）。
■編輯事務、圖書雜誌、補助團會費拂込、廣告申込、交換廣告は青鞜社へ。
■雜誌購讀に關する一切の事務は青鞜社へ。
■原稿〆切期日は毎月十日限とす。

大正三年十二月廿五日印刷納本
大正四年一月一日發行

禁轉載

東京市小石川區竹早町八十二番地
青鞜社内
編輯兼發行人　伊藤野枝
東京市神田區西小川町二丁目六番地
印刷人　篠田玉三
東京市神田區西小川町二丁目六番地
印刷所　大精社

發行所　東京市小石川區竹早町八十二　青鞜社
振替東京二二一一六番

發賣所　神田表神保町三番地　東京堂
電話本局四五六一番
振替東京二七〇番

特價金四拾錢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

謹賀新年

大正四年一月元旦

合資會社 東京堂書店

東京市神田表保神町三番地

電話本局 一二三番 二五五二番 二四八番 四五六一番

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

◉我が文藝飜譯界に於ける空前の大出版

泰西名著文庫

第二版 會員募集

苟も書を讀まば世界第一流の書を讀め、濫讀は浪費也、濫費と同じく心神の損失也、害惡也。本文庫は古今に亘る世界最偉の雄篇傑作を選みて、現文壇斯道の巨匠が刻苦多年飜譯の業を進め來れるもの、坊間濫出の譯書と類を異にすることは既に天下の定評あり。讀書子の書齋必ず一部を缺くべからざる也。

●非賣品――計拾八册 菊版一册平均約八百頁

略規

◉來る三月上旬より毎月一册づつ刊行し會費は一ケ月金貳圓とす――但し外に送本料を要す。
（東京市內は毎月集金人を差出すべし）

◉申込金金貳圓を要す――但し此申込金は最終の會費に充つ。

飜譯者の氏名

（イロハ順）

馬場孤蝶　戶川秋骨　高橋五郎　平田禿木　森鷗外　森田草平

入會申込 一月末日限

泰西名著文庫の信用

如何を示すべく……に於ける無數の貴紳及び公衙中より若干の芳名を左に掲ぐ。

日本銀行總裁 三島彌太郎 子爵家
大審院長 法學博士 横田國臣 家
總理大臣 大隈重信 伯爵家
東京 德大寺實則 公爵家
議定官 土方久元 伯爵家
東京市長 法學博士 阪谷芳郎 男爵家
東京 渡邊國武 子爵家
圖書頭兼諸寮頭 理學博士 山口鋭之助 家
貴族院議員 帝大 教授醫學博士 大澤謙二 家
法學博士 貴族院議員 平田東助 子爵家
海軍軍醫總監 醫學博士 實吉安純 子爵家
掌典次長 九條道實 公爵家
元帥陸軍大將 内大臣 大山巖 公爵家
東宮御學問所幹事 海軍少將 小笠原長生 子爵家

貴族院議員 德川頼倫 侯爵家
東京衛戍總督 淺田信興 男爵家
陸軍大將 朝鮮駐劄軍司令官 安東貞美 男爵家
陸軍中將 帝國大學名譽教授 醫學博士 宇野朗 家
第一艦隊司令官 海軍中將 栃内曾次郎 家
東京控訴院長 法學博士 富谷鉎太郎 家
帝國大學教授 理學博士 柴田桂太 家
海軍軍令部次長 海軍中將 山下源太郎 家
皇子傅育官 松平乘純 子爵家
貴族院議員 海軍中將 伊藤雋吉 男爵家
住友銀行社長 住友吉左衛門 男爵家
前大阪商船株式會社長 中橋德五郎 家
日本銀行理事 渡邊千春 伯爵家
三井銀行、三井物産常務取締役 早川千吉郎 家

貴族院議員 後藤新平 男爵家
三井合資會社長 三井八郎右衛門 男爵家
三菱合資會社長 岩崎久彌 男爵家
三井銀行常務取締役 米山梅吉 家
日本郵船株式會社長 近藤廉平 男爵家
三菱合資會社顧問 豐川良平 家
東京 大町桂月 家
東京 慶應大學
東京 早稻田大學
東京 高等師範學校
山口 高等商業學校
鹿兒島 第七高等學校造士館
衆議院
貴族院

規定及見本は御申越次第送呈す

濫褒は戒むべく、濫譏は愼むべきである、併しながら良書の價値は絶對である。これより獲らるゝ慰安、反省、向上、發展の効果を思へば、天下の何物も之と廉價を競ふことは出來ぬ。

東京市神田區小川町一番地
國民文庫刊行會
電話國本局七三二番　振替東京一八五七二番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

創造

紙數を増加し

内容更に充實

短歌投稿歡迎■新年號内容■特價三十錢　郵税不要

■途上（小説）……秋庭俊彦

■闇の彼方へ（小説）……景山哲雄

■悩める胸へ（小説）……加藤鈴之助

■黑い血の果（戲曲）……加藤一夫

■戸の外まで（小説）……美川康

■彼と彼の妻（小説）……清浦明人

■挿繪數葉……未來派の美術

□詩人ノヴァーリス……山岸光宣

□淺劣なる自由の要求……稲毛詛風

□文壇の回顧一年……美川康

□ネオ・ストイシズム……加藤朝鳥

□病牀雑感……景山哲雄

□永靈の交感……伊藤彌太

□ニイチエとブレヱク……立石美和

□余が製作慾……木村莊八

□誇張か緊張か……清浦明人

■詩及歌■

人見東明　加藤介春

福田夕咲　室生犀星

若山牧水　加藤東籬

和田山蘭　松岡朝次郎

高鹽背山　越前翠村

磯ケ谷紫江　田邊若男

歌壇の新生命「創作」本誌と合併、若山牧水氏入りて歌壇を擔任し、青年歌人の短歌一千餘首を精選の下に掲載。

東京小石川高田老松町　創造社發行

東京市牛込區矢來町三　金風社發賣

振替東京一三八四

賣捌　全國各地書店

初版賣切
再版出來

■平塚明氏著

伊藤野枝氏
岩野清氏　序

反響叢書
第二編
評論集

現代と婦人の生活

■四六版三百頁■
■定價八十五錢■
■郵税二錢■

現時の思想界に於て、著者平塚女史の如く大膽に然も深刻に生活の自由を叫ぶものはあらず。所謂「新しい女、醒めたる女」の主唱者として、著者の緊縮せる生命力は、今や正に思想問題の燃點となり、新人生活の暗示をなしつゝあり。

見よ著者が一度愛戀の自由と個性の權威を宣言するや、愚昧の俗衆は卑俗の嘲笑をあびせ、傳守的爲政者はあらゆる威壓と迫害を加へたりき、かくして著者は、先覺者としての實力と權威を反證せり。

新しき自覺者は是非共本書を讀め、婦人を論ずる輩も是れを讀め。然して新教育と新宗教に目醒んとする徒輩が又正に本書を讀まざる可らず。

東京市本郷區元町
二丁目二十五番地
日月社
振替東京二八九一四

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

平塚明序　伊藤野枝譯（新刊）

婦人解放の悲劇

菊半截二百七十頁
エレン・ケイ、エンマ・ゴルドマン二女史肖像挿入
定價金六十錢
送費金六錢

内容

- 婦人解放の悲劇
- 結婚と戀愛
- 少數と多數
- 戀愛と道德
- ゴルドマン小傳（ハヴエル）
- ケイ小傳（エリス　らいてう譯）

婦人を解放せよ、婦人よ自覺せよ、婦人よ、天賦の才能を發揮せよといふ叫びはたゞ漠然と聞へる。この時に當り歐米先進國の婦人はその第一歩の物的解放を實現した。そしてその結果はどうであつたか。彼等は更にその第二歩の解放に入らざるべからざる窮境に陷入つた。本書、エンマ・ゴルドマン、エイン・ケイ二女史の論文四種を譯輯せるもの、最も健全にして理解ある兩性問題の解決である、既に我等に用なき因襲羈絆を脱して女性本然の光輝ある生活に入らんとする勇氣ある女性及び理解ある男性の一讀を切望す。

發行所　東京市日本橋區檜物町九（振替貯金東京五六一四）　東雲堂書店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

附

錄

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ソニヤ、コヴァレフスキィ——野上彌生子譯

第二章　大學時代

彼女の云ふ所によりますと、これはソニヤの奇妙な結婚生活になるまでの戯曲的の序幕でありました。兩親は彼女を許しました。而して間もなく——一八六八年の十月に——パリビノで結婚式を擧げました。

若い夫婦はセント、ピエテルブルグをさして出掛けました。ゴヴァレフスキィは此處へ來るとすぐその妻を色々な政治的團體へ引き合はせました。この事はソニヤの熱心な希望なのでありました。後で彼女と非常に親しい仲になつた一人の友達は、この時のソニヤの容貌に就いて次ぎのような事を書いてゐます。

『人生の氣苦勞や、煩悶のために、皆んなもう幾分か疲れ弱つてゐた政治的婦人の中では彼女は全く風變りな様子でありました。顔つきが子供々々してゐるところから、「小さい雀」と云ふ仇名を貰ひました。

彼女はほんの十八になつたばかりでありましたが、まだ〳〵ずつと若く見えました。顔

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

はふつくらした方でありますが、身體は小さくすらりとしてゐました。短かい栗色のちゞれつ毛に生き〳〵した顔つきをして、絶えず表情の變るきら〳〵した眼の中には、子供らしい純樸と思想の深さとが著しく混ざり合つてゐました。彼女はその年頃にしては珍らしい無意識のしとやかさで有らゆる人を引きつけました。年寄りでも若い者でも、男でも女でも皆んな魅せられて仕舞ひました。その物越しは何處までも自然のまゝで、微塵もコケットらしい所はありませんでした。自分が皆んなの尊敬の的になつてゐるなどゝは思ひもかけぬ風でありました。全くのところが彼女は容貌とか着物とかには少しも頓着しなかつたのであります。出來るだけ質素な着物で、幾何か無精な點さへありました――これはソニヤが直す事をしなかつた一つの疵であります。そのお友達は斯う云つてゐます。『ある日こんな事がありました。非常に話がはづんでゐる間に、彼女は左の袖の飾りをいぢつてゐて、その縫ひ飾りをほぐして仕舞ひました。すると皆んなそれを引きちぎつて、結句そんなものゝとれたのを悦ぶように床に投げ出しました。』

若い夫婦はセント、ピエテルブルグには六ケ月ほど居て、それからハイデルブルヒへ行きました。其處でソニヤは數學を、良人は地質學を學び度いと思ひました。二人はその大學に學生として名を連ねました。それから暑中休暇のために英國へ行きました。其處でソニ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ヤはジョージ、エリオット。ダーキン。スペンサー。ハックスレーと云ふような多くの名士と懇意になりました。グロッス氏のエリオット傳にあるエリオットの日記の中には、一八六九年十月五日の日附のところへこんな記事があります。

『日曜日には面白い露西亞人の夫婦が逢ひに來た――コヴァレフスキィ氏及びコヴァレフスキィ夫人。彼女はハイデルベルヒで數學を修めてゐるのだが（キルヒホッフの世話で許可されたのだそうな）可愛いゝ人で聲でも話でも引きつけられるほどおとなしやかである。コヴァレフスキィ氏は笑嬌がよくて聰明だ。有形科學――重に地質學を學んでゐられる。そのために奥さんはハイデルベルヒへ殘して置いて六ケ月ほどウキンナへ行くところである。』（ジョージ、エリオット傳の三卷の一〇一頁）

けれどもこの計畫は直ぐとは實行しないで、オールデマアールは妻と一緒に一學期ハイデルベルヒにゐました。その時の二人の生活は次のような風であつたと彼女の友達は書いてゐます。その人はソニャから自分の兩親に頼んで貰つて、一緒に勉强される事になつてゐたのでありました。

『私が一八六九年の十月にハイデルベルヒに着いて暫くすると、ソニャは良人と一緒に英國から歸つて來ました。彼女は申分なく幸福なようでありました。而して其旅行を大層悅

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

んでゐました。薔薇色の頰をして、生き〳〵と元氣よく、私が初めて逢つた時に何にも變らずチャーミングでありました。それでもその眼の中にはもつと〳〵生命と火がありました。新らたに初めた勉强を何處までもやつて行こうとする新らたな精力を感じてゐました。

そんな眞面目な勉强はしてゐても、矢張り他に色んな事をして樂しみました。隨分他愛のない事までしました。私は二人が着いた日に、ソニャと私と丈けで散歩をして、丸で子供見たいに路ばたを馳けつくらしたのをはつきり覺えてゐます。私逹の大學生活の初めのこんな思ひ出では、如何にもチャーミングで元氣なものでした　ソニャは全く幸福そうにしてゐました。尊い幸福を持つてるようでありました。それでも後になつてその若い頃の事を話す時には、彼女は若い年をむざ〳〵使つて仕舞つたかのように非常に殘念がつてゐました。斯う云はれると私はハイデルベルヒの初めの一月の事だの、私と二人での熱心な議論だの、その若い良人との詩的な關係だのが思はれました。この時分にはその人は全くプラトニックの愛でソニャを愛したのでありました。ソニャの愛もまた同じくプラトニックな愛のようでありました。二人ながらまだ普通愛と誤り稱してゐるような下劣な慾情の事は分らなかつたのであります。私にはその點ではソニャが不平を訴える譯はなさそうであります。彼女の心は高い向上心で一杯になつてゐたのでありました。でも私に彼女の幸

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

福な事が分つてゐたのはたゞこの時代丈けでありました。それから間もなく翌年になるともはや同じように幸福には行きませんでした。

講義は私達が着くとすぐ初まりました。三人は皆んな一日ぢゆう大學にゐて、夜はまた家で勉強しました。日曜日の外は散歩するひまもありませんでした。三人してメンハイムの劇場へ芝居見に行つた事なぞありました。知つてる人と云つてもほんの僅かでありましたし、まあまれにしか訪ねもしませんでした。

『ソニャは數學に異常な技倆があつた爲めに、すぐと先生達の注意を引きました。ケーニッヒベルゲル教授とか、彼女が實用自然科學の講義を聽いた有名な自然哲學者のキルヒホフと云ふ人々は、皆んな何か大變な事のようにその噂をいたしました。彼女は小さい町ぢゆうの大評判になつて、町の人達は通りに足を留めて、その珍らしい露西亞の貴女をふり返つて見るほどゝなりました。ある日彼女は大きな聲して笑ひながら歸つて來ました。而して子供を抱いた一人の女の人が、立ち留まつてソニャを眺めながらその子供に大きな聲で斯んな事を云つたと話しました。『ねえ。御覽な、その娘さんはそれは〳〵學校に行くのがお好きなんですよ。』(Sieh, sieh, das ist das M''adchen was so fleissig in die Schule geht !)

ソニャは先生や學生との交際では、殆んど臆病なほど無口でありました。大學に這入る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

時もいつもうつ向いたり、あらぬ方を見たりしてゐました。自分には出來る時でも、學校の友達には決して云ひませんでした。斯んな態度が非常に獨逸の教授達を悅ばせました。彼女の恥かしがりは決して見せかけでなくて、その年頃として全く自然のものでありました。一日彼女は家に歸つて、私にこんな話をしたのを覺えてゐます。教授でしたか又學生でしたか誰かゞ黑板にした解說の中に一つ間違ひのあるのをソニャは發見しました。その人はだん／＼迷つて來て、その間違ひがどうしても分りませんでした。ソニャは胸がどき／＼したけれども、やつと決心して立ち上つて、その間違ひを示めしてやりました。

『コヴァレフスキィは不斷から何かに對して元氣よく面白がる人でありましたから、友達仲間としては非常に愉快でありました。けれども私達の幸福な生活は長くは續きませんでした。冬の初めにはソニャのお姉さんとイネズが着きました。二人は私達よりは五つ六つ年上でありました。私達の部屋は狹過ぎたものですから、コヴァレフスキィは自分が何處か他の家へ行くのが一番だと思ひました。それでその部屋を新らたに來た人達に讓りました。ソニャはよく彼を尋ねて行きました。時によると一日ぢゆう彼の相手をして暮らしました。二人つきりで散步する事もありました。絕えず大勢の女達に取り卷かれてゐるのが、二人に取つていゝ氣持のしないのは無理からぬ事でありました。ことにお姉さんとイネズは年

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

上ですから、コヴァレフスキィに對していゝ顔ばかりはしませんでした。その人達には又それ丈けの意見があつて、結婚と云つても表向きだけの事だから、コヴァレフスキィはソニヤとの關係をそれ以上親しいものにする權利はないと思つたのであります。こんな邪魔が這入るために時々不和が起きて、これまで私達の小さい仲間(サークル)にあつた調和が破れて仕舞ひました。

こんな風で一學期がすむと、コヴァレフスキィはもう面白くなくなつたから、ハイデルベルヒを去ろうと云ひ出しました。彼は初めにエーナに行き、それからミユーニッヒに行つて、すつかり研究に沒頭して仕舞ひました。彼は非常に聰明で、且つ大層勉强家でありました。身を持する事もつゝましやかで娯樂などは徹塵も思ひませんでした。ソニヤはよくあの人を幸福にするには書物が一册とお茶が一杯あれば澤山なのだと云つてゐました。彼女には可なりこれが氣に入りませんでした。而して勉强してさへゐれば自分とつき合つたりしなくもいゝのだと思つて、その勉强を嫉妬し初めました。私達は一緒に行つて、その良人に逢つて來る事もありました。學期と學期の間には二人してよく旅行しましたが、ソニヤはそれを大層たのしみにしてゐました。けれどもソニヤは學期の中でも彼と離れてゐる氣がしなくなりました。而して絕えず色んな要求を持ち出して彼を苦しめようになりま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

した。彼女は一人で旅行する事が出來ませんでしたから、彼はやつて來て彼女と一緒に何處へでも行き度いと云ふ所へ連れて行かなければなりませんでした。研究に夢中になつてゐる時でも、色んな事をねだつて、下らない事まで皆んなして貰はうとしますので、いつも大層優しくはしてやつたのですが、今では彼も少々じれて來たようでありました。
『後になつてソニヤが自分の過去の生涯を私に話した時、何よりも苦しい不平として云つたのは、『眞から私を愛して呉れた人は一人もなかつた。』と云ふのでありました。私がそれに反對して、でもあなたの良人は優しく眞からあなたを愛したのです、と申しますと、『あの人は私があの人と一緒にゐる時は私だけを愛して呉れますわ。でも私ゐなくたつてあの人は平氣でゐられる人なのです。』と云つてゐました。
『あんな事情の下で、彼がソニヤと一緒にゐようと云はなかつたのは、私には無理からぬ事だと云ふ事がよく分ります。でもソニヤにはそれが分らなかつたのでした。子供の時から彼女は何に限らず物事を極端にするのが好きな方でありました。彼女は所有されるよりは、自分で所有したいのでした。私は彼女の生涯の悲劇はこれが大部分をなしてゐると思ひます。』
私はその時代のお友達や仲間の學生達が觀察した事をも少し附け加えなければなりませ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ん。それに依つて見ると、彼女のずつと若い頃から發達して、其後の衝突や苦痛の根となつた、特種な性格が分るでありませう。

『彼女は何んでも物をやり遂げる事がこの上もなく好きでありました。一度目的を定めると、どんな手段を盡しても、それを止めさせる事は出來ませんでした。ですからきつと成就するのでありました。たゞ感情に關する事だと不思議な事にはその鋭い知覺(パーセプション)のためによく失敗しました。自分を愛する人にも、又自分が愛さるゝ人にも、餘り多くを求めすぎるのでありました。而してかさにかゝつて求めなくも氣樂に貰へるものを、無理やり取る風がありました。彼女は又何處までも優しくされたり、信じ入まれたりしたい方で、絶えず自分の傍にゐて何かを共にする人を欲しがりました。ところがそのやつてゐる生活は彼女と親しい接觸を持つて暮す人達には迚も眞似の出來ないものなのでありました。ずつといつまでも親しい、親切な友情で慰められるには餘りに落着きのない不調和な氣質でありました。その上餘りに自己的で、相手の特性に目を配る隙がありませんでした。

コヴァレフスキイはどうかと申しますと、これは又大層氣まぐれな性質で、いつも新らたな計畫やら思想やらで一杯になつてゐました。神樣はこれ等二人の驚くべき能才の人々は、當分の間雙方が幸福な生活をするにはどんな事情の下にゐなければならぬかと云ふ事を御

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

存じでありました。

ソニヤは一九七〇年の秋まで二學期ハイデルベルヒにゐました。それから伯林に行つてワイエルストラウス敎授の指導の許にその研究を續ける事にしました。

間もなくその良人は論文に因つてコーナでドクトル、フィロソファーの學位を得ました。その論文は大變な評判になつて、優れた立派な研究家と呼ばれるようになりました。

第三章　ワイエルストラウスに學ぶ
自治制中の巴里訪問

ある日ワイエルストラウス敎授は一人の若い貴女が訪ねて來て、彼の數學のお弟子として貰ひ度いと賴まれたのには寧ろ驚きました。伯林大學は今でもそうでありますが、婦人は入れないのでありました。けれどもソニヤは何處までも世人から近世の數學的解析の父として認められてゐたその人に敎はり度い希望でありますから、個人敎授をして貰ふ事になりました。

ワイエルストウス敎授は此知らない女から賴まれた時には、少し疑念を持つてゐたのでありました。けれどもまあ試めして見る事にして幾つかの問題をやりました。この問題は

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

すつと進んだ數學の研究科の學生にやらせるために別にしてゐたものでありました。彼は迚もそれが解ける氣遣ひはないと思つて、彼女の事なぞはすつかり忘れてゐました。それに初めて逢つた時の彼女の顏容が、彼の心に何一つ印象を留めなかつたのでありました。彼女は決して立派な着物なぞ着ませんし、それにその時は顏がすつかり隱くれるような帽子を冠つてゐましたから、大層ふけて見えたのでありました。それ故これは敎授が自ら私に話した事でありますが、初めてソニヤに逢つた時にはその年や、誰でも初めて逢ふと、直ぐ目に着く彼女の異常な表情の深い眼には微塵も氣がつかなかつたとの事でありました。一週間經つてから彼女はまた訪ねて行つて、問題を皆んな解いたと申しました。敎授は信じませんでしたが、それでも自分の傍に座らせて、その解式を一つ〳〵調べて見ました。すると驚いた事には皆んな正しい計りでなく、非常に銳く巧みに解いてありました。彼女は熱心の余り帽子を脫いだので、その短かいぢゞれつ毛がむき出しになりました。而して賞められてまつ赤になりました。その年老いた敎授もずつと上の男子弟子の中にも珍らしいほどの天才の兆を持つてゐる此若い女に對して、父親の優しさに似た或物を感じたのでありました。その瞬間から偉大な數學家は彼女の生涯の友達、望み通りの最も忠質な力になる友達となりました。彼の家族では彼女は娘か妹のように扱はれました。

ワイエルストラウスに就いて積んだ四年間の研究は、ソニヤの凡ての科學的經歴に截然たる影響がありました。彼女の著作は彼の作を基礎としたもので、凡て彼の定理(マキシム)を適用し進化させたのであります。

その敎はり方は一週に一度ワィエルストラウス敎授が來て吳れるし、毎日曜日にはソニヤから出掛けると云ふ風にしたのでありました。良人は伯林に彼女を連れて來てやつてお友達と一緖に置いてゐたのでありますが、それでも時々ハイデルベルヒから尋ねて來ました。二人の關係は相變らず風變りなものでありますから、ワイエルストラウスの家族にも少し不審がられてゐました。その妻が家のようにしてゐる親しい所に彼は決して姿を見せないのでありました。ソニヤも決して彼の事を話さないし、ワイエルストラウスにも引き合はせませんでした。けれども日曜日の晚に彼女の課業がすむと、彼は門の鈴を鳴らして取り次ぎの者に斯う申します。『マダム、コヴァレフスキィに馬車が門に待つてゐると申して下さい。』ソニヤも二人の間の奇妙な關係には寧ろ困つてゐるのでありました。ハイデルベルヒの或敎授は、いつぞや彼女の家でコヴァレフスキィに逢つたところが、ソニヤはたゞ『親類の者』として彼を紹介したと云つてゐました。

彼女のお友達は自分達の伯林生活を下のように書いてゐます。『私達はハイデルベルヒに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ゐた時よりかもずつと淋しい單調な生活をしてゐました。而して全く孤立してゐました。ソニャは一日ぢゆう紙の上にのし掛つてゐるし、私は夜まで實驗室にゐて、それから大急ぎで晩飯をすますと又二人とも勉强を初めました。ワイエルストラウス敎授がしよつちゆう見える外には、家の內では誰にも逢ひませんでした。ソニャは氣が鬱して、何んにも面白くなさそうでありました。勉强以外には有らゆる事に冷淡でありました。良人の來てくれるのが少しは氣晴しになるのでしたが、そうして一緖にゐるたのしみも思ひ違ひや批難のためにきつと打ち壞しになりました。それにも拘はらず矢張りどちらからも深く思ひ合つてるようでありました。よく二人つきりで長い散步をしてゐました。

『私と二人つきりの時にはソニャは決して外出しませんでした。散步もしなければ遊びにも出掛けませんでした。どうしても必要な買物にさへ行きませんでした。

『私達はワイエルストラウスの家からクリスマスに招待されました。私達だけのために一つのクリスマスの樹が飾られたのでありました。ソニャは新らしい着物がどうしてもゐるのに、幾ら云つても買ひに行こうとはしませんでした。私達はその時に喧嘩をしました。（良人がゐさへすれば都合がよかつたのでありました。彼は彼女の要るものは何んでも當てがつて、品物を撰んだり、着物の型を極めたりして吳れたのでありました。）とうとうソニ

ャは自分では家の外に足を踏み出さないで下宿の神さんに反物を買はせて縫はせにやりました。

ソニヤが氣疲れの非道い頭の仕事を、一寸とも机から離れず何時間もぶつ通しに續けて行かれるのは、最非凡な事でありました。一日ぢゆうの仕事がすんでやつと紙を置いて立ち上ると、彼女は何か考え事に夢中になつて、高い聲で獨り言を云ひながら部屋を行つたり來たりしてる事がしよつちゆうでありました。時によると大きな聲で笑ひ出しました。こんな瞬間にはその想像が彼女を現實世界から遠くに運んで行くのでありました。けれども、どんな空想がその胸に一杯になつてゐるか、幾ら聞いても決して話しませんでした。彼女は夜もおち〳〵眠りませんでした。時には何か妙な夢に目が覺めてがばと飛び起きる事がありました。而して私に一緒にゐて呉れるようにと云つて賴みました。彼女はよく夢の話をして呉れましたが、いつも風變りな面白いものでありました。その夢は屢々幻影のようなものになつてゐましたので、ソニヤは何かの預言だと思つてゐました。それが又よく當りました。彼女の氣質は極度まで神經質でありました。決して休息と云ふ事をしないで、絕えず六ケしい仕事や問題に打ちかゝつてそれをやり遂げようとして一生懸命勉强するのでありました。それで何か一仕事片附けて仕舞つた時にはもうがつかりして疲れてゐ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ました。先へ〳〵と進んで行く後には現實はいつもずつと遠ざかつて見えるのでありました。斯うして彼女が氣を張り詰めてしてゐる時には、一緒にゐるものは一層不愉快でありました。けれどもその緊張が終つて、成効のまん中にみじめに疲れきつて沈んでゐるところを見ると、深く憐れまずにはゐられませんでした。これ等の光と影との強い對照は彼女の性格を非常に趣深くしたのでありました。

『大體から云つて私達の伯林の生活は――惡い宿、惡い食べ物、同樣に惡い空氣で、不斷の過度な仕事、變化もなければ慰みもなく――初めてハイデルベルヒに來た時の事が私には失樂園としてしようちゆう思ひ出されたほど佗しいものでありました。一八七四年の秋にソニヤはドクトル、フィロソファーの學位を得ました。彼女は精神上にも又身體上にも余り疲れてゐましたから露西亞へ歸つて行きました。而して當分何んにも仕事をするのが出來ません。

『全くのところソニヤの科學的の勞作は自分には何んにも眞の樂しみにはならなかつたのでありました。彼女はいつも極端まで勉强しますが、そのために人生を樂しむ事を妨げられるのみでなく、自分のやつてゐる仕事さへ樂しめなくなるのでありました。思索は彼女の下部でなくて、暴君でありました。それはずつと後の彼女の文學的勞作とは全く反對で

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ありました。その文學的勞作は彼女に深い樂しみを與へて、最も愉快な氣分にしてくれたのでありました。

『彼女の伯林に於ける學生時代の不幸はその過度な勞作の外に色んな他の事情が加はつたのでありました。

『第一は自分と良人との關係、即ち二人の極めた間違つた狀態に就いての彼女の意識で、それが又兩親の下手な干渉でなほと惡くなりました。

『親達は休暇の間に五六度尋ねて參りました。而して一緒にソニヤを露西亞へ連れて行きました。とうと本統の事情がすつかり分つたものですから、親達は彼女を批難して良人と妻をも少し親密な關係にしてその事を旨くしようとしました。けれどもソニヤはそんな事は耳にも聞き入れませんでした。

『でも彼女はその淋しい生涯には滿足しなかつたのでありました。後になつて自身の中に燃え盡す焰となつた大なる情緒に對しての熱望を、既に感じかけてゐたのであります。彼女の一番內奧の自我はその生活の方法から判斷して推察するものとは非常に反對でありました。けれどもその希望や慾性は、半分は恥しいため、半分は實際的の感覺が缺けてるのと、自分の間違つた狀態を思ふためとで制せられてゐたのでありました。後年になつては彼女

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

はその年頃のごん底の寂寥を痛ましく悔んでゐました。

『その二人は實用的の事は何んに分りませんでしたから、長い間には不愉快な生活をするようになりました。いつもいやな宿や、みじめな食べ物や、更に惡い召使ひばかりが手に入りました。一度は一と群れの盜人に襲はれて、何から何まで取られて仕舞ひました。或時は下女が盜人だつた事が分つたから叱りました。するとその女が急に太て〳〵しくなつたので、直ぐ樣暇を出さなければならなくなりました。その晩寢床の拵え方も知らずに二人して部屋へ坐つてゐますと、誰か窓を叩くものがありました（彼等は一階目に住まつてゐたのであります）顏をあげて見ると窓硝子の向ふに一人の女の顏が目に入りました。二人は怖がりながら何の用事だと聞くと、その女は奉公口を探してゐるのですと答えました。その顏つきが非常に嫌ひだつたのですが、丁度困つてゐた折からで、反ねつけもせず雇ふ事にしました。この女が又二人を意地目つけたり、物を盜んだりしたのは大變で、それを追つ拂ふためには巡査を呼ばなければならない程になりました。

でもソニャは概して生活の實際的の方面には非常に無頓着でありました。食べ物が善かろうが惡かろうが、自分の部屋が整つてゐようが、ゐまいが、着物が破れてゐようがきちんとしてゐようが氣にも留めませんでした。併しこんな不快な事に煩はされたのも、たゞ大

事な心配ごとなど起つた間だけでありました。』

一八七一年の正月には、甚だ冒險的旅行に出掛けるために、一時勉强を止めなければならなくなりました。

*　　*　　*　　*　　*　　*

アニウタはハイデルベルヒの單調な生活に直ぐ飽きが來て、兩親には內證で巴里へ參りました。女流作家として立つ積りであつたから、ソニヤと書齋で閉ぢ籠つて暮らすのは自分の目的に合はないと思はれました。彼女の望んでゐたのは文學者仲間に懇意になる事と、實生活と舞臺の智識でありました。一度父親の束縛を免れた彼女は大膽に自分の計畫を押し通しました。お父さんには巴里に居る事を書いてやる譯には行きませんので、飽くまでも自分の思ふまゝな生活がして行き度いと思ふ餘りに、お父さんを欺ますようになりました。いつも手紙を出す時にはソニヤの手を通じて、獨逸の消印を押したのでありました。けれどもその內に動きの取れないような色んな關係の中に引き込まれて、一日々々とお父さんに本統の事が打ち明けられなくなりりました。

彼女は後で自治制の時に重だつた役に就いた一人の若い佛蘭西人と、親密な關係になつたのであります。而して包圍中自分も巴里に籠城してゐました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ソニヤはお姉さんの身の上を大層氣遣つて、內證で旅行してゐるアニウタを助けるのは、自分の責任だと云ふ氣が頻りにしてゐました。それで包圍が解けるや否や、良人から巴里に連れて行つて貰つてお姉さんを探そうと決心しました。

後になつてソニヤがその旅行の話をした時には、どうして獨逸軍を切り拔けて巴里の町へ這入れたのかは、說明が出來ませんでした二人はセーヌ川に添うて步いて行くうちに、岸に引きつけてある一艘の主のないボートが目に入りました。二人は直ぐとそれを手に入れて漕ぎ出しました。けれども一ヤードも行かぬうちに、番兵が見つけて叱りけました。二人は返事もせずずんずん急いで行きました。衞兵達が怠惰けてゐたのか、それとも知らん顏をしてゐたのかで、やつと向岸まで逃げ延びて、首尾よく巴里に這入り込む事が出來ました。丁度初めて自治制が開始せられた時でありました。

後年ソニヤはこんな經驗の或者を文學の形式で出版する考えがあつたのでありました。併し悲しい事にはその企ても他の多くい事と同樣に彼女と一緒に墓に行つて仕舞ひました。『自治制の許に於けるラゼフスキイの姉妹』と云ふ題で、一つの短篇を書かうとも思つてゐました。而して色んな面白い場面の中に、自分とアニウタとが勤務した野戰病院の一夜を描くつもりでゐました。その病院で二人はずつと前にセント・ピエルブルヒで懇意に

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

した四五人の若い娘たちにめぐり逢つたのでありました。砲彈はあたり近所に爆裂するし、負傷した人達はしつきりなしに連れ込まれる中でその若い女達は自分達の現在の生活や周圍とは全で違つた昔話をひそ〳〵と話し合つたのであります。凡てが夢かお伽話てゞもあるような氣がしました。

ソニヤは素晴らしい身の震ふような歷史的の出來事も、まだ面白い小說のように感ぜられる年頃でありました。彼女は破裂する爆彈をびくともせず眺めました。こんな劇のまん中に生きてる事が、自分には愉快な亢奮の情と内心からの歡喜になになつたのでありました。

お姉さんに就てはこの時どうする事も出來ませんでした。アニウタは熱心にその政治的運動に打ちはまつて、どんな危い身になつても、永久に自分の運命をかけたその男と共に生きさへすればいゝと云ふ望みなのでありました。それ故その出來事がすむと間もなくコヴアレフスキィ夫婦は再び巴里を去つて、ソニヤは伯林でその硏究を續けました。

けれども自治制が顚覆するとソニヤは今度はアニウタから呼び返されました。アニウタはお父さんを瞞ました事を許して下さるように取りなして、どんな事でもしていま置かれてゐる絕望の境遇から自分を救ひ出して呉れるようにと賴みました。その情人たるY氏近

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

四人となつて、死刑の宣告を受けたのであります。

ソニヤが『ラゼフスキィ姉妹』の中でお父さんの事を書いた描寫を思ひ出しますと、彼が突然その殘酷な事實を知つた時の打擊はどんなにか苦痛に感じただろうかと云ふ事は容易に想像されます。彼は再び娘達に欺かれたのでありました。姉娘は氣儘な事をして行つて、必然彼の天性と教義の急所を悉く傷けなければならぬような事を仕出したのでありました。ほんの二三年前こそ、アニウタだ内證で著作をして原稿料を受け取つたのが現はれた時、悲しみと怒りに我を忘れて、こんな言葉を叫んだのでありました。『今お前は自分の仕事を賣つた。いつかお前自分を賣らないとも限らないよ。』

不思議な事にはお父さんはこの便りとどん底の悲しみを極めて落着いて受け取りました。彼とその妻はコヴァレフスキィ夫婦と一緒に急いで巴里に行きました。而してその罪深い子供に逢つた時には飽くまで優しく、勘違してやりましたので、此度如何にかされる事と思つてゐた娘達は、此瞬間から今まで見せなかつた愛情を持つお父さんに縋りました。私は此最多事であつた時代に就いて、ほんのきれ／＼な逸話しか述ぶる事の出來ないのを殘念に思ひます。

クルコヴスキィ將軍は Kiera (譯者註、佛の史家にして大頭領であります 1797-1877) に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

手蔓がありましたから、その未來の婿を許して貰ひ度いと頼みました。Kiera 氣の毒ながら何としようとありませんでした。でもその話の中にその人の交つてゐる罪人達が、明日他の牢屋に移される筈だと云ふ事を一寸と洩らしました。罪人達は丁度陳列會の開かれてゐる或建物の傍を通るのでありますが、其日のその時刻には、其處で大取引がある事になつてゐたのでありました。それ故アニウタは指定された時刻に其處へ出掛けて群集に交つてゐました。而して罪人達の通る瞬間に首尾よく兵士等の護衛の目を盜んでY氏の腕を取ると、そのまゝ陳列會の中に消えて、他の門から停車場へ逃げ延びました。

これは妙な話で殆んど信じられぬようでありますが、私はたゞソニヤやその他の友達が話した通りを述べたまでゞあります。

友達が一人亡くなると私共は男でも女でもその人に十分注意しなかつた事や、その人の云つた興味ある話を皆んな藏つて置かなかつたのを非常に後悔する事が屢々あります。私がこの場合の自分の不注意を悲しむのは、ソニヤがよく『私が死んだらあなたが私の傳記を書いて下さい。』と云つてゐましたから、それ以上の理由があるのであります。けれども現在そんな仲のいゝ話をしてゐる時に、自分達は後に取り殘されて死人にかけた親しいいきづなの思ひ出での外には何んにも殘らないような時が本統に來るのだと誰が信じられま

せう。又誰にしてもそれからそれへと自分達のし殘した話を、幾らでもされる機會のある明日を待たぬものはないのであります。

一八七四年にソニヤはキョツチンゲン大學でドクトル、オブ●フィロソファーの學位を得ました。そのためにソニヤはワイエルストラウスの指導の下に三つの論文を書いたのでしたが、殊にその中の 'Zur qheorie der partiellan differentialgleichungen' (Crell's Jnnraal, vol.80) は彼女の名著の一だとせられてゐます。殊に許されて口頭試驗はなしですみました。キョツチンゲンの哲學部長に當てた次ぎの手紙では、彼女がその免除を望む動機を彼女一流の調事で説明してゐます。その免除は非常に例外な場合にしか許されないのでありました。

『閣下よ ((Ener Spectabilität) ドクトル、オブ●フィロソファの學位に對する私の請求に就いて一言云ひ添えさして頂き度いと存じます。

『これまであんな閑な暮らし方をしてゐた所から進み出そうとするには、私には樂な事では御座いません。自分の厭惡に打ち勝つてそんな事を致しましたのも、たゞ私と最親しい關係の人々を滿足させ度い爲ばかりであります。その人々の判定は私には非常に大事なことでありまして、私はその人々に私の數學研究の興味は本統に眞面味だと云ふ事と、私の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

勉強が無駄でなかつたと云ふはつきりした證據を見せ度いのであります。且つ私が十分しつかりした研究を差し出し、權能ある大家の有利な證明がありさへすれば、一外國人としての私は in absentia で學位を貰えると云ふ話を聞きました。

それにまた——私の腹藏のない告白を誤解なさらないように願ひます——私は examen rigorosum に十分自信があるかどうか怪しう御座います。私の例外な位置が知らない紳士達の審判所に立つては幾分か私を壓制して、まごつかせはしないかと心配してゐます。試驗官の方々も其處の所はよく御分りになつてゐて下さる事は十分心得てゐるのでは御座いますが。

最後の理由として申添えなければなりませんのは、つく〴〵考えて見ますと、私は獨逸語を數學にはよく用ゐてゐますが、會話の出來るほどには迚も使えないと云ふ事であります。

『私は五年前まではまだ獨逸語を習つてゐませんでした。伯林にゐました四年間は非常に孤獨な生活をしてゐましたので、先生とゐた時より外には獨逸語はめつたに使はなかつたのであります。

『こんな理由で御座いますから、どうか口頭試驗を免除されますようにお願ひいたすので

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

御座います。」

此要求と、その論文が非常に價値があるのと、並びに色んな立派な證明があるのとで、ソニヤは箇人的の後押しもなく、ドクトル、オブ●フィロソファーたる異常の名譽を得たのでありました。

間もなくクルコヴスキィ家はまたパリビノの古い家に一緒になりました。

第四章　露西亞に於ける生活

この家族の現狀はソニヤが幼年時代の思ひ出で(ラゼフスキィの姉妹)の中に描いたものとはすつかり違つてゐました。果てもなく知らぬ世界を夢見てゐた二人の若い娘達は、今では十分經驗を積んだ女となりました。二人の若々しい豫想は實現しなかつたもの丶、冬夜、茶卓の上のサモヴァールが歌つたり、淋しい邸園の外で餓えた狼共が毎夜のコンサートをしたりしてゐる間に紅い絹緞子の調度の大きな客間の爐の傍で語り合ふには、どんな話の種もあるほど見たり聞たりしてゐました。世界は彼等の目にはその無限の或物を失ひました、と云ふのは彼等はその大部分を見て、世界の割合が推し計られたからでありました。

アニウタは自分の强い感情に對する熱望を滿足させるためにこの上もない多事な時を過

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つて來ました。彼女は疲れて稍皮肉な表情をして自分の側の安樂椅子に座つてゐる例の人を熱烈に好いてゐました。彼女の愛は何處までも烈しく嫉妬深くて、いつも變らぬ存分な刺戟を欲しました。妹は今までは全くのところ理性の中に生きてる計りでありましたが、その智識慾ももう一杯になりました。否飽滿し過ぎて、今ではこの上頭を働かせる事は出來ないほどでありました。彼女は小說を讀んだり、カルタ遊びをしたり、智識的の趣味などはなんにもない近所の人達の社交界に立ち交つたりして日を送つてゐました。

この時ソニヤの大なる悅びの原因となつたのはお父さんが變つて來た事でありました。ソニヤと同じくお父さんは智識と內省に依つて自分の性格を改善し、發達させ得る一人でありました。而してこれまでの性格となつてゐた荒々しさや、脈制は、娘達から、ひどい憂目を見せられた爲めに柔らげられたのでありました。彼は自分が若い時にやつて行つたような力は、それを何處までも押し通せば親と子供達との中でも無事にはすまない事が經驗で分つたのでありました。それ故今では先の自我主義者たる一人の婿の急進意見も、自然科學者たる一人の婿の唯物論的傾向も大目に見てゐました

この事はソニヤがお父さんに留めた一番の美しい追懷でありました。而してその冬にはお父さんがなくなつたものですから、尙と深くその事が心に印象されました。心臟病のた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

めに急に思ひもよらず亡くなつたのであります。

この打撃は非常に辛らいものでありました。ソニヤは近頃お父さんに懐き切つてゐたのでありました。實際お父さんは不斷からお母さんよりかもずつとソニヤを愛してゐました。クルコヴスキィ夫人は誰からも好かれるし、誰にもよくすると云ふ風な女達の一人でありましたが、又それが原因で娘と　氣が合ひませんでした。その上ソニヤは自分は弟やお姉さんほどお母さんに可愛がられないと云ふ氣がいつもしてゐました。同時にお父さんのお氣に入りだと云ふ事が分つてゐました。

お父さんの死は怖ろしい空地を殘して、ソニヤに非常に淋しい思ひをさせました。アニウタはその悲しみを分けられる良人を持つてゐます。ソニヤには何んにもありません。彼女は熱心に彼女を慰め度い、力を借し度いと思つてゐる例の人とはずつと疎々しくしてゐたのであります。今では突然その人と彼女との關係は、常にも增して苦しく不自然になつて來ましたが、彼女の優しくされたいと云ふ望みは凡ての偏見を打ち破りました。而してこの悲しみの時に靜かに彼の本統の妻になる氣になりました。

次ぎの冬には家を擧げてセント•ピエテルブルヒに移りました。ソニヤは直ぐ最優秀な智識ある仲間のまん中にゐました。露西亞の帝都以外には何處にもないようなえり拔きの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

社交界であります。ソニャ計りでなく同じような仲間（サークル）によく出入する人達なら誰でも、優た自由主義を持つた露西亞人は、その多方面と、公平な意見と、廣い精神の領域に於て、凡ての他國民に立ち優つてゐるのを認めるでありませう。彼等は他國の一番進歩した人々よりも又ずつと先んじてゐて、地平線上の新らたな心的現象を發見する最初の人であります。而して不思議なほど公平な眼を以つて、熱心に打ちはまつて他の歐羅巴の國民には何處にも見られないような彼等の思想をそれと結びつけるのでありました。

ソニャは自分の事が了解され、賞讃されてゐる事が分りました。彼女にしても今が若盛りの頃でありますから、此變化は嬉しう御座いました。彼女は人世の渦――祝祭、演劇、講義、會合、その他同じような刺戟の中に熱心にその身を投げ込んでゐました。

その現在の周圍は科學的趣味よりはずつと文學的に傾いてゐましたから、ソニャも自分もやつて見る氣で同じ仲間に引き込まれました。いつも匿名で新聞紙に寄書したり、詩を書いたり、劇の批評をしたりしました。彼女は又『內證の講演者』と云ふ小說も出版しましたが、これはある小さい獨逸の町に於ける大學生活を取り扱つたもので、非常に有望だとせられてゐました。

アニウタは又良人と共に五六年セント・ピエテルベルヒに落ち着いてゐましたから、立

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

派な女流作家となりました。オールデマール●コヴァレフスキィは重に飜譯をして五六の平易な科學的著作を出版しました。ブリームスの有名な『鳩』などがそれであります。

ソニャがお父さんから讓られた財産は、お父さんが大部分はお母さんへ殘したのでありますから、ほんの少しでありました。然るにコヴァレフスキィ家の生活は幾らかの贅澤は止むを得ない風になつてゐました。ソニャが色んな事業に手を出す氣になつたのもそんな事からでありませう。良人は自分には贅澤などはどうでもよかつたのでありますが、持ち前の快活な感動し易い空想からすぐその氣になつて、一つ工業的の事業を手初めにあさから色々と企てました。彼等はセント●ピエテルベルヒに幾つかの入浴會社を建てたり、橙園を建てたりしました。新聞も編輯すれば、色々な變つた發明もして一時は凡ての事が繁昌するようでありました。友達は華々しい未來を豫想してゐました。一八七八年（譯者註ソニャが二十九歳の時）には初兒で且つ一人子の娘が生れて、大事な後繼ぎだと云つて祝はれてゐました。けれどもソニャは例の通り何んだか不仕合せのあるような氣がして仕方がありませんでした。この時一人の親しい友達は、第一番目の家のために盛んな起工式が擧られる筈になつてゐた丁度その日に、ソニャが今日と云ふ日は私の前夜見た夢のために汚されてゐるのだと云つたのを覺えてゐます。夢はソニャが儀式に參列してゐた大勢の群集

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に圍まれてその新らたな家の敷地に立つてゐる所でありました。突然人々が散々になつてその中から良人が一人の惡魔見たいな男と鬪ひながら出て來ました。その男は良人に襲ひかゝつて、あざ笑つたり罵しつたりしました。

彼女はこの夢があたりそうな氣がして、長い間不安らしく悄げ込んでゐました。

最も華々しく初めかけてからその事業がどれもつぎ／＼に失敗した時、ソニヤの精力や意力の卓越してる事がよく現はれました。暫くこそ富を成すために自分の智識や發明力を使用する氣になつたかも知れませんが、併し彼女の心はこんな不滿足な追求に深く打ちはまる事は迚も出來ませんでした。一度の打擊に百萬圓を失つても夜の眠りも亂されねば、額に皺一つ寄せませんでした。而して微塵も悲しまずに夢の富の失くなつたのを眺めました。彼女が富みたいと思つたのは人生の凡ての現象に引き込まれて、その空想的な熱烈な性質が有らゆる事を知りたがらせた爲めでありました。けれども凡ての計畫が失敗した事が分ると彼女はすぐそれを放棄する氣になりました。而して今はもう全力を盡して良人を慰め助けようとばかりしてゐました。

ところが不思議な事には一時は決して富などは望まず、現在手に入る財貨にも心を動さなかつた此をとなしい人が、妻よりはずつとこんな方法での貨殖の念が盛んになつてゐま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

した。事業が失敗した爲めに自分の氣まで押し潰されたようでありました。同時にソニヤは已むを得ざる事には服從する稀れな力を持つてゐるばかりでなく、新らたな仕事に身を投ずる丈けの充分な心の彈力性がありました。

此時彼女は一つの失敗を旨く防ぐ事が出來ました。骨身も惜まず肩身の狹いのも頓着なしに彼女は事業に手を出してゐる友達のところを馳け廻りました。而して凡ての關係者が滿足したような整理が出來たのでありました。彼女は良人から感謝と賞讃を報はれて、幸福の新らたな時代が二人の上に白みかけたようでありました。

けれどもソニヤの夢の惡魔は今になつて本統に現はれて來ました。彼はやり口の華々しい冒險者風な人で、コヴァレフスキイとは事業上の關係があつたのですが、その人がある新らたな危險な投機事業に彼を引き込まうとしたのであります。初對面でその性格を見拔く事に非凡の技倆を持つてゐるソニヤは、直ぐ樣自分の家で逢ふに堪えられないほどこの人を嫌ひました。彼女は良人に此惡い助言者から遠ざかつて、彼女もした通り凡ての事業を放棄するよう。而して科學の研究に立ち歸るようにと賴みました。けれどもその甲斐もありませんでした。この時即ち一八八〇―一八八一年にはコヴァレフスキイは當時夫婦が住んでゐた莫斯科の大學で古生物學の敎授に任せられたのですが、ます〳〵空想的になつて來た自

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

分の大仕掛けの事業から手を引く事が出來ませんでした。
コヴァレフスキィはその新らしい危險な同盟のためにもう盲目にされてゐますから、妻の反對には耳も借しませんでした。とうと如何してもソニヤを贊成させる事が出來なかつたので、彼女をのけ者にして自分の獨斷でやつて行きました。これは彼女には何より苦痛な打擊で、その氣質として迚も堪えられぬものでありました。一度眞から良人に從はうと決心してからは、二人の間のきづなを強く引き締めるためには萬事を賭して來たのでありました。自分の生涯の最大な事業だと思ふものには、直ちに熱烈にその身を打ちはめるのは彼女の生れつきでありました。彼女は大切な事と大切でない事との間にかつきり線を引きました。而して大切でない事のために、大切な事を決して犧牲にしないと云ふ事が、彼女をして他の女達に立ち優れさした重なる性格の一つであります。彼女には狹量と云ふ事がありませんでした。中途半端な事の忍べないたちで、一つの大事な目的のためには萬事を犧牲にし得るのでありました。
ソニヤはあらん限りの力を盡して良人を嚇してゐる危險から救はうとしたのでありました。一人の友達は彼女の煩悶と犧牲を次ぎのように記してゐます。
「彼女はコヴァレフスキィにその科學の新らたな興味を與えやうとして、自分も一緒になつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

て地質學の研究をしたり、彼の講義の準備をしたり、又あらゆる事をして家庭生活を出來る丈け面白くしようとしました。皆んな無駄でありました。私は彼はもう當り前の心ではないと思ひます。神經が餘りに亢奮され過ぎて平均を失したのを恢復する事が出來ないのであります。』

その冒險者は今では烱眼な妻をその良人から引き離そうとばかり思ひつめました。而して二人の間を氣まづくさせて、彼女に良人は、自分が思つてるのとは違つた原因から何んにも云つて呉れないので、それには嫉妬していゝ丈けの譯があるのだと思はせるようにさせました。

ソニヤが自らが書いた事に依つて、十歲の子供として彼女に烈しい嫉妬の傾向のあつたのを知つてゐます。此一綫に觸るゝと彼女の烈しい氣質から一番强い情熱が起るのでありました。ソニヤは批判的な內省を失ひました。而してその罪狀が本統か噓か調べる事も出來なくなつて――近年は彼女の凡ての事が發明であつたのは確かでありました――ひたすら逃げ出し度い、見捨てられたと云ふような屈辱や、自分の熱情から下劣な探偵をしたり喧嘩をしたりさせられる怖れから逃げ出し度いとばかり思つてゐました。自分はもう愛されなくなり、信用されなくなつたと思ふ良人と住んだり、その人を留める事も出來ず、見す

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

見す落ちぶれさして行く事は、その氣質としては六ケしい事でありました。彼女はどうでもいゝと云ふようには迚も出來ませんでした。外面の事では容易に滿足され辛抱が出來る丈けに、感情の事では一克で一歩も讓りませんでした。眞底からその人を愛したのでもないのに彼女は全く一身をその人に打ち任せて、何もかもその人と趣味を一緒にしたのでありました。而して自分の良人、自分の子供の父から傍目もふらず愛され度いと願ふ女の烈しい慾望を以てその人を自分に引きつけようとしたのでありました。これ程までしたに拘はらずその人は背いて二人の間には他の者の這入つたのが分るや、愛情の人爲的なきづなはきれ〴〵に破れて仕舞ひました。その胸は縮こみひるんで今まで意志の力で絡まりついてゐたその偶像を投げ出しました。彼女はも一度ひとり法師でありました。

彼女は今は自分と小さい娘のために未來を作らう、家と國を後にして、再び大陸に淋しい研究的生涯をしようと決心しました。

第五章　旅中の冒險、運命の打擊

汽車が停車場を離れて、見送りに來てくれた友達もとうと見えなくなつて仕舞ふと、ソニヤはやつと押えつけてゐたのを今はもう思ふさま涙の發作に破れました。自分の束の間

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の幸福を思ひ、他の人々と何處までも同情し合つた世を送らうとした事の敗れたのを思つて泣きました。而してこれから先の淋しい研究を考ゆると身が震ひました。曾てはその研究が自分の全生活であつたのですが、今は自分自身の家庭に住む幸福や、同情ある友達から愛されたり理解されたりする幸福を味はつてゐますから、もうそれだけで滿足する事は出來ませんでした。

彼女は又數學を研究しようとしてゐるのだとか、自分の名もあがり、名性の光榮にもなるような作物を書こうとか思つたりして氣を紛ぎらそうとしましたが――何んにもなりませんでした。こんな悅びもその二三年彼女の運命で且つたゞ一つの標的であつた個人的の幸福に比べては青白く見えました。悲しみの病的發作はいよ〳〵烈しくなつて、頭から足の先まで彼女を震はせました。

彼女は向ふに座つてゐた一人の中年の紳士が氣の毒そうに自分を見てゐる事にはちつとも氣がつきませんでた。『私はお前さんのそう泣いてゐるのが見てゐられない。』彼はとうと口をきりました。『乾度お前さんは今度初めて一人りぼつちで世の中に出たのですね。併しそれにしたつて人喰人達のところへ行く譯ぢやなし、お前さん見たいな若い娘はいつだつて欲しけりや友達の出來るものでさ。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ソニャはびつくらして顔をあげました。而して直ぐと泣きやみました。彼女は自分の一番親しい關係の人達にも十分氣をつけてその心の創は隱してゐたのでありますから、今知らない人の前に自分の悲しみを見せた事を恥かしく思ひました。

でもその人は彼女を何人かと云ふ事は少しも知らないらしいのでやつと助かりました。その次ぎの話でソニャを若い女敎師で生活のために大陸に行くところだと思つた事が分りました。ソニャも別に見當違ひだとも云はず斯うして自分の名の匿くせるのを悅びました。一芝居して見るのも面白かつたのでありました。彼女は難なく哀れな女敎師になりすまして、おづ〳〵と目を伏せながらその道連れの人の忠告や慰めを聞いてゐました。眞劍な悲しみをしてゐながら、その身に持つた空想的な素質は、こんな不可思議を樂しませる丈け十分强かつたのでありました。その紳士が一緒に汽車から出て、通りがゝりになつてゐる町を見物しようではないかと云ひ出すと、彼女は同意して、二日二人でその町で暮らしました。それからどちらも名前も所も云はないまゝで別れました。

この小さい挿話はソニャが冒險を好む事を特性的によく現はしてゐます。彼女はその紳士が氣に入つたのであります。その人の親切な同情に動かされたのであります。自分の行く路に折よく投げられた此小さい悅を受け入れるのは當然であります、他の女なら決して

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

こんな自由な事をしてその紳士から訝山がられるような事はしなかたでありませう。けれども永年良人の物になりもせずに友情で暮らしてたようなソニヤには、そんな事は何んでもなく思はれました。それに彼女は男との交際には、自分一つで何處までゝも制限のつけられるものだと云ふ事をよく知つてゐたのでありました。その點では誰一人彼女を誤解するものはありませんでした。

後で巴里に往つてゐた間にも同じように常習を度外視してある人との關係を極端まで進めた事がありました。とうとその宿の神さんに胡散がられるようになりましたが、神さんにしたところで、彼女の部屋から朝の二時頃にもなつて出て來たり、庭の塀をよぢ上つたりする男を見ては、そのお客の事もどう考えたものか分らなかつたのでありました——その上この男はいちん日ソニヤと一緒に暮らして、夜もいつも遲くまでゐたのであります。それにその人はソニヤが交際してゐるたつた一人の人でありました。疑はれたのは無理もありません。でもこの場合の關係は想像される通りプラトニックなのでありました。

この青年は波蘭士人で、革命家で、數學家で且つ詩人でありました。

彼の精神と彼女の精神とは同律で燃え立つ二つの火焰の如くでありました。彼が理解したほど彼女を理解し得たものは今まで誰もありませんでした——あらゆる情調でも、思想

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

でも、夢でも。二人は絶えず一緒にしてゐました。ちよつと別れてゐる間でも、どちらからも長い手紙を書きました。詩の合作もするし、長いロマンチックな小説を書き初めたりまでしました。

二人は人間は一對づゝ作られたもので、一人の男や女の形は完全な人間の半分にしか過ぎない、も一つの半分は此世では極く稀れな仕合せのいゝ機會にしか一緒になる事は出來ないけれども、地球上の何處かに存在してゐるのだと云ふ思想の熱心な信者でありました。大抵の場合では二人は未來の世でどちらも廻り合ふだけであります。これ以上ロマンチックな事があられるでせうか。

これ等の二人も地上では一緒になる事は出來ませんでした。と云ふのはこんな結合をするのに大事な條件がもう損はれてゐたからであります。もしソニヤが自由な身になれるとしても、一度は他の人のものになつてゐたのであります。青年はその女が唯一の戀でありましたから今まで純潔にしてはしたもの、思ひきつて一緒になる覺悟も出來ませんでた。それに又ソニヤは良人との間のきづなが全く敗れてゐなかつたら、他の人のものになる權利はないと思はれてゐました。時々どちらからも手紙を書いたり、又逢ふことを話したりしました。その心の中には彼はまだ彼に對して優しい思ひを持つてゐました。

そんな譯でその波蘭土人との彼女の關係は、何處までも思想の交換や、感情の抽象的な解剖ばかりでありました。

二人は絶えず話をしながら、スラヴ人種の特性たる果てしのない言葉の洪水に我を忘れながら一緒に坐つてゐるのであります。

そうしてゐる間はソニヤに自分の實生活の不調和を忘れさせました——時に突然運命は殘忍な壓し潰すような打擊を彼女に加へました。

その良人は自分が詐欺師に僞はられて家族を零落さした事が分ると共に、生きてゐる勢がなくなつたのであります。此高い天賦のある偉い人、何處までも單純なをとなしい態度を持つて、金錢で得られるような娛樂は何一つ欲しがらなかつた人が、自分の凡ての性格や置位とは全く反對な詐僞師の犧牲となつたのであります。

この報知の來た時にはソニヤは烈しい神經性の熱病で臥せつてゐたのでしたが、よくなつて起きた時には、生命の神經が寸斷〳〵に切られて仕舞つたかのようでありました。良人と共に居つて彼を助ける事はしないので、置き去りにしと云ふ後悔は——それも堪えられぬ程の煩悶をさせたのではありますが——今度の取り返しの出來ない凡ての苦痛を以て彼女を苦しめたのでありました。此病氣と心的の煩悶の間に彼女の容貌は生き〳〵した所

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が失くなつて非常にふけました。その美しい顔色も消えました。額には一つの深い皺が出來て、それはずつと後までも其處へ殘つてゐました。

第六章　瑞典よりの最後の招聘

ソニヤは一八七六年(二十七歲)セント●ピエテルブルヒへ住んでゐた時、ある人と懇意になつてゐましたが、この事が彼女の將來に著しい影響を及したのでありました。

敎授ミッテージ●レフラーはソニヤと同じくワイエルトラウスの門下で、度々先生が彼女の拔群な才能を話すのを聞いたものですから、近づきになり度いと思つてソニヤを訪問いたしました。

この時にはその新らたな知己がどれほど自分に大事なものになるかとはソニヤは夢にも分りませんでした。訪問を受ける事が却つていやに思はれたほどでありました。と云ふのはその時は科學的硏究などはすつかり打つちやつ仕舞つて、老先生との文通さへ怠つてゐたのでありました。けれどもミッテージ●レフラーと話をしてゐるうちに自分の先の興味が甦つて來て思索の銳敏な事や、最も復雜な數學上の問題を理解する事の迅速な事は、訪問者が自分の前のその若々しい顏を眺めながら殆んど茫然としたほどでありました。彼は

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

婦人思想家としての彼女の特質から受けた印象が如何にも深かつたものですから、數年後自分が新設のストックホルム大學の數學敎授に招聘せらるゝと、第一着にマダム・コヴァレフスキィを自分の許に推薦の講師として招請する事にしました。

良人の亡くなるより一二年前、ソニャは何處かの大學に講師としての位置を得度いと云ふ望みを示めしました。ミッテージ・レフラーは故郷の町に於ける科學研究の新らたな中心（センター）や婦人問題に熱心な興味を持つてゐましたから、自分の科學の最初の人で且眞に偉大なる婦人の名をその新らたな大學に結びつける事によつて、その上に光彩を添え度いと思つたのであります。

既に一八八一年にはこれ等の豫想に就いてソニャは次ぎのような事をミッテージ・レフラーに書いてゐます。

伯林、ベルレフユーシユトラーセにて

七月八日、一八八一年。

……でも私がストックホルムに招聘せられるかも知れないと願つて下さる事や、それに就いてのあなたの凡ての御盡力は心から有難う御座います。私自分ではもし講師の位置が得られるなら、きつと悦んでお受け致しませう。私は決してそれ以上のものは何んに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

も望んではをりません。全くのところ私はこの置位を少しも恥しいとは思ひません。而して高等教育の務めのために自分の智識を用ゐる事や、大學に入り込まんとする婦人への進路これまではたゞ除外例や特別の恩惠としてのみ與えられて、獨逸の諸大學での場合のように譯もなく勝手に引き戻されるかも知れないような特權を安全にする機會を持つ事を眞から滿足に存じます。

富んではゐませぬが、私の財産で十分獨立して暮らして行けますから、この場合報酬の點は御心配に及びません。何にも增して私の願はしいのは、自分に大事な目的を盡す事と、同時に私と同じような研究をしてゐられる人々に取り卷かれて働く事であります。私は露西亞で失くして、それ以後たゞ伯林のみで悅んでゐた利益をいつもあこがれてゐるので御座います。

親愛なる教授よ。これ等は私一箇人の感情であります。併し私は他の熟慮を云ひ添えなければなりませんか。ワイエルシュトラウ教授はストックホルムの事情がよく分る丈けに大學がその教師の中に婦人を許そうとは考えません。その上尙大事な事には、彼はあなたが何處までもこの革新を主張なすつては、あなた御自身の位置を誤りはなさらないかと氣遣つてゐます。この事に對する私共の愛する先生の意見をあなたへ御通知しないのは、私

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

としては餘りに勝手過ぎると思ひます。不斷から非常な興味を與えて頂いたり、力になつたりなろうとしたりして下さるし、私も最も眞實な友情を感じてゐるそのあなたのために、もしや私が障碍となるような事があつたなら、私がどんなに悲しがる事かはお分りになる筈で御座います。

それ故一番賢い策は今はまあこの問題には立ち入らない事だと存じます。丁度今私がかゝつてゐる仕事が出來上りますまでは、どちらにせよお待ち下さい。もしその仕事が希望通りに成効しましたなら、その話を極めるのにも非常に都合がいゝだろうと思はれます。』

ソニヤの生涯に續ぎ〳〵に起つた劇的事件（良人との別居、波蘭土人の友達との小説的なエピソード、コヷァレフスキィの死、自分の長い間の病氣）はこの仕事の完成を遲らせました。一八八三年の秋まではその書物の一冊目が出來上つたとはミッテーシ●レフラーに云つて參りませんでした。秋の二十八日に彼女はオデッサから書きました。

『私はこの二年の間胸中にあつた二つの仕事の一つをやつと仕あげました。私が思つた通りに直ぐ私は滿足な結果を得ました。私は一番にその事をあなたへ知らせ度いと思ひました。けれどもワイエルシュトラウス氏はなみ〳〵ならぬ親切から、私の上首尾な研究に就

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いてあなたへ手紙を書く事を引き受けて下すつたのでした。私は丁度今彼から手紙を貰つたところですが、それに依りますとあなたへ手紙をあげたら折り返しての御返事に特別講義の科程を初めるために、御親切にも私に出來るだけ早くストックホルムへ來るようにとの事だつたと御座いました。あなたの常に示めして下さる友情に對して私は何と云つて感謝していゝか分りません。又私の不斷の望みの的であつた經歷に立入る事がどれほど幸福かと云ふ事も迚もお話に出來ません。それでも私は多くの點から自分は講師たる職務に適してゐるとは感じないと云ふ事をあなたに匿してはなりません。それと共にあなたの親切な肩入れにも拘はらず私のやり方を親しく見るようになつたらすつかり失望なさりはしないかと氣遣つてゐます。

私は悅んでその戶を私に開いて呉れる、凡ての中のたゞ一つなるストックホルム大學に負ふところが非常に深いと思はれます。それでたゞ願ふところはストックホルムと瑞典に私自身を結び付け度い、それを第二の故鄕と仰いで永く其處に留まり度いばかりであります。併しそんな理由のためで、あなたの好意を受くるに足ると感ずるまでは、又いゝ印象を生じられ得るまでは參り度くないと思ひます。私は今＝ワイエルシュラースに手紙を書いて、彼の思想をこの上殘らず私の物にするためと、數學上の私の知識にまだ殘つてゐる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かも知れない空地を充たすために、もう二三ケ月彼と一緒にゐた方が私に取つてより賢い事だとは思ひませんかと尋ねてやりました。

これ等の伯林に於ける二月はその他に私に取つては非常な利益があると思ひます。それは若い數學者等の丁度卒業するところだとか、講師としての經歷を初めようとしてゐる人達とが接せられるからであります。

又私が先に伯林にゐた間に懇意にしてゐた人達に接せられるからであります。誰かと課業を交換する事も出來ます。私はアーベル氏の函數變化の原因を說明いたしませう。これは他の人は知つてゐませんが、私はすつかり研究したのでした。これで今まで全くやつた事のない講義をする機會が出來るでせう。而してきつと正月にはストックホルムへ行けるだろうと思ひます。』

第七章　ストックホルム到着、第一印象

ソニヤと初めて會つた時の事は私の記憶に彫りつけられてゐますが、殊に亡くなつてからは最こまぐした點までよく覺えてゐるのは當然の事であります。彼女は前の晩フィンランドから蒸汽船で來て私の兄のミッテージ・レフラーの家にお客となつてゐたのであり

ました。私は朝の内に訪ねて行きました。

私達はお友達にならうとしてゐたのでした。お互ひにいろ〳〵聞いてゐましたから、二人とも逢ひたがつてゐたのであります。私達が懇意になる事に就いては恐らくソニヤの方が私よりかもずつと樂しみにしてゐたのでありませうと云ふのは私は數學的の女は私が好きになるには餘りに理に落ちはしまいかと少し心配してる時に、ソニヤは私の仕事に非常な興味を持つてゐたからであります。

私が這入つて參りますと、彼女は書物を手にして圖書室の窓の近くに立つてゐました。こちらを向くまでは私はその莊重な横顔をよく見る隙がありました。稍大きな目鼻立ちで、たつぷりした褐色の髪毛を無造作な引きつめの束髪にしてゐました。よく釣合ひはとれてゐないけれどもすらりとした姿で、そのがつくりした頭には身體が少し小さ過ぎるように見えました。口は大きくつて、圓い生き〳〵した唇をしてゐました。その線がかつきりとついてゐるのが非常に表情的でありました。手は全く子供見たいに小さくつて、二つの靜脉がくつきりついてゐるのが幾らか傷にはなつてゐるもの丶、上品でありました。

併しその眼！ それは驚くべき表情を持つた眼で、あらゆる人をひき付けるような特種な魅力を彼女の顔に與えました。その色は變る〳〵灰がゝつた緑になつたり、褐色になつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

たりするので何色と極める事が出來ませんでした。それは智識に輝いて、人の心の奥底まで洞察するかのようでありました。でもそれと同時に優しく樂しく同情に光つて磁力かなんかのように直ぐ樣人の信用を得ました。如何にも大きな、凸狀の眼でありました。時々疲れると一寸とした痕がつきますが、それは非道い近視眼のためでありませう。

彼女は直ぐとふり向いて兩手をさし延しながら私を迎えました。でも幾らか恥しい樣子が見えました。挨拶は寧ろ常習的(コンヴエンシヨナル)でありました。彼女は汽船で非道く齒が痛んだと話しましたので、私は齒科醫にお連れしようと云ひました。

この時私は『どうしたら善事が出來よう』と云ふ脚本を思ひついてゐたのですが、まだ何んにも書きかけてはゐませんでした。ソニヤは非常に人の力を誘ひ出す力を持つてゐたものですから、私は齒科醫の所に行き着くまでに自分で今まで思ひもつかなかつた事まですつかりその趣向を話して仕舞ひました。それ以後彼女はずつと私の書いたものゝ上に大いなる影響を及ぼしたのであります。彼女は理解し同情する事には異常な能力を持つてゐました。如何にも熱心に心から賛成すると共に、非難も亦激烈で、私のような受け身な氣質のものには彼女から賛成されなくては迚も仕事が出來なくなつたほどであります。何か私の書いたものをけなすような事があると、私は彼女の氣に入るまで變えてゐました――

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

これが私達の合作の初めでありました。彼女はもし私が『眞婦人』を出版する前に彼女を知つてゐたなら、それを書きはしなかつたゞらうとよく云つてゐました。と云ふのは彼女は私の著作のうち此脚本と『反社會戰爭』とだけが嫌ひだつたからであります。『眞婦人』を嫌ふのは甚だ特性的な理由でありました。彼女はベルサ（註その脚本の主人公）がお母さんのために、自分の殘つてゐる丈けの財産を救はうとする煩悶を非難しました。『何故つて。』と彼女は申しました。『女が男に身を任せて仕舞つた以上、一文なしになつたつてその人のために財産を犧牲にする事を躊躇してはならないんですもの。』

此批評は彼女そのまゝでありました。と云ふのは文學上の事を審査するには何處までも自己本位だつたからであります。もしその作物の思想や感情が自分のと一致すると、大して文學的價値のないものでも讃めるような氣になりました。反對に著者との意見が衝突すると、その作物のいゝ所は少しも認めませんでした。

こんな偏見があつたにも拘らずその人生觀は非常に偉大なもので、私達の時代の最優秀な人心の中にのみ見らるべきものでありました。彼女は常習的な平凡な意見からは全然自由でありました。生れながらの強い氣魄やその廣い修養が、大抵の人心が傳習的な見解に囚はれてゐるやうな狹い水平線以上に抽んでさせたのであります。たゞ如何ともし難いの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は論理や議論づくでは押し通せぬその強い同情と嫌忌でありました。

私達のこの初めの時の交際はそう長くもなかつたし、親しい交情とまでは行きませんでした。それは彼女が着いてから一二ヶ月すると、私が長い大陸の旅へ立つたからであります。でも二人が別れるまでに彼女は瑞典語を勉強して私の書いたものをみんな立派に讀めるようなりました。彼女はこちらへ着くと直ぐ言葉の稽古を初めてゐたのでした。五六週間は朝から夜までそればかり勉強してゐました。私の兄が彼女を紹介するために科學上のお友達をお客に招かうとしてゐるのだと申しますと、『四日間お待ち下さいな。それまでには瑞典語が話せますから。』と彼女は答えました。

これは寧ろ大膽なようですが、それでも彼女はその言葉を守りました。いよ〳〵その時には少し話が出來ました。初めての冬の間にはもう我々の凡ての近代文學に親しんでゐました。而して悦んでフリシオフのサガ(譯者註　)國語を學ぶのにこんな異常な技倆は持つてゐましたが、でもそれには制限がありました。自分はこの事に特別な才があるのではない。たゞ必要(ネセスティ)と大望(アムビッション)のために自然早く分るようになるのだとよく云つてゐました。全くのところ彼女は多くの國語を學んだとは云つても、どれも完全に會得したものはありませんでした。いつも或程度まで行くとやめて仕舞ひました。獨逸に行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つたのはまだずつと若い時でしたが、それでも拙い獨逸語を話しました。お友達は彼女の拵つたおかしな言葉をよく笑つたものでありました。滔々と話してゐるうちには、最も正しい語法などを選ぶために話をきるような事は決してしないのであります。而して忘れるのは直ぐでありました。瑞典語を覺ゆると、殆んど獨逸語は忘れて仕舞ひました。一二ヶ月瑞典にゐないと又その瑞典語は哀れなものになりました。且つ語學もその他のあらゆる物と同樣に彼女自身の氣分に大層關係しました。疲れたり加減が惡がつたりする時には言葉を見つけ出すのが困難でしたが、興に乘つてゐる時にはやす〳〵と立派に云ひ表はされました。

彼女は瑞典の親しいお友達と露西亞語で話の出來ないのをよく殘念がりました。それがために幾ら自分の思想の最微妙な陰影を現はす邪魔をされたか知れませんでした。露西亞では、その最上な思想が鍵と錠前で閉ぢ込められてゐた牢屋のようなものから拔け出た云氣がしたのでありました。同時に又故鄕の人々は彼女の態度に確かに外國の分子があるとつて責めました。

一八八四年の二月に私は倫敦へ行つて、同年の九月まではソニヤに逢ひませんでした。私はたつた一つ手紙を貰ひましたが、それには彼女のストックホルムに於ける初めての冬

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を次ぎのように書いてよこしました。

『ストックホルムの私の生活に就いて、何をお話したものでせう。大して多事だと云ふほどでもありませんが、十分活氣づいた生活で近頃では寧ろ疲れてゐます。絶えず晩餐と午餐と夜會と。それにどれも出席して、その上に講義の準備をする時間を拵える事は迚もむづかしう御座います。二週間の耶蘇復活祭の祝日のために今日は休みですから、私は女生徒のように嬉しがつてゐます。學期は頓て終りになるでせう、その時には私はセン・トピエテルブルヒの近所の伯林に行き度いと思つてゐます。この次の冬の計畫は勿論まだ極つてはゐません。氣まぐれなのですからね。

あなたにも思ひやられるでせうが、誰に限らずあなたの噂をして、あなたの事を聞きたがつてゐます。あなたの手紙は讀まれて賞讃されてゐます。どれも大評判になつてゐます。ストックホルムの重だつた貴婦人達には、面白い、刺戟になる話の種が缺乏してるようですから、そう云ふ事を供給するのも慈善であります。私はあなたの脚本の運命に對して期待したり震えたりしてゐます。』

四月にはソニャは一と先づ講義を終えて露西亞へ行きました。彼女は其處からミッテージ・レフラーに書きました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

一八八四年、四月二十九日

……ストックホルムを去つてから一世紀にもなるような氣がします。私は一生のうちにはあなたに對する自分の感謝や友情を現はしたり話したりする事は一生のうちには迚も出來ますまい。私は何よりそれが必要であつた丁度その瞬間に、瑞典に新らしい故郷と、新らしい家族を見けたように思はれます。……

ソニヤがその冬大學でした講義は——獨逸語で——何處までも私講のものだつたのですが、でもそれが大變な評判になつて、ミッテージ・レフラーは纔かに彼女を五年の間教授にするに必要な方法を講じなければならなくなりました。箇人には大抵年に二千クロナー(£222)支給する事になつてゐたのですが、大學は倍額£222を給料としてソニヤに出しました。

初めは彼女が餘りに大まかなので金などの事は云ひ出せなかつたのですが、その財政はもはや無料で働く譯には行かなくなつたのでありました。けれども色々六ケしい事の起きたのは金錢の上からではありませんでした。

大學教授の職を婦人に許すと云ふ事に對して各方面から起つた反對を壓服するのが困難

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

たつたのであります。世界の他の大學ではまだどれもその特權が許されてゐませんので、この場合は破格な事なのでありました。でも五年の終りにはミッテージ・レフラーは又骨折甲斐がありました。ソニャは終身教授に任ぜられたのでありました。（ほんの一年で間もなく亡くなつた爲めに、その經歷はそのまゝになりました）

一八八四年七月一日にミッテージ・レフラーはその時伯林にあつたソニャに彼女が五年間教授に招聘せられたと云ふ事を電報で知らせました。彼女は直ぐその日に次ぎの如うに返事をしました。

一八八八年七月一日、伯林にて

『………あなたの電報とヴッグラのとを受け取て、私がどれほど悦んだかはお話するまでもありません。實を申しますと、私は最後の瞬時まで、その事が旨く運ばうとは信じなかつたのでした。この人世によく起るような何かの不意な困難が起つて、私達の計畫はすつかり失敗しやしないかと氣遣つて計りゐたのでした。これもたゞあなたの堅忍と精力に依るのだと云ふ事は少しも疑ひません。私は今は心から自分の義務を最上に果し、凡てのあなたの計畫を立派に助けるために十分な力と資格を持ち度いと思つてゐます。私は堅く將來を信じてゐます。而してあなたと一緒に働く事を思つて悦んでゐます。この世で二人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が出逢つたのも何かの運命でありませう。……』同じ手紙の中に『ワイエルシュトラウスは大學の五六の人々に私が此度講義を開き度い希望のある事を話しました。そう云ふ手筈になり得る見込みも幾らかあります。けれどもこの夏ではありません。と云ふのは現在の大學總長が婦人問題には熱心な反對者だからであります。私は十二月には休暇の間此處へ歸らなければなりませんから、その時にいよ〳〵任命を得度いものだと思ひます……。』

ストックホルム大學では、マダム・コヴァレフスキィを既に教授として迎えてゐるのに、獨逸の首都では彼女がたゞ女性だと云ふだけでまだ大學の講義を聽く事さへ出來なかつた事が分ります。

他の人々は誰もきつと彼女が今得た位置の頼みにならない事を幾らか不安に感じてたでありませう。けれどもソニャは決して將來の事は氣遣ひませんでした。現在に滿足が出來ればそれ以上は要求しませんでした。もし光榮ある將來を犧牲にすれば現在の幸福が得られると云ふなら、いつもそうする積りでゐました。

その夏伯林に行くまでにソニャはモスクワでお友達に預けてあつた娘を訪ねて行きました。其處から彼女はミッテージ・レフラーに手紙を書きましたが、その中には母の務めに就いての彼女の意見と、母として又公人としての責任の間の牴觸を說いてありました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

一八八四年、六月三日、モスクワにて

………私は今Tから長い手紙を受け取りました。それには私の子供を是非一緒にストックホルムへ連れて來るようにと云つてゐます。小さい娘と一緒に暮らし度いのはもう山々なのですが、それでも矢張り彼女はモスクワに殘して置かうと決心しました。この家で大變幸福にしてゐるのですから、連れて行かない方がいゝだらうと思ひます。ストックホルムでは娘を入れるようになつてゐる家庭もありませんし、それに私は時間も精力も皆んな私の新らたな務めに抛つて仕舞はなければなりません。Tのそう云ふ他の理由には多くの人が私がちつとも娘に構はないつて批難するだらうと云ふ事があるのです。併しそんな事は私の眼中には何の價値もない事を申して置きます。私は人生の凡ての些細な事はストックホルムの貴婦人達の御判斷に任せて置きます。けれども、私のみならず私の子供の幸福に係はる大事な問題として、私は假りにもこれ等の貴婦人等の眼にいゝお母さとん見られ度いと云ふやうな事は、許し難い氣弱だと思ひます。』

九月に瑞典に歸つて來ると、ソニャは暫くソエデルテルゼに居を定めました。結晶質の媒間體にずつと先年始めた大事な研究をゆつくり完全しようとしたのでありました。ミッテージ・レフラーとソニャが伯林で懇意になつた若い獨逸人の數學者も其處に居ました。

後者は彼女を助けてその研究を獨逸語にして出版するのでありました。

大陸から歸つて來て其處に訪ねて行くと、私は彼女が前よりもずつと若く、美しくなつてゐるのに喫驚しました。私は直ぐとこれは喪服を脱いだからだと思ひました。と云ふのは黑い服はちつとも似合はなくつて、自分でもそれを着るのを厭がつてゐたからであります。今の輕い青い着物は大層その顏色に配合つて、たつぷりある褐色の髮毛は縮らしてゐました。

けれどもその變化は表面ばかりではありませんでした。その悲しみも彼女の性格の他の一面で、私が見たのはその時が始めてゞあつた溢るゝような快活のために押し除けられた事が分りました。その頃は彼女は生命と精氣に充ち溢れてゐたのでありました。半ば皮肉で半ば氣立ての優しい笑談が口を吐いて出てゐました。彼はやたらと最も大膽な逆說(パラドックス)を云ひ出すでありませう。こんな時には直ぐとやり反せなかつたら、默つてゐた方がいゝのであります。彼女はぢつと考えてるような餘裕は與えなかつたからであります。

同時に彼女は次ぎの學期の講義の準備をしてゐました。その講義は先づ彼女が實驗用の兎(Verswiliskaniuchen)と呼んでゐたその若い獨逸人に述べて見るのでありましたが、一部分はきつとミッテージ●レフラーにやつて見る事になつてゐました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

彼女の元氣は秋の間ぢゆう續きました。社交界にもよく行きました。而して何處でゝも大きな仲間(サークル)の中心となりました。

ソニヤの性質の中には強い諷刺的(サーカスチツク)な分子がありました。彼女は天才と智識の崇拜者で凡庸を輕蔑しました。でも同時に凡ての人世の衝突に對して、些々たる事にまでも詩人の理解と同情ある感情が與えられてゐました。自分のお友達に係はつてゐる事ならば家事のごたごたした事とか、着物の事とかまで興味を以つて聞きました。

彼女は女生徒のような單純で氣取りがなくつて、自分が他の婦人に立ち勝つてるなどゝは思つてゐないと云ふ評判でありました。けれどもこれは間違つてゐました。彼女の磊落なのはたゞ上部だけで、全くは非常に内端なのでありました。たゞその態度や智識の彈力性と、ものを樂しみ度いと云ふ自分の望みと、人間的な凡てに對しての心理的興味とのために、有らゆる人を魅する同情ある外觀になつたのでありました。餘程厭がつてゐるんでなければ自分より劣等なものには滅多にその皮肉を洩らしませんでしたが、同等と思ふ人々には遠慮なくやつつけました。

けれども彼女は直ぐとストックホルムの社交生活に疲れて來ました。誰もかれも分りきつて仕舞つたと云つて、又新らたな刺擊を望むようになりました。彼女がストックホルム

に滿足が出來なかつたのは、恐らく世界の何處にも滿足出來なかつたのは不幸でありました。彼女は絶えず自分の心に刺撃を望んだのでありました。灰色した單調なその日〳〵の生活は彼女には憎むべきものでありました。自分でもよく云うてゐた通り彼女はジプシーの氣質で、教養のある市民の德操は不適當な氣がしてゐました。

彼女はこの特趣な氣象は大祖父樣の結婚した一人のジプシーの娘から自分に傳はつたのだとしてゐました。その事が又彼女の知識の特性となつてゐました。非常に容受する力があると同時に何處までも多產(プロダクチーヴ)で自然でありました。而して何物かを作り出すために他の人の天才に刺戟を求めました。彼女の科學的勞作も全くはその偉大な主要思想の發展に外ならないのでありました。

文學的の製作に於ては又絶對に同じ仕事をしてゐる他の人々との思想の交換が必要でありました。全くのところストックホルムのような小さな町の生活は彼女には餘りに沈滯だつたのであります。彼女は大きな歐羅巴の市都のみで育つ事が出來るのであります。

今年——一八八四年——は彼女は伯林でクリスマスを過しました。私が彼女から例の警句を始めて聞いたのは、この訪問から歸つた時でありましたが、その言葉はその後毎年繰り返されて友達を心配させたり氣を惡くさせたりしました。『ストックホルムからマルメー

までの路は私の今まで見たうちで一番綺麗な鐵道線路のようですわ。でもマルメーからストックホルムまでの路と來たら一番いけない、一番のろ〳〵した、一番退屈な旅行ですよ。』彼女がいや增しに增す哀苦を以て、度々その旅行をしなければならなかつた事を思ふと私の心は震えます。その悲しみは終に彼女を墓に導いたのでありました。

そのクリスマスに私の兄に來た手紙は彼女の一體の傾向が上部の快活らしいのに引き更え深く沈鬱になつてるのが現はれてゐます。その友達は今度伯林に行つてる間は彼女は今まで以上にずつと愉快そうだつたと申しました。彼女は若い人々が一般に樂しみにする凡ての演戲を、自分の若い頃には打つちやつて置いたのを後悔しました。それで今その償ひをするつもりで舞踏やスケートを敎はりかけました。始めて試みて見るのに公設所の氷の上ではやり度くないと思ふので、誰かそのお友達か崇拜者かの一人が伯林の近間の郊外に在る自分の庭園の中に彼女の爲に自用のスケート場を拵えました。舞踏の稽古もそれと同じで、借つきりの部屋で四五人の崇拜者を相手にしてするのでありました。彼女はそれからそれへと快樂に急いで、色んな樂しみを味ひました。

けれどもこの愉快な心持ちも長くは續きませんでした。一月後にはもうすつかり憂鬱病になつて仕舞ひましたが、それは半分はお姉さんが病氣だと知らせて來たのと、半分は例

によつて彼女には不幸なものとなつた一寸した戀愛事件のためとでありました。全くのところ彼女が元氣がよかつたり又沈み込んでゐたりする底にはこれが横はつてゐたのであります。

十二月の二十七日には彼女は斯んな手紙を書きました。

『私は非道く沈み極つてゐます。姉からいやな便りがあつたからなのです。彼女の病氣はだん／＼惡くなつて行きます。今では眼を冒されました。姉は讀む事も書く事も出來ないのです。皆んな心臟の弱いせゐから來るので、それがために血液が一部分充血したり痲痺したりするのであります。近い將來に怖ろしい損害が私を待ち構えてやしないかと思ふと身が震ひました。何んたる怖ろしい人生でせう。又續けて生きるなんて事も何たる馬鹿／＼しい事でせう。今日は私の誕生日で三十一になります、（アンシャロッテ註彼女はもう二つ三つ年上であります）まだずつと長く生きなければならないかと思ふと怖ろしくなります。

『脚本や小説では凡ての書物がもちつと都合よく運んでゐます。もしひとりの人がその生涯が自分には價値がなくなつたと分ると、直ちにその境地を通り越えて、他の世界に行かせるようにする何んか、或は何物かゞ出て來ます。この點では現實は甚だ小説に劣つてゐます。生物が自然淘汰などに依つてだん／＼と發達した機能的の完全に關する話は澤山あ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ります。私は最も望ましい完全は急に安々と死る技倆ではあるまいかと心から思つてゐます。疑ひもなく人間は退化したのであります。蟲類とか劣等な組織の動物とかは決して自殺の決心をする事は出來ません。一つの滴虫の生命がきれるまでには怖ろしいほどの苦しみをし得るのであります。けれどもたん／＼高等な生物になるほど、手早く安々と死ねる事がお分り、なるでせう。鳥とか、獅子、虎とかの如き野獸は、どんな病氣でもそれが致命のものですからね。面白くつて堪らぬ生涯であるか、でなければ死です——何んにも苦痛はありません。けれども人間と云ふ最高等の動物はこの點では彼の蟲けらによく似てゐます。翼は裂かれる手は碎かれる、足は折られるとしてもまだ死ません。

今日はこんな悲しい手紙を書いて御免下さい。私はひどく暗い氣分にゐるので御座います。何んにも仕事をする氣になれないのが一番困つて仕舞ひます。次ぎのような題に就いて大分考えてはゐたのですが、次學期の講義を準備し初める精力がありませんでした。』

（これからは數學的な話になつてゐます）

私は同じ手紙からもう一ケ所引かなければなりません。——

『あなたのお妹さんはクリスマスの贈物としてストリンドベルヒの一つの論文を送つて呉れました。その論文の中にストリンドベルヒは女が數學の教授になるなんて事は、二、二

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ヶ四と云ふ事ほど正確に奇怪な事だ、最不快な且つ無用なやくざ事だと論じてゐます。畢竟するに私は彼の云ふ事が正しいと思ひます。たゞ瑞典には私以上の數學者は澤山ある、私が撰ばれたのは女を祭り上げる動機からだけだと云ふ意見には異議を挾みます。』

第八章　遊戲及びその他の娯樂

その冬 Nybrovike か、でなくば Sheppsholm かの公設スケート場に集まつた滑り手の中に、人々はしつくり身に着いた毛皮飾りの外套を着た一人の小柄な貴婦人を見たでありませう。彼女は近眼でしたからマッフに手を入れたまゝ一人の眼鏡をかけた背の高い紳士と、矢張り背の高い瘠せた貴婦人との間に挾まれて、用心をしいしい滑つて行きました。兩端の二人はどちらも餘りよく滑れないのでありました。彼等は大抵話に身が入つてゐました。時によるとその紳士は氷の上に數學的の圖形を描きます――滑靴で描くのではありません――そんな事が出來るほどは迚も滑れないのでした――でも杖で描くのでした。するとその小柄な貴婦人は足を留めて熱心にそれに見入つてゐます。彼等は大學から來たのでありました。そのうちの一人がその大學で講義をしてゐるのでした。ある科學的の問題から熱心な論爭が引き起されて、滑べつてゐる間ぢゆう續いたりしました。時々その貴婦人

は小さい聲でキャーッと叫んで、氷の上の數學を差控えて呉れるようにと頼みます。そのために自分の身體の平均が取れなくなるからであります。その他二人の貴婦人は心理學的の觀察を交換したり、自分の書こうと思つてゐる小説や脚本の事を話し合つたりします。時にはめい〳〵の滑走の技倆の事から喧嘩が初まります。めい〳〵皆んな自分の手腕を主張したがるので、この場合に限つて他の人には優越權を與えませんでした。全くのところソニヤは少し滑べる事が上手になつた度びに彼女の科學的の名譽よりかも、ずつと自慢してゐました。

この二人の貴婦人は時によつては乘馬學校に影を見せる事さへありました。勿論何處にでも彼女が現はれさへすれば誰もが名高いマダム●コヴァレフスキィに目を留めました。けれどもその度毎に人々は彼女の子供らしい身の振舞に喫驚せずにはゐられませんでした。彼女は乘馬には非常に興味を持つたらしくはありますが、少しも乘れませんでした。彼女は馬の背中では我を忘れるのでありました。而して馬が一寸とでも不意に動くや否や大聲をあげて叫び出しました。その癖いつも一番おとなしい馬に乘つてゐたので、假令旨く乘れない――一寸とも進まなかつたり、ちよん〳〵搖れたりしてもそれは彼女のせゐではない、馬が惡い位ゐだつたのであります。一回に十分も驅けるのが高々でありました。而し

て馬が突然逃ね上ると彼女はおかしな瑞典語で息も絶え〳〵に斯う叫び出す事が屢々でありました。『N、Nさん、馬を留めて!。』

けれどもこんな事を知らない人は誰でも、彼女が自分の馬術の話をしてゐる様子を見ると一とかどの騎手だと思つたでありませう。

伯林に於ける友人で且つ崇拝者で、彼女に舞踏だの滑走だのを教えて呉れた人にやつた手紙の中に、ソニャは一八八五年(註三十六歳)の冬に於けるストックホルムの生活を記してゐます。

『Wさん、この前の御親切な御手紙に返事もあげなかつたのを私は非道くいけなかつたと思つてゐます。唯一の申譯は私の時間はこの頃異樣な仕事で埋められて仕舞つてゐると云ふ事で御座います。何をしてゐるのかそれをお話いたしませう。

『先づ第一に私は瑞典語で週間講義を三つ準備しなければなりません。私は只今はアーベル函數の原理に至るまでの代數的序論に就いて講義してゐます。これは獨逸では至る所で最六ケしい問題とせられてゐるものであります。聽講者は非常に澤山で、今まで皆んなを持ち續けてゐます。二三人減つた丈けなのです。

『第二、一寸とした數學上の論文を書きました。これはツイエルシユラースに送つて、Borch

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ardt の雜誌で出版して貰はうと思つてゐます。

『第三、ミッタッハ●レフラーと私は非常に重要な數學上の仕事を初めました。それには二人とも大いなる滿足と成効を期待してるのです。でもこれは秘密ですからどうか默つてゐらして下さい。

『第四、私はある非常に可愛い人と懇意になりました。亞米利加から來たばかりの人で、今は瑞典の一番大きい新聞紙の記者をしてゐるのであります。彼はその新聞紙に寄書して吳れと賴みました。私の友達は誰でも人から誘はれるのでなければ何んにもしない事が分つてゐますから、（多分それはあなたにも氣がついてゐるでせう）先づ私が彼のために二三の小論文を書きました。丁度一つだけ印刷に附せられたところであります。あなたは十分それが理解される丈けの瑞典語を御存じですからお送りいたしませう。

『第五（　　）私が可なり旨い滑り手になつた事が想像出來ますか――迚も六つかしそうですが――先週の末まで殆んど毎日のようにお稽古をしました。私の上手に滑るところをあなたが見る機會のないのが何より殘念であります。進み行く一足ごとにあなたの事を考えてゐます。私は後滑りさへ易々と出來ます。お友達は私がこの六ケしい技術を直ぐ樣覺え込んだのを見て驚いてゐます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『今では氷がなくなつて仕舞ひましたから乗馬を初めました。友達と私は非常にそれを樂しんでゐます。復活祭の休日の間には私達は少くも毎日一時間乘るつもりにしてゐます。私は乘馬だろうが滑走だろうが何でも構はないのです。

『併しこれ計りやありません、四月十五日には私達は盛んなお祝祭をする筈になつてゐます――生粋な瑞典風の遊興でまあ慈善市のようなものらしいのです。貴婦人がめい〳〵變つた風俗で出掛けて、一百人の國民博物館を建てるに就いて基本金を作る爲めに色んな物を賣るのであります。私は勿論ジプシーになる積りです。五人の若い娘が私と一と組みになつて呉れます。而して私達は私達を助けて呉れる五人の青年と一緒に一つの天幕を持つ事になつてゐます。

『Dear Ma m, 私の馬鹿騷ぎをどう思召しめしますか？ 今宵は私の小さい家でストックホルムで初めてのお客をするので御座いますよ。』

同年の春、ホルムグレン教授が重患の間、ソニヤを Mechanical philosophy の臨時教授にしようと云ふ議が起りました。

六月にはマダム●コヴァレスキィは露西亞に向けて出立しました。その夏の一半を病氣のお姉さんとセント●ピエテルブルヒで送り、一半は又モスクワ及びその附近でお友達や自分

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の小さい娘と暮らそうとするのでゐました。

私は兄と一緒に瑞蘭土にゐましたので、其處に私達と一緒になりに來るようにと云つてやりました。彼女は次ぎのような返事をよこしました。

『My Dearest Ann Charlotte――あなたの優しい手紙を受け取つた計りでありす。私がどんなにか直ぐと出掛けて、瑞蘭土であなた達と出會たがつてゐるか、又一緒にアルプスへ登るのをどんなに樂しんでゐるかはあなたには迚も想像がつきません。どんなに愉快だろう、而してどんなに樂しい週間を一緒に送れるだろうかと云ふ事は私にはようよく感じられます。併し不幸な私には多くの理由は私を此處に引き留めます。あとから〳〵と餘計に馬鹿らしい事が御座いますのです。先づ第一に私は八月の一日までは此處に居る約束をいたしました。人間は自分の言葉以上である、と云ふ事が私の主義ではあるのですが、古くからの偏見が中々強いためにいつもこの原論を實行するのが躊躇されるのであります、そんなわけで私は自分の言葉の女主人である事の代りに奴隷になつて仕舞ひました。

『…………あなたのお兄さんは私を知り拔いてゐるし、又よく判斷もして異れますから(私達はこんな事を彼に知らせちやなりませんよ。いゝ氣になり過ぎますからねえ)よく私は非常に感動し易くて、いつも瞬間の衝動で左右せられてゐると申します。自分が婦人の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

權利の代表者として仰がれてゐるストックホルムでは、私は自分の最大いなる絶對的な義務は自分の天才を啓發する事だと常に考えてゐます。然しながら有りのまゝに白狀いたしますと、此處では誰でも新らたな知己には『ファウフィのお母さま』(譯者註ファウフィはソニャの一人娘の名)として紹介される事が私の誇りに一大打擊であります。その言葉からは私には迚も出來そうもないとあなたが思ふような婦人道德が數限りもなく呼び出されるからであります。

『あなたの哀れな友達を現在支配してゐる凡ての是等の勢力は、中々强いのですから少くとも八月の十五日までは私を此處に引き留めて仕舞ひます。たゞ一つ出來そうなのはノルマンディであなたと出會つて、お兄さんと一緒にアベルデーンに行く事なのです。直ぐと返事をお書きなさいな Dear Kind Ann Charlotte あなたは本統に幸福ですねえ。私はあなたが羨ましい。

『私はどんなにでもしてノルマンディで出會はれるようにしませう—— Bien à toi! ソニャ。』

ノルマンディと蘇格蘭土に行こうと云ふソニャの計畫もそのまゝになりました。彼女は夏ぢゆう露西亞に留まつて、私達はストックホルムに於ける十月まで又と逢ひませんでし

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た。

次ぎはマダム●コヴァレフスキイから伯林なる友達の Mr, W, に當てた手紙の一端であります。

『……………私は友達のリジュヤ●エル（譯者註ソニヤの娘を預けてある人であります）と一緒にモスクワの近くにある彼女の小さい領地で暮らしてゐます。私の娘は何處までも愉快に且つ丈夫にしてゐました。私は私達が二度目に出逢ふ時に母と兒のどちらがより幸福であるかは話す事が出來ません。今は二人は別れないのです、少くともこの暫くの間は別れはいたしません。彼女は秋私と一緒にストックホルムに行く事になりましたから。も少しで六つになるのですが、年にしては賢い小さい娘であります。人々は私によく肖てゐると申します。私も自分の子供の時にはこの娘のようだつたろうと思はれます。友達は一人ぎりの妹を失くしたかのように非道くがつかりしてゐます。この家は大層靜かで陰氣たのですから。私達は四人の老處女なる貴婦人に取り圍まれてゐます。その人達は皆んな深い喪服を着けてゐますので、その家は尼寺のようであります。修道院と同じで此處の一番大きな仕事は食べる事なのです。お菓子とか、旨い物とか砂糖漬けの果物とかでのお茶が一日に四度もあつて、それで時間を立てゝゐるのです。けれども私はこの單調の中に少し變化

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を入れやうとして、今日ジュリヤを勸め立てゝ二人つきりで一緒に馬車を驅ける事にしました。私が上手に馭せられるからと受け合つたので、馬丁は家に殘して置きました。全く立派に二人は預定の地に行き着きました。けれども歸り路に馬が物に恐れた爲めに馬車が樹にぶつつかつて轉覆して、私達は溝の中へ落つこちました。

『氣の毒なジュリヤは足を非道く怪我をしました。でも罪人なる私は無事ですみました……………。

第九章

この冬の間、ソニヤの內的生活には感傷的分子が目立つようになりました。社交界にはもうそれ以上に自分を引きつけるものもありませんでした。一生懸命勉强する氣にもなれませんでした。講義には取り分け興味がありませんでした。こんな事情からいつも鬱々としてゐました。自分の運命を案し煩つたり、何にも增して欲しいと思つてゐるものを自分に與えて吳れぬこの世を悲しんだりしました。

彼女は人間は二つの正確な半分づゝに分けられてあるので、たゞ一人愛すべき者は自分の完全な生命として決められてるものでなければならぬ、と云ふ先の說はもう主張しませ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

でした。彼女は一人の智識が他の一人のそれに立ち優つてゐる男と女との合同を力説しました。その二人の協力は彼等の天才の熟した果實を產出する事に就いて是非必要だと云ふのでありました。此思想を自分から實現しようとするのが彼女の一大目的でありました。而してこんな考えから自分の第二の自己たり得べき男を見出そうと夢想しました。瑞典では決してその人にはめぐり合はないだろうと云ふ思ひは、彼女をしてこれほどまでの愉快な希望と期待を以つて來たその國に、稍不滿を感せしめるようになりました。

彼女は數學者ではありましたが、その性格の傾向が全然熱誠な個人本位でありましたから、人生の標的や終末を抽象的な科學に見出す事が出來なかつたのでありました。

彼女がこれ等の思想に就いてミッタッパ・レフラーと議論をすると、レフラーはいつもそれは婦人の弱さから來た結果だと云つてゐました。而して天才はそんな程度まで他人に附隨して行くものではないと申しました。けれども彼女は何處までも自說を固執して一婦人に對する戀愛の裡に彼等の最高の熱望を見出した多くの人々を引いて來ました。それは本統でありました。がそう云ふ人々の大部分は詩人であつて、科學者の中から實例を發見しようとするのは寧ろ困難でありました。それでも彼女は例證などで窮しはしませんでした。事實を欲しがつてゐる所で自分の想像は救助されるでありませう。而して孤獨の感情が凡

ての深奥な性質に取つてどれほどえらい災難かと云ふことや、その人の幸福に就いての最上の夢は他人との最圓滿な親しい調和の裡に住む事であつた人が、その奥の奥の自己にはいつも孤獨な運命にされてゐたかと云ふ事を示めしました。

私は取り分け一八八六年(三十七歲)の春を思ひ出します。春と云ふ時はソニヤに取つては常に堪らないものでありました。醱酵と、生長とざわめいた季節が、彼女を押しつけ、神經質にしたり、氣短かにしたり、感早くさせたりしました。永い日は私達は好きでしたがソニヤをば衰弱致させました。絕えず光りのある事は大分さい先がよさそうだけれども、も〳〵と大地が冷たいのだから何んにもなりはしない、と彼女はよ〳〵こう云つてゐました。夏は幽靈の如く直ぐ消えて仕舞つて、しつかり握り留める譯に行きません。彼女は仕事が出來ませんでした。而して仕事それ自身、ことに科學的著作には價値がない。樂しみにもならなければ、人間の幸福を增す事さへないと主張してゐました。仕事のために人間の靑春を失ふのは馬鹿げた事でありました。それは不幸であります、取り分け女が科學に天才を持つ事は不幸であります、決して幸福の見つからぬ置位に彼女を引き込んで仕舞ふからであります。

ストックホルムでの學期が終了するや否や彼女は大急ぎで大陸に行きました。初め行つ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

たのは巴里で、其處からたつた一本手紙を呉れました。いつに似ずその手紙には年月日がありました。

『ランフェー街百四十二番地

一八八六年六月二十六日

Dear Am Charlotte――私はたつた今あなたの手紙を受け取りました。今まで手紙をあげなかつたのを大變いけなかつたと思つてゐます。全くのところは少し燒餅をやいてゐて、あなたはもう私の事なんぞは何んとも思つてはしないのだと考えてゐたのでした。手紙は今日出し度いので、ほんの二三行、私が遠方に居る時にはあなたの事を忘れてゐるなんて想像するのは大變惡い事です、と云ふこと丈けしか書けません。私はあなたや又あなたのお兄さんをどんなに好いてゐるかと云ふ事を現在ほど思ひ知つた事はなかつたのでした。何んでも樂しい事がある度に、思ひは自然とあなたの方へ向ひます。私は此處では非常に愉快にしてゐるのです。數學者が皆んなして大騷ぎをして呉れますから。それでも矢張り私の生涯にどうしてもなくてならぬものとなつた意地惡の兄妹を戀しがつてゐます。七月の五日までは巴里を離れるわけに行きませんから、博物學者會の開始の間にはクリスチヤ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ニャに居る●は出來ません。私を待ち受けてゝ下さらない？（コペンハーゲンで）そうすれば一緒に行けるかも知れませんわ。直ぐ返事を下さいな。あなたの書物を私はヨナス●リーにやりました。彼は多くの友情を持つてあなたの話をしてゐました。彼はまだあなたの書を讀んだ事がなかつたのでした。彼の考によるとあなたは劇よりかも小說の方にずつと技倆があると云ふのです。私は出立つ前にも一度彼に逢はなければなりません。I embrace you tenderly, あなたにまた逢ひたがつてゐるのですよ。My dear dear Ann Charlotte——

常におん身のものなるソニャ。』

例によつていよ〳〵と云ふ瞬間まで巴里から離れられなかつたので、ソニャがやつとクリスチャニャに着いたのは博物學者會の最終の日でありました。私はソニャが猛烈に元氣がよくなつたり、又どんと沈み込んだりするのに馴れてはゐましたが、此時は今の威勢と、今年の初めあたり、取り分けストックホルムに於ける以前の春の間の鬱し込んだ氣分との對照は非常に目に立ちました。彼女は巴里では重にPoincaréやその他のえらい數學者と一緒に暮らしてゐたのでありました。この交遊が彼女の仕事に對する精力を復活させて、彼女の最大の名譽となり、且つ佛蘭西科學院の第一賞金を獲取させたやうな問題の解式をさせるやうにしたのでありました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

今や科學は、科學のためにこそ生存の價値があると云ふような世界での唯一の物となりました　その他の有らゆる物――自己の幸福、戀愛、自然――は無價値でありま　た。科學的眞理の探究が人世での最美なる問題でありました。個人的の覊絆なくして、凡てが平等と云ふ思想の交換が世界に於ける最も光彩ある事でありました。

創造的氣魄が横溢して、彼女には再び光輝ある時代の一つが出來ました。この時が彼女の美と天才と華々しい生涯の絶頂でありました。

彼女は Havre から三日の船旅をしてクリスチヤニヤには夜つきました。非道く船暈に苦しんでゐたのでしたが、少しも草臥れなくて元氣でありました。明けの朝はとろ〳〵と眠るともう遊びに出掛ける支度をして、今宵を打ち留めとしてずつと續いてゐた或祝祭に行つて見たりしました。

今度は彼女のために多くの演說がなされて、あらゆる最も秀抜な人々から圍繞されました。その時も、例によつて彼女は何處までも愛嬌よく、しとやかにもの優しいので、皆んなの心を引きつけました。

クリスチヤニヤから私達は五六日一緒に旅行をして、テレマルケンを通りました。其處で私達はウルマンの通俗高等學校（ポピユラー・ハイ・スクール）を訪ねました。この學校にはソニヤが熱心な興味を示め

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

してゐたのでありました。

この訪問で、彼女はこんな特種なスカンヂナヸャ人の高等學校に就ての論文を次ぎ〳〵に書くような氣になつたのでありました。それを或露西亞の雜誌に送つたところが大成効で、その雜誌の購讀の數が非常に增しました。

Siljord から私達は徒步で出掛けて或山へ登りました。恐らくソニャがこんな事をしたのはこの探險が初めてゞありませう。彼女は大膽で、素早くつて、且つ疲勞知らずで、その風景を嬉しがつて悅びと生命に滿ちてゐました。彼女は自分一流の調子で『自然』が好きでありました。風景の中に魅力と詩を感じました。けれども非常に近眼なのに女らしいおやつしが半分と、傳習的な女學者らしく見えるのを怖れるのが半分とで眼鏡をかけませんでしたから、周圍の自然の細目（デテール）は見る事が出來ませんでした。それにも拘はらず彼女の著作の或物の中には、風景の非常に精細な繪畫や、ありふれた印象ばかりでなくつてその精神、つまり風景の細目の正確な描出がありとするなら、これは屹度個人的の觀察に依ると云ふよりは抽象的な智識のためでありました。彼女は博物學に造詣が深かつたので、良人を助けて Brehm の『鳥類』の飜譯をもするし、一緒に古生物學や地質學をも研究したのでありました。それに又最著名な同時代の博物學者と個人的の交際が澤山ありました。け

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れども結局は彼女の趣味は非常にその氣分に關係しました。愉快な時にはどんな面白くない景色も美しくなるし、不愉快な時には色彩や線のこの上もなく美しい効果に對しても全つきり目も呉れませんでした。要するに彼女は純正に均勢した形體とか、階調とか、割合、色彩、その他の觀客的狀態とかに關しては正確な觀察力を缺いでゐました。斯んな譯で誰かゞ彼女に同情をしてゐるとか、彼女が特別に嘆美してゐる何かの性質を持つてゐるとかすると、男でも女でもその人を非常にいゝ器量だと思ふのでありませう。同時にこの條件に當たり得ない人は醜いのでありました。概して彼女は美しい人達を讃め立てましたが、たまには友人達もありました。

私は此處で彼女は徹透徹尾美術に就いての凡ての感覺を缺いてゐた事を云はないではゐられません。彼女ほどの非凡な怜悧な人物としてこれは全く驚くべき事であります。巴里に幾年か居てもルーブル博物館に行きませんでした。繪畫も彫刻も、或は建築もその注意を引いた事がありませんでした。

それでも諾威の風景には非常にチャームされてゐたし、その國民も好きでありました。私達は諾威に長い旅を目論んで、詩人アレクサンダー・キーランドを訪ねようと云つてゐました。彼女は幾年かの間その事を待ち設けながらも、突然氣が變はりました。創造の靈

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

氣が湧いて來て、その力に滿ちた聲を拒めなかつたのでありました。私達が丁度諾威のある湖を渡つてゐた時でありました。その時直ちに仕事に着手しなければならないような思想に捕えられました。それ故彼女は私と別れてクリスチヤニヤ行きの他の滊船に乘つて、其處から瑞典に行きました。

私は彼女を拒む事も咎める事も出來ませんでした。でもその事は私には大失望でありました。私は偶然路連れになつた一人の人と旅を續けて、キーランドをも訪ねて歸路には東の方を取りました。而してある通俗高等學校の祝祭に列席しました。ソニヤが氣乘りがしなくなつてる以上、皆んなこんな事は屹度私が面白かつた程彼女には面白くはなかつたでありませう。

私の友達にこんな突然の變化の起るのは度々でありました。彼女はその周圍からすつかり引きつけられて會の事とか旅行の事とかを大元氣で話し込んでるかも知れません。その時仕事の發作が起つて來ると彼女はもの靜かになつて來ます。眼がきよろつきます。その返事は心が此處にない事を現はします。彼女は欠乞をするでありませう。するとどう勸め立てゝも、先に約束があつても、その他どんな事があつたつて彼女を引き留める事は出來ませんでした。

私達は私の兄やその家族の者と共に彼女が暫く身を落ちつけてゐた所で、近いうちに一緒に落ち合ふ筈になつてゐたのでありました。けれども私がまだ其處に行き着かぬうちにソニヤは露西亞に在る姉さんのところへ電報で呼び寄せられました。お姉さんは新らたに非道く惡くなつたのでありました。

九月に歸つた時には一緒にその小さい娘（その時八歲）を連れて來ました。而して始めてストツクホルムに自分の部屋と云ふものを定めました。

彼女は下宿住ひに飽き〳〵したのでありました。家庭の快樂とか、食物とか器具とかに何處までも無頓着ではあつても、獨立してゐ度い、而してその時代の專制な女主人であり度い希望は十分あつたのでありました。それに彼女は他人と一緒に生活する上には免がれ難い多くの束縛に、もう服從してはゐられなくなりました。そんな譯で友達の世話で幾つかの部屋を借り切つて、子供の世話も一緒に見てくれる女中頭を置いたり、幾らかの調度類を買つたりしました。その他のものは露西亞から送つて來ました。ほんの一時の間に合せと云ふ風なこの家庭さへ、瞬間のうちに破れる事になつてゐたのであります。

露西亞から來た客間の調度はすつかり特徵を發揮してをりました。それは彼女の兩親の家から屆いたので悉く古い邸宅の壯大と華麗を思ひ起させました。それはある大きな部屋

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を埋めました。一つの壁一杯に場所を取るやうな寢椅子(ソッファー)だの隅寢椅子(コーナーソッファー)だの、深い安樂椅子だので、みんなマホガニーの立派な彫物をしたり、まつ赤なダマスコ絹で張つたりしてありました。でも織物が其處此處裂けたり、詰め物が痛んだり、バネが一部分損んじたりしてゐました。ソニヤは皆んなそれを直したり、調度を張り更えたりしたがつてゐました。けれど痛んだ調度などは大した事ではないと云ふ露西亞氣質が半分と、半分はソニヤがストックホルムに眞から落ち付く氣になれないのが原因でありました。彼女にはストックホルムは旅中の一停車場に過ぎなかつたのですから、其處で何んにも金使ひをしようとは思ひませんでした。

時に依つて機嫌のいゝ時には、彼女は何かする氣になつて、手縫ひの刺繍で部屋を裝飾したりして慰みました。一日私に次ぎのような手紙を寄越しました。――

『Ann Charlotte,―― 昨夜はあなたは批評家達が、あなたの事を評して惡いもの、醜いものには明るい眼を持つてはゐるが、善いもの美しいものには持つてゐない、と主張するは本統だと云ふの確かな證據を私に見せて呉れました。私の愛する古椅子の一つにある有らゆるしみ、あらゆる裂目は、たとへ其處のところを上被ひで隱してあつたつて、屹度あなたから發見されるに極つてゐます。でも搖椅子に拵つた美事な新らしい上被ひをば、

一と晩ぢゆう幾らあなたから見て貰はうとしたか知れないけれども、一度だつて目も呉れせせんでしたもの。――あなたの

ソニヤ。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

知識の樹の果（研究）――小倉清三郎

アダムとエバとが神の戒めを破つて、知識の樹の果を採つて食つたがために、神の怒に觸れて、エデンの園から追ひ出された話は、隨分名高い話である。此の話はキリスト教會の多くの人々に、まことの事柄と考へられた時代があつた。キリスト教の思想の上に甚だ重要な影響を與へた。人間の始祖が神の戒を破り、神に對して罪を犯した以來、人間には罪惡の傾向が出來てしまつた。どうしても其れから逃れ出づることが出來なくなつてしまつたと云ふやうな考も出て來た、神は色々に骨を折つて、人間を罪から逃がれさせやうとした、けれども駄目であつた、ついに神は其の獨子なるキリストを人間のなかに降して、之れをすべての人間の身代りとならしめた。キリストはすべての人間の罪を一身に引き受け、其の身代りとなり、十字架につけられた、其の血は人間の罪をあらひ、人間をして罪をのがれ得るものたらしめるのだと云ふやうな考も出て來た。キリスト教を通じて、中世近世の歐洲人の文學、藝術、思想、生活の上に、かゝる考がどれ程影響を與へたか解らな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

い。

私は今、此のエデン物語に就ての、私の研究と解釋とを語らうと思ふのである。私の解釋に從へば、此の物語は、性的生活問題、婦人問題、勞働問題、生計問題、生死問題等に就ての一個の解釋として生れて來た思想なのである。其の解釋の鍵となつたのは性的生活の中心的事實であつた。知識の樹の果を食つたと云ふ事は、性的生活の起原とせられて居るのである。

此の物語は創世記の初めの方にある。創世記は舊約聖書の初めにある。其れが五十章に別たれて居る。エデン物語は其の第二章第四節から、第三章の終りまでに載せてある。

第二章……四エホバ神地と天を造りたまへる日に天地の創造られたる其由來は是なり 六野の諸の灌木は未だ地にあらず野の諸の草蔬は未生ざりき其はエホバ神雨を地に降せたまはず亦土地を耕す人なかりければなり 六霧地より上りて土地の面を遍く潤したり 七エホバ神土の塵を以て人を造り生氣を其鼻に嘘入たまへり人即ち生靈となりぬ 八エホバ神エデンの東の方に園を設て其造りし人を其處に置たまへり 九エホバ神

観に美麗く食ふに善き各種の樹を土地より生せしめ又園の中に生命の樹および善悪を知の樹を生せしめ給へり 一〇河エデンより出て園を潤し彼處より分れて四の源となれり 一一其第一の名はピソンといふ是は金あるハビラの全地を繞る者なり 一二其地の金は善し又ブドラクと碧玉彼處にあり 一三第二の河の名はギホンといふ是はクシの全地を繞る者なり 一四第三の河の名はヒデケルといふ是はアッスリヤの東に流るゝものなら第四の河はユフラテなり 一五エホバ神其人を挈て彼をエデンの園に置き之を理め之を守らしめ給へり 一六エホバ神其人に命じて言たまひけるは園の各種の樹の果は汝意のまゝに食ふことを得 一七然ど善悪を知の樹は汝その果を食ふべからず汝之を食ふ日には必ず死べければなり 一八エホバ神言たまひけるは人獨なるは善らず我彼に適ふ助者を彼のために造らんと 一九エホバ神土を以て野の諸の獸と天空の諸の鳥を造りたまひてアダムの之を何と名るかを見んとて之を彼の所に率ゐいたりたまへりアダムが生物に名けたる所は皆其名となりぬ 二〇アダム諸の家畜と天空の鳥と野の諸の獸に名を與へたり然どアダムには之に適ふ助者きえざりき 二一是に於てエホバ神アダムを熟く睡らしめ睡りし時其肋骨の一を取り肉をもて其處を塡塞たまへり 二二エホバ神アダムより取たる肋骨を以て女を成り之をアダムの所に携きたりたまへり 二三アダム言ける

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は此こそわが骨の骨わが肉の肉なれ此は男より取たる者なれば之を女に名くべしと
二四是故に人は其父母を離れて其妻に好合ひ二人一體となるべし 二五アダムと其妻は
二人倶に裸體にして愧ざりき。

第三章……一エホバ神の造りたまひし野の生物の中に蛇最も狡猾し蛇婦に言ひける
は神眞に汝等園の諸の樹の果は食ふべからずと言たまひしや 二婦蛇に言けるは我等園
の樹の果を食ふことを得 三然ど園の中央に在樹の果實をば神汝等之を食べからず又之
に捫るべからず恐は汝等死んと言給へり 四蛇婦に言けるは汝等必らず死ぬ事あらじ 五
神汝等が之を食ふ日には汝等の目開け汝等神の如くなりて善惡を知に至るを知り給ふ
なりと 六婦樹を見ば食に善く目に美麗しく且智惠からんが爲に慕はしき樹なるにより
て遂に其果實を取て食ひ亦之を已も偕なる夫に與へければ彼食へり 七是において彼等
の目倶に開て彼等其裸體なるを知り乃ち無花果家の葉を綴て裳を作れり 八彼等園の中
に日の清涼き時分歩みたまふエホバ神の聲を聞しかばアダムと其妻即ちエホバ神の面
を避て園の樹の間に身を匿せり 九エホバ神アダムを召て之に言たまひけるは汝は何處
にをるや 一〇彼いひけるは我園の中に汝の聲を聞き裸體なるによりて懼れて身を匿せ
りと 一一エホバ言たまひけるは誰が汝の裸なるを汝に告しや汝は我が汝に食ふなかれ

と命じたる樹の果を食ひたりしや 一二アダム言けるは汝が與へて我と偕ならしめたま
ひし婦彼其樹の果實を我にあたへたれば我食へりと 一三ヱホバ神婦に言たまひけるは
汝がなしたる此事は何ぞや婦言けるは蛇我を誘惑して我食へりと 一四ヱホバ神蛇に言
たまひけるは汝是を爲たるに因て汝は諸の家畜と野の諸の獸よりも勝りて詛はる汝は
腹行て一生の間塵を食ふべし 一五又我汝と婦の間および汝の苗裔と婦の苗裔の間に怨
恨を置ん彼は汝の頭を碎き汝は彼の踵を碎かん 一六又婦に言たまひけるは我大に汝の
懷姙の劬勞を增すべし汝は苦みて子を產ん又汝は夫をしたひ彼は汝を治めん 一七又ア
ダムに言たまひけるは汝その妻の言を聽て我が汝に命じて食ふべからずと言たる樹の
果を食ひしに緣て土は汝のために詛はる汝は一生のあひだ勞苦て其より食を得ん 一八
土は荊棘と薊とを汝のために生ずべしまた汝は野の草蔬を食ふべし 一九汝は面に汗し
て食物を食ひ終に土に歸らん其は其中より汝は取れたればなり汝は塵に歸るべきなり
と 二〇アダム其妻の名をヱバと名けたり其は彼は群の生の母なればなり 二一ヱホバ
神アダムと其妻のために皮衣を作りて彼等に衣せたまへり 二二ヱホバ神曰たまひける
は視よ夫人我等の一の如くなりて善惡を知る然ば恐くは彼其手を舒べ生命の樹の果實
をも取りて食ひ無限生んと 二三ヱホバ神彼をヱデンの園よりいだし其取て造られたる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ところの土を耕さしめたまへり 二四斯神其人を逐出しエデンの園の東にケルビムと自から旋轉る焰の劍を置て生命の樹の途を保守りたまふ。

知識の樹の果を食つたことは、アダムとエバとの生活に於て、實に重大なる事件であつた。其れ以前の彼等は、神がエデンの園の中に生せしめて置いてくれた見るに美しく、食ふによき諸の樹の果を採つて食ひさへすれば、土地を耕す事も要らず、額に汗を流して働くことも要らなかつた。二人は全く裸であつて、其れを互に氣まりが惡いとも思はなかつた。然るに彼等が知識の樹の果を食ふと共に、彼等は今迄何とも思はなかつた自分等の裸體である事に氣がついてそれを互に氣まり惡く思つた。神の罰として彼等は最早骨を折ることなしに生活を續けて行く事ができなくなつた。神の罰にして女は懷姙の苦痛と分娩の苦痛とを嘗めなければならなくなつた。また神の罰として彼女は一生の間、男を慕はずには居られなくなつた。一生の間、男に支配されねばならない樣になつた。其の上、彼等は必らず死なねばならないものとなつた、非常な變化が彼等の生活の上には現れて來た。人間の生活は苦しい、難な、心細いものとなつて仕まつた。其れがエデン物語の我等に語る所のものである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

何處に於て斯る思想が生れたのであるか、如何なる人に依つて斯る思想が生み出されたのであるかそれは解つても解らないでも、爰に一つ著しく目に附いて來る事がある。それは此のエデン物語に現はれる思想の有する調子である。此の物語を生みいだした思想家の態度である。人間の生活に於ける幾つかの根本的事實に對する此の思想家の態度である。懷妊の苦痛も、分娩の苦痛も、戀愛も、女の服從的態度も、男の勞作も、人間の死も、皆、神の罰として見られて居、嫌なものとして見られて居る。是等の事柄は實に人間の生活に於ける根本的の事實である。生む事、愛する事、働く事、生きて行く事、死ぬる事などを除いて、人間の生活に何れ丈けの根本的のものが殘るであらうか。是等の重大な現象は、皆な嫌な神の罪として見られて居るのである。此の思想家の態度は實に暗い態度である。其の生み出した思想の調子は、實に悲しい調子である。

聖書學者の研究に依れば、現在の創世記は元と個々に存在した三の記錄を材料として、編纂せられたものである。其れ等の記錄はその用ゐて居る言葉や。文體や、その書き表はして居る思想の調子などに據つて、各々其特色を表はして居る。學者は此等の記錄の一をJと稱び、一をEと稱び、一をPと稱んで居る。エデン物語はJから取られたものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

エデン物語の前に載せてある別の天地創造説、則ち創世紀第一章第一節から、第二章第三節までに記されて居る天地創造説は、Pから取られたものである。Pの天地創造説の中にも、人間の創造と人間に關する樣々の事柄の起源とが書かれてある。其處に表はされた思想の調子は、エデン物語に於けるものとは大變に違つてゐる。

第二章……二六神言給けるは我儕に象り我儕の像の如くに我儕人を造り之に海の魚に天空の鳥と家畜と全地と地に匍ふ所の諸の昆蟲を治めんも 二七神其像の如くに人に創造たまへり即ち神の像の如くに之を創造之を男と女に創造たまへり 二八神彼等を祝し神彼等に言たまひけるは生よ繁殖よ地に滿盈よ之を從服せよ又海の魚と天空の鳥を地に動く所の諸の生物を治めよ 二九神言たまひけるは視よ我全地の面にある實蓏のなる諸の草蔬と核する木菓の結る諸の樹とを汝等に與ふ此は汝らの糧となるべし 三〇又地の諸の獸に天空の諸の鳥および地に匍ふ諸の物等凡そ生命ある者には我食物として諸の青き草を與ふと則ち斯なりぬ 三一神其造りたる諸の物を視たまひけるに甚だ善りき夕あり朝ありき是六日なり。

此の天地創造説にエデン物語とを較べて見ると、其の調子の如何にも違つてゐることが見らるゝであらう。『神彼等を祝し、神彼等に言ひたまひけるに、生よ、繁殖よ、地に滿盈よ、之を服從せよ、又海の魚と天空の鳥と地に動く所の諸の生物を治めよ』。何といふ活々した調子であらう。何といふ元氣に滿ちた調子であらう。『神言たまひけには、見よ我全地の面にある實蓏のなる諸の草蔬に、核ある木。菓の結ぶ諸の樹とを汝等に與ふ。これは汝らの糧となるべし』。地上に於ける人間の生活は、惠まれたる生活と見られて居る。初めから神がかくのく如く望み給ふて造り出されたものと見られて居る。『神其造りたる諸の物を視たまひけるに甚だ善りき。夕あり朝ありき。是六日なり』。人間が子を生むのも、自然を征服するのも、草を糧とするのも、草を糧とするもの、皆な神が最初から望んだ事と見られて居る。其のことが實現せられた時に、神が甚だ滿足を感じたものと見られて居る。『土は汝のために詛はる。汝の一生のあひだ勞苦て、其れより食を得ん。土は荊棘と薊とを汝のために出ずべし。また汝は野の草蔬を食ふべし』と云ふエデン物語の調子と、此の天地創造説の調子とを較べて見れば、何といふ大きな相違であらう。

妊娠と分娩との苦痛は、エデン物語に表はれされて居るやうに嫌なものであらうか。戀愛はそれ程。呪ふ可きものであらうか。女の服從的態度はそれ程嫌はる可きものであらうか。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

勞働はそれ程嫌なものであらうか。私共は此の物語の中心に進んでゆく前に、此れ等の問題に就て一應考へて置く必要がある。

（つゞく）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

昭和44年9月30日発行　【第6回配本】

青鞜第5巻　1月号

編著者	平塚らいてう
発行者	藤原正人
発行所	(株)明治文献
印刷	江明印刷
製本	(株)三高製本

【分売はいたしません】　定価 4,500円

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
PL
756
S45
V.5
no. 1

University of Colorado at Bould[redacted]
[redacted] 6746482

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER